# Ⅶ　新里愛宕裏遺跡

## 1　遺跡の立地

新里愛宕裏遺跡は、岩手県遠野市綾織町新里30地割に所在し、北緯39度19分26秒、東経141度30分46秒に位置する。遺跡はJR遠野駅から南西に約1.8kmに位置し、猿ヶ石川を北に望む標高280m前後の中位段丘上に立地する。調査前の状況は雑木林である。北側調査区東側は、鉄塔建設に伴う攪乱を大きく受けているため、遺構の大半が削平されている。

## 2　基本層序

南側調査区から北側調査区にかけて緩い斜面が広がっており、土層の堆積が一様でないため、南側調査区北西壁、北側調査区中央部、北側調査区北東部壁面の３か所の土層を確認した。南側調査区北西部にⅢ層が見られないが、いずれの地点も、この堆積状況以外には差が見られなかった。Ⅰ層土は、部分的に細かい砂粒がラミナ堆積しており、上層からⅡ層付近まで断続的に確認した。Ⅱ～Ⅲ層土中からは、縄文時代中期と縄文時代後期の土器、弥生時代初頭の土器が混在してしているが、出土量は少ない。Ⅳ層は、Ⅲ層からⅤ層への漸移層で、特に南側調査区から、北側調査区中央部まで広がっており、縄文時代後期の土器や焼土を多く含んでいる。Ⅴ層面は遺構検出面である。

Ⅰ層　黒褐色土(現表土、層厚10～60cm。小砂礫が多く混入する。)

Ⅱ層　黒褐色(層厚５～40cm。花崗岩・砂粒のラミナ層が多く入る。)

Ⅲ層　黒色土(層厚５～45cm。縄文時代中期～後期の遺物を多く含む。北側調査区斜面下以北には堆積していない。)

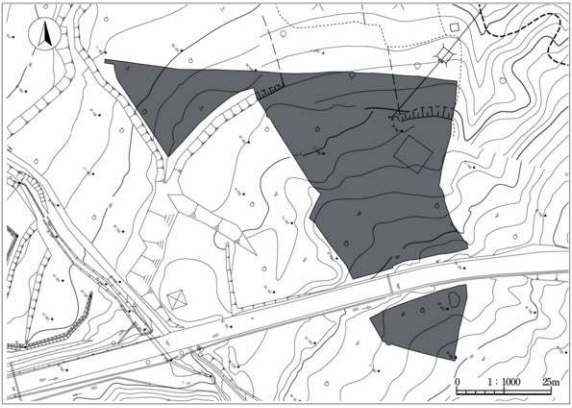
Ⅳ層　黒褐色土(層厚５～35cm。地山との漸移層。)

Ⅴ層　黄褐色土(層厚不明。遺構検出面。)

## 3　自然流路

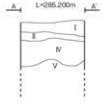
南側調査区東壁から北側調査区北側へと延びる自然流路を確認している。規模は、全長約65m、河川幅最大８mを測り、底面には水流による砂礫層の堆積が確認できた。出土する遺物は縄文時代中期以降の遺物で、検出面・１層土上位より出土している。２層目以降からは遺物が出土していない。流路の形成時期については、流路中段部より採取した炭化材の分析結果から、5,820±30の暦年較正年代が出ており、縄文時代前期前葉頃までさかのぼるとみられる。また、遺物の出土状況からも縄文時代後期にはすでに埋没していた可能性が高い。下流にあたる、攪乱により大きく削平されている流路の周辺には、円形の巨礫が多く分布し、渓流のような流れの激しい河川であったと想定される。

1:50000　遠野・土淵
大迫・人首

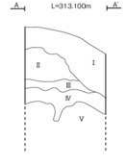



第１図　遺跡位置図

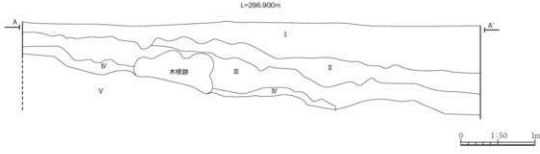
①北側調査区北東部壁面

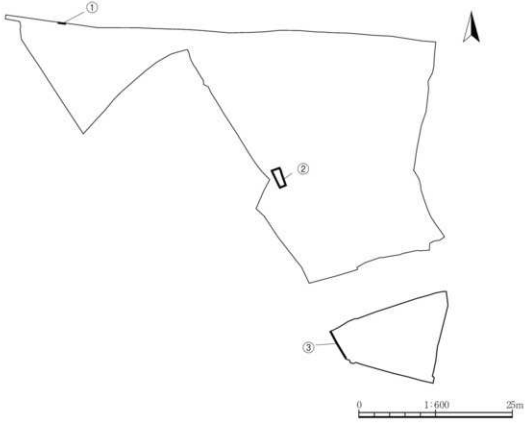



②北側調査区中央部

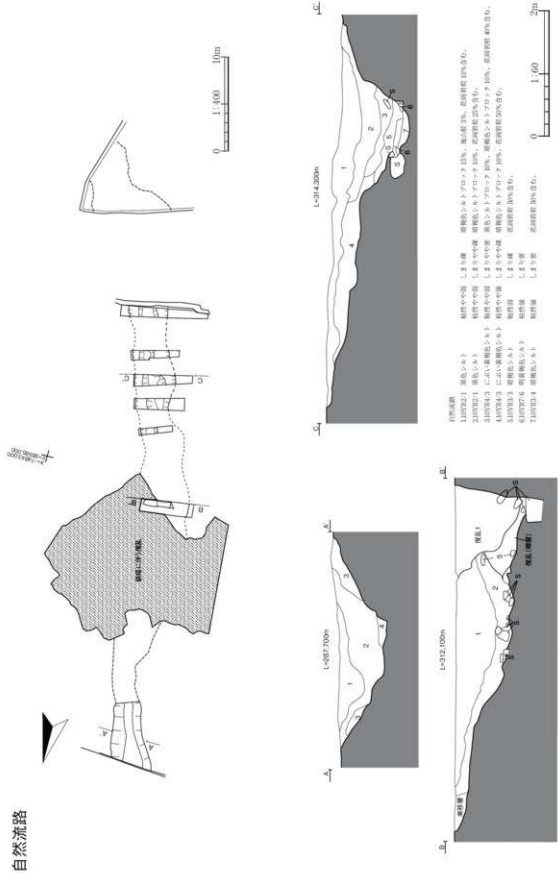



③南側調査区北西壁

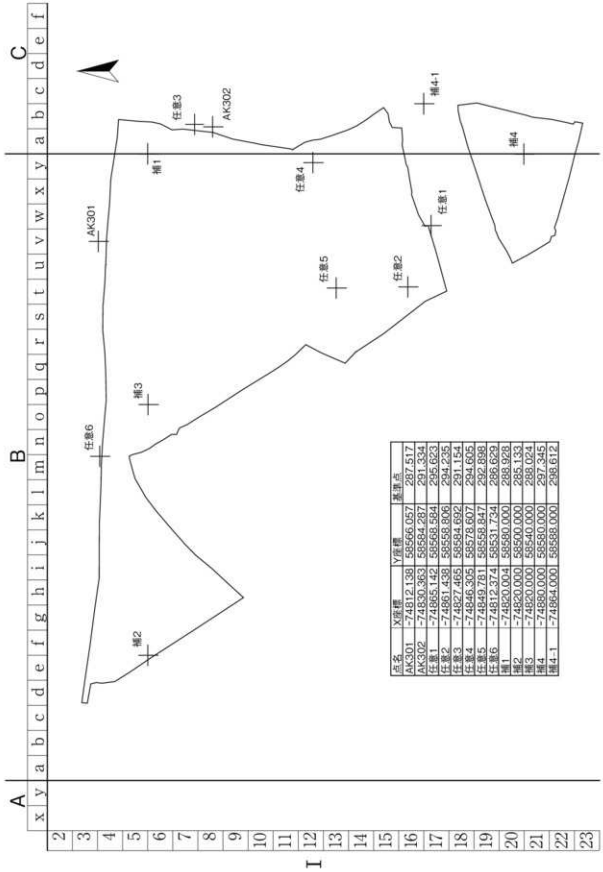



第２図　基本層序模式図

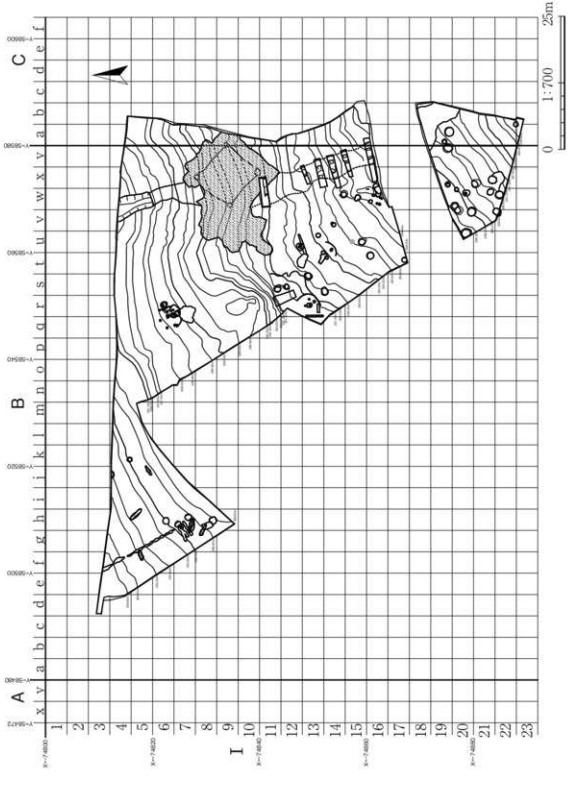



第３図　自然流路断面図

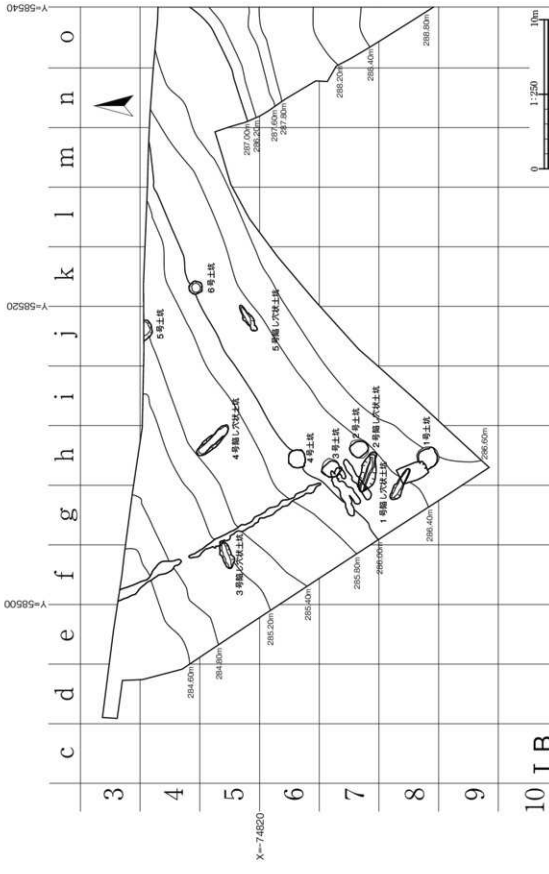



| 点名 | X座標 | Y座標 | 基準点 |
|---|---|---|---|
| AK301 | -74812.138 | 58566.057 | 287.517 |
| AK302 | -74830.963 | 58584.287 | 291.334 |
| 任意1 | -74865.142 | 58568.584 | 295.623 |
| 任意2 | -74861.438 | 58558.806 | 294.235 |
| 任意3 | -74824.465 | 58584.692 | 291.194 |
| 任意4 | -74835.575 | 58573.697 | 294.695 |
| 任意5 | -74849.781 | 58558.847 | 292.898 |
| 任意6 | -74812.374 | 58531.734 | 286.629 |
| 補1 | -74820.004 | 58580.000 | 288.928 |
| 補2 | -74820.000 | 58500.000 | 285.133 |
| 補3 | -74820.000 | 58540.000 | 288.024 |
| 補4 | -74880.000 | 58580.000 | 297.345 |
| 補4-1 | -74864.000 | 58588.000 | 298.612 |

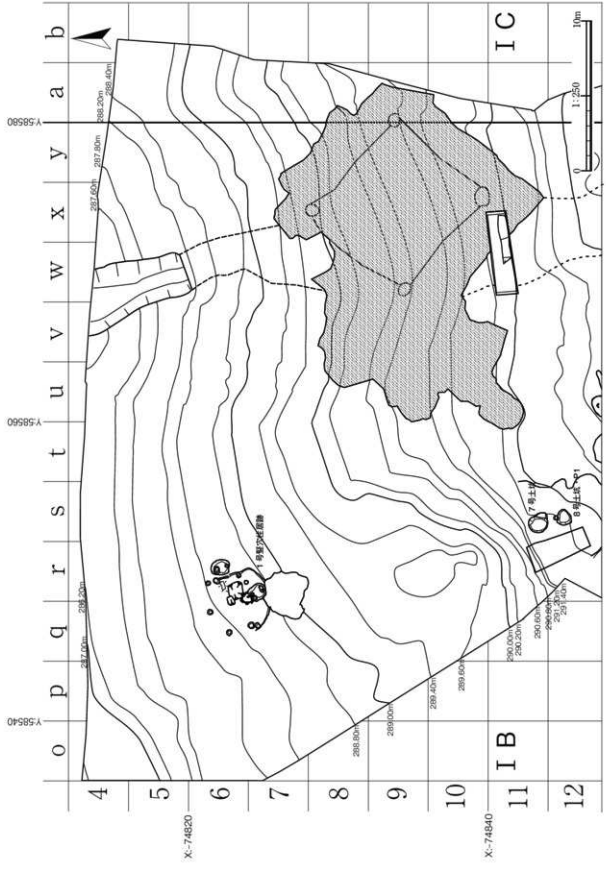
第４図　基準点配置図



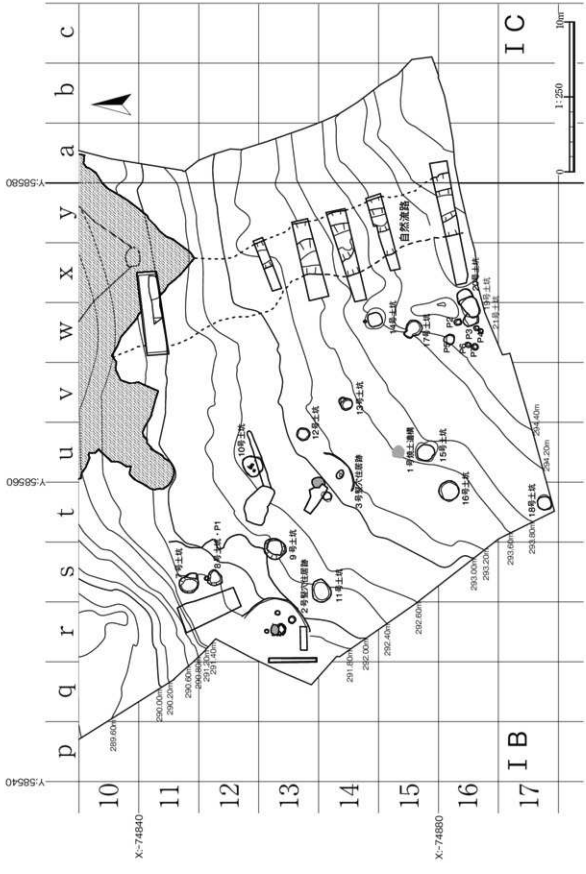

第５図　遺構配置図（１）


c d e f g h i j k l m n o
3 4 5 6 7 8 9 10
Y=58540
Y=58520
Y=58500
X=74820
X=74840
I B
0 1:250 10m
1号土坑
2号土坑
3号土坑
4号土坑
5号土坑
6号土坑
1号縦しの穴土坑
2号縦しの穴土坑
3号縦しの穴土坑
4号縦しの穴土坑
5号縦しの穴土坑
286.60m
286.40m
286.50m
286.00m
285.50m
285.40m
285.20m
284.80m
284.60m
289.20m
289.40m
289.60m
287.00m
286.20m
287.60m
287.80m

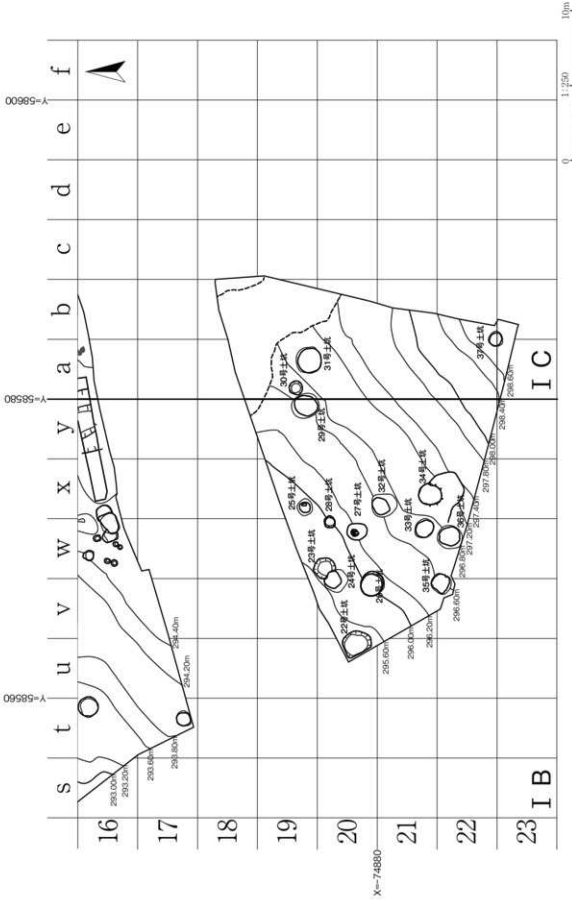
第６図　遺構配置図（２）


o p q r s t u v w x y a b
Y:-58540
Y:-58560
Y:-58580
4 5 6 7 8 9 10 11 12
X:-74820
X:-74840
287.00m
288.20m
287.40m
287.80m
288.40m
288.80m
289.00m
289.40m
289.60m
290.00m
290.20m
290.60m
290.80m
291.20m
291.40m
1号竪穴式住居跡
7号土坑
8号土坑
I B
I C
0
1:250
10m

第７図　遺構配置図(３)


Y-58540
Y-58560
Y-58580
X-74840
X-74880
10
11
12
13
14
15
16
17
p
q
r
s
t
u
v
w
x
y
a
b
c
I B
I C
1:250
0
10m
1号自然流路
2号自然流路
3号自然流路
9号土坑
10号土坑
11号土坑
12号土坑
13号土坑
14号土坑
15号土坑
16号土坑
17号土坑
18号土坑
19号土坑
20号土坑
21号土坑
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
289.60m
290.00m
290.20m
290.60m
290.80m
291.00m
291.40m
291.80m
292.00m
292.40m
292.60m
293.00m
293.20m
293.60m
293.80m
294.00m
294.20m

第８図　遺構配置図（４）


Y=-56600
Y=-56580
Y=-56560
X=-74880
s t u v w x y a b c d e f
16 17 18 19 20 21 22 23
I B
I C
293.00m
293.20m
293.60m
293.80m
294.20m
294.40m
295.60m
296.00m
296.20m
296.60m
296.80m
297.00m
297.20m
297.60m
298.00m
298.20m
298.60m
25号土坑
26号土坑
27号土坑
28号土坑
29号土坑
30号土坑
31号土坑
32号土坑
33号土坑
34号土坑
35号土坑
36号土坑
37号土坑
0
1:250
10m

第９図　遺構配置図（５）

## 4　平成26年度調査で検出された遺構と遺物

今回の調査は、遺跡範囲内及びその周辺において、釜石花巻道路建設事業に先行して岩手県教育委員会生涯学習文化課が試掘調査を実施し、埋蔵文化財が確認された範囲のうち、取り扱いの協議を経て記録保存の対象となった区域の調査を実施したものである。今回の調査面積は3000㎡であり、検出された遺構は、竪穴住居跡３棟、土坑37基、陥し穴状土坑５基、焼土遺構１基、炉跡１基である。出土遺物は縄文土器・弥生土器(大コンテナ７箱分)、石器(大コンテナ３箱分)、斧型土製品、土偶、動物型土製品である。

### (1)竪穴住居跡

**1号竪穴住居跡**(第10・11図、写真図版８～11)

〈位置〉北側調査区、ⅠＢ６q～ｒ・７q～ｐに位置している。

〈検出状況〉Ⅳ層から炭化物粒と焼土ブロックを含む、黒褐色の円形プランを確認した。これを掘り下げたところ、複式炉や柱穴といった床面施設を確認したため、竪穴住居跡と判断した。

〈重複関係〉なし。

〈形状・規模〉平面形は、遺構の一部が削平されており、全容は不明であるが、円形とみられる。開口部は(4.44)×(4.40)m、底面(4.35)×(4.14)m、深さ0.20mを測る。

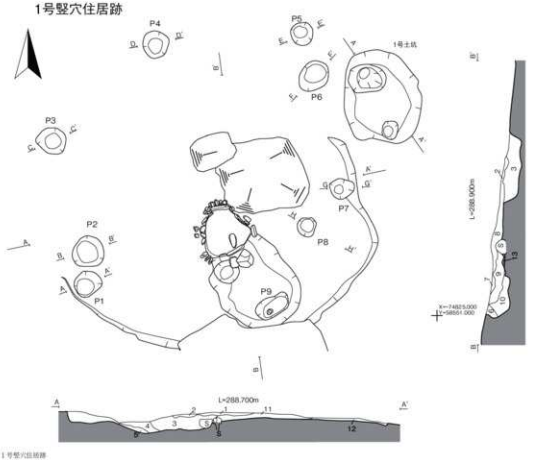
〈堆積土〉13層からなる。黒褐色粘質シルト、明黄褐色粘質シルトが主体である。埋土表層に炭化物が多く集中している。

〈床面施設〉複式炉１基、土坑１基、柱穴９個を確認した。複式炉は、石組部・前庭部による２段構造となっている。石囲部の規模は1.82×0.98mで、台形状に掘られている。石囲部の炉石は、５～25cm程度の扁平型の自然石を使用している。これらの石を縦に差し込むように設置し、この周りを固定するように黒褐色シルトで埋めている。石囲部底面には被熱による硬化面は見られなかったが、炉石の一部に被熱による色調変成が見られたため、炉として機能していたとみられる。前庭部は楕円形で0.98×0.70mを測る。前庭部内では被熱した痕跡は見られず、炭化物と焼土ブロックを含有した堆積土を底面直上から確認している。住居南壁面に接する地点から楕円形の梯子跡と見られる柱穴状土坑を確認した。この柱穴状土坑は、底面に小さな副穴を持つ。

土坑は、竪穴住居跡東壁とみられる付近から検出した。土坑内には柱穴状土坑が２個確認できた。周辺に焼土や炭化物を含む堆積土を確認しており、住居の建替えを行った際の炉跡と想定したが、炉石の抜取痕や、土坑内部に被熱痕跡が見られなかったため、土坑跡であると判断した。柱穴は、複式炉前庭部の副穴を含め９個検出しており、P2・P3・P6・P7の５個が主柱穴とみられる。P1・P5にも柱根跡が見られるため、住居内土坑の位置を加味すると、住居の拡張を行った可能性が高い。

〈壁・底面〉壁は南半分が残存するのみで、外傾している。北半分は、近代の造成により大きく削平されたものと判断した。床面は概ね平坦であり、東側から西側に向かってやや斜面になっている。硬化面は見られなかった。また、複式炉の西側の一部が床面よりも１段低くなっている。

〈遺物〉縄文土器632.44ｇが出土している。縄文土器４点を掲載した。２は複式炉前庭部内にあるP9から出土した。地文に複節縄文を施文し、沈線によるU字状・楕円形状の区画文を施文する。区画文外は磨消を施す。３も２と同様な区画文を施文する。波状口縁とみられる。１は鰭状の隆帯を持ち、口唇部へと続く。沈線によるU字状・楕円形状の区画文を施文す。いずれもⅠ群に相当する。４は




1号竪穴住居跡

1.10YR3/2-1　黒色粘質シルト　粘性やや弱　しまりややゆ　炭化物粒1％含む。
2.10YR3/2　黒褐色粘質シルト　粘性やや弱　しまりやゆ極　炭化物粒1％含む。
3.10YR4/2　灰黄褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりゆ　地山ブロック5％、地山土粒15％含む。
4.10YR3/2　黒褐色粘質シルト　粘性やや弱　しまりやゆ　地土ブロック20％、地山土粒3％含む。
5.10YR6/6　明黄褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや極　灰黄褐色土5％含む。
6.10YR6/8　明黄褐色粘質シルト　粘性中　しまりやゆ　混合なし
7.10YR3/1　黒褐色粘質シルト　粘性やや弱　しまりやゆ　地山土粒1％含む。
8.10YR3.5/1　黒色粘質シルト　粘性やや弱　しまりやゆ　炭化物粒1％含む。
9.10YR6/6　明黄褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやゆ　黒褐色土10％含む。
10.10YR3/2　黒褐色粘質シルト　粘性やや弱　しまりやゆ　炭化物粒1％含む。
11.10YR3/2　黒褐色粘質シルト　粘性やゆ弱　しまりやゆ　地山土粒3％含む。
12.10YR3/2　黒褐色粘質シルト　粘性中　しまりゆ　地山土粒10％含む。
13.5Y3/4-6　赤褐色粘質シルト

柱穴

P1・P2

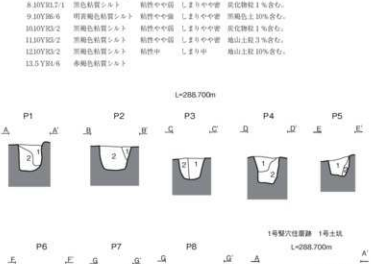
1.10Y3/5-6　黄褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやゆ密
地山ブロック5％含む。
2.10Y3/4-2　灰黄褐色粘質シルト　粘性やゆ強　しまりゆ
地山土粒30％含む。

P3・P4

1.10Y3/4-2　灰黄褐色粘質シルト　粘性やゆ強　しまりゆ
炭化物粒5％含む。
2.10Y3/5-6　黄褐色粘質シルト　粘性ゆ　しまりやゆ密
地山土粒30％含む。

P5～P8

1.10Y3/5-6　黄褐色粘質シルト　粘性ゆ　しまりやゆ密
地山土粒30％含む。
2.10Y3/5-6　黄褐色粘質シルト　粘性やゆ強　しまりやゆ密
地山ブロック5％含む。

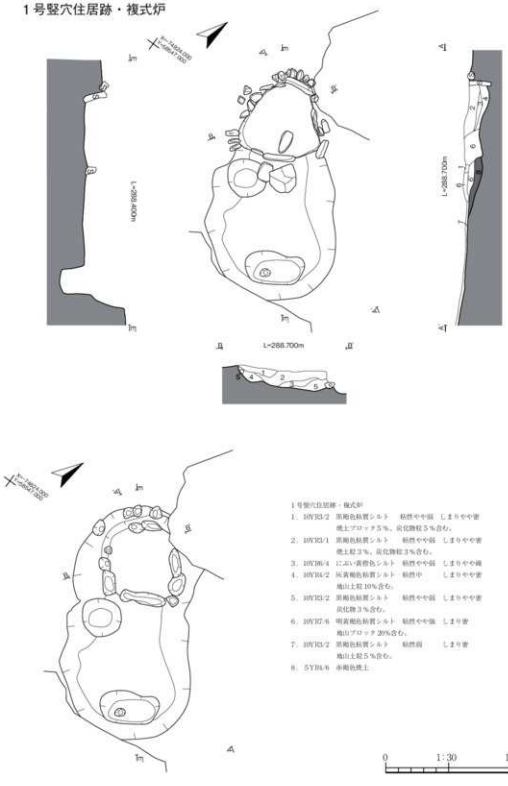



1号竪穴住居跡・1号土坑

1.10YR3/3　暗褐色粘質シルト　粘性ゆ　しまりやゆ密
地山ブロック3％、地山土粒10％含む。
2.10YR4/2　灰黄褐色粘質シルト　粘性やゆ弱　しまりやゆ密
地山土粒3％含む。
3.10YR3/2　暗褐色粘質シルト　粘性やゆ弱　しまりやゆ密
黒色土3％、地山ブロック10％含む。
4.10YR3/1　黒褐色粘質シルト　粘性やゆ強　しまりやゆ極
地山ブロック3％含む。
5.10YR6/4　褐色粘質シルト　粘性やゆ強　しまりゆ
灰黄褐色土3％含む。

0　1:50　2m

第10図　1号竪穴住居跡




**第11図　1号竪穴住居跡・複式炉**

高台付土器の一部であり、縄文による施文が僅かながら確認できたが、縄文原体は、明確に識別できなかった。

〈時期〉遺構検出面や炉、出土遺物から、縄文時代中期後葉であると判断した。

**２号竪穴住居跡**（第12図、写真図版11～14）

〈位置〉北側調査区、ⅠB13r に位置している。

〈検出状況〉基本土層Ⅲ～Ⅳ層に土器を多く含んだ遺物包含層を掘り下げたところ、東側壁面の立ち上がりを確認した。精査の結果、床面施設等を確認できたため、竪穴住居跡であると判断した。

〈重複関係〉なし。

〈形状・規模〉竪穴住居跡の西側の壁面は確認できなかったが、壁面の残存部から平面形は円形であると推測した。開口部は(4.56)×(4.51)m、床面(4.35)×(4.32)m、深さ0.35mを測る。

〈堆積土〉７層からなる。黒色粘質シルト、黒褐色粘質シルトが主体である。中央の地床炉直上から、人為的に遺棄されたとみられる焼土層を確認した。一部を除き、自然堆積である。

〈床面施設〉地床炉１基、柱穴３個を確認した。地床炉の規格は0.65×0.55mで、ほぼ住居中央部に位置している。１層が被熱により硬化している。柱穴は、規則性が不明であり、主柱穴についても不明である。

〈壁・底面〉壁は、外傾している。西側の壁は、意図的な破壊痕跡が見られず、北東部の壁の一部が、埋土掘削中に確認できたため、Ⅲ層からの漸移層である、Ⅳ層の層中に掘り込まれたと想定される。底面は概ね平坦である。硬化面は確認できなかった。

〈遺物〉縄文土器3460.64ｇ、土製品等が出土した。縄文土器11点、土製円盤１点、土偶片２点を掲載した。殆どの土器は、埋土上位面から出土している。５は小型壷であり、頚部から口縁部を磨く。Ⅱ群ｂ類に相当する。６・７は、器面を縦位もしくは横位の条線によって施文する。胴部と口縁部ともに、瘤が施されており、これらは工具によって、上から潰される。９・10は、口唇部に突起を持つ。また、口縁部を沈線により区画し、連続爪型刺突文と縄文による文様体を構成する。Ⅲ群に相当する。

　土偶片は体部背面とみられる11、腹部付近とみられる12が出土しており、いずれも埋土の上位面から出土している。12には浅い刺突文が施文されており、ふくらみの大きい部分には、臀部とみられる深い刺突文を施文する。

〈時期〉遺構の検出面や出土遺物から、縄文時代後期後葉と判断した。

**３号竪穴住居跡**（第13図、写真図版14～15）

〈位置〉北側調査区、ⅠB13t～u・14t～uに位置している。

〈検出状況〉Ⅴ層面に広がる黒褐色の半円形プランを確認し、これを掘り下げたところ、南側に壁の立ち上がりを確認し、床面施設が確認できたため、竪穴住居跡であると判断した。

〈重複関係〉なし。

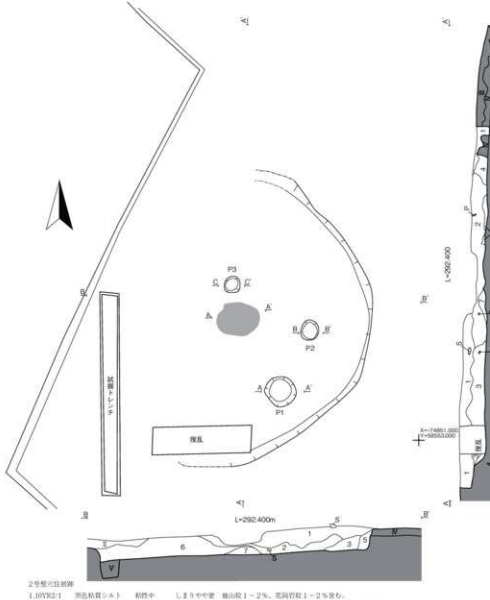
〈形状・規模〉遺構の残存部位が少ないため、明確な平面形は不明であるが、壁面の立ち上がりから、おおよそ円形であると判断した。規格については不明な点が多いが、開口部(4.80)×(4.74)m、底面(4.76)×(4.72)mと想定される。深さは0.20mを測る。

〈堆積土〉１層からなる。遺構自体が大きく削平されているため、全容は不明である。

〈床面施設〉炉とみられる焼土範囲１基、柱穴２個を確認した。炉とみられる焼土範囲の規格は、0.95×0.81mで、概ね住居の中心に位置しているとみられる。焼土範囲の周りに石の抜取痕とみられる浅い掘り込みを確認しており、石囲炉の可能性がある。柱穴の配列、主柱穴については不明である。P1が一部オーバーハングしており、フラスコ状土坑のような形態である。

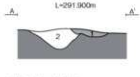
〈壁・底面〉南壁は、ほぼ直立する。北側の壁については２号竪穴住居跡と同様に確認できなかった。底面は平坦である。硬化面は確認できなかった。

## 2号竪穴住居跡



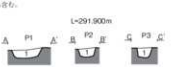

2号竪穴住居跡

1.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性中　しまりやや密　地山粒1～2%、花崗岩粒1～2%含む。
2.10YR2/2　黒褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや密　暗赤褐色地土粒3～5%、花崗岩粒3～5%、炭化物粒5～7%含む。
3.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性強　しまり密　黒褐色粘質シルトブロック3～5%、明褐色土粘質シルトブロック3～5%、花崗岩粒1～2%含む。
4.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性やや強　しまり密　黒褐色粘質シルト粒3～5%、地山ブロック3～5%、花崗岩粒10～15%含む。
5.10YR3/4　暗褐色シルト　粘性やや弱　しまりやや疎　黒色シルトブロック1～2%、地山ブロック10～15%含む(灰黄褐色土5%含む。
6.10YR2/2　黒褐色粘質シルト　粘性やや強　しまり中　花崗岩粒3～5%、炭化物粒2～3%含む。
7.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性中　しまりやや密　暗赤褐色地土ブロック10～15%、炭化物粒5～7%含む。




2号竪穴住居跡－P

1.5YR4/8　赤褐色地土　粘性やや強　しまり中
2.10YR2/3　黒褐色シルト　粘性やや強　しまりやや弱　暗褐色土ブロック10～15%、花崗岩粒1～2%含む。




柱穴

P1・P2　10YR4/4　褐色シルト　粘性強　しまり密
暗褐色土ブロック1～2%、花崗岩粒3～5%含む。

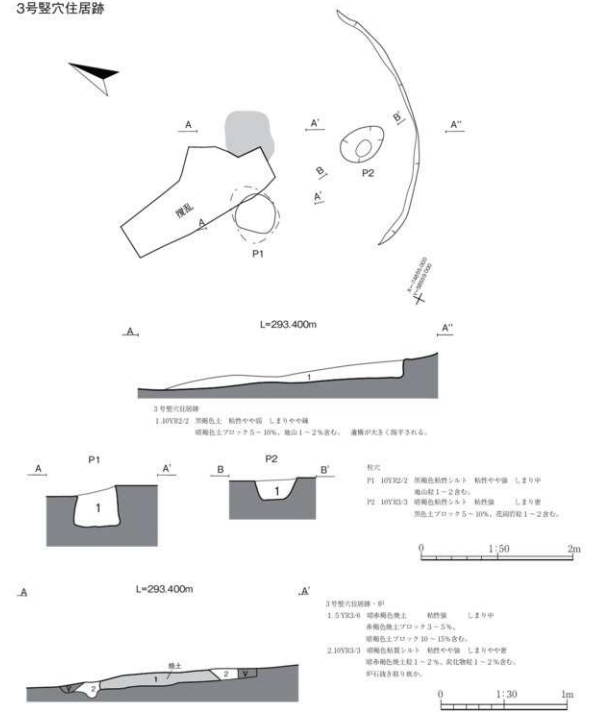
P3　10YR2/2　黒褐色シルト　粘性やや強　しまりやや疎
暗褐色土粒1～2%、花崗岩粒1～2%含む。

0　1:30　1m

0　1:60　2m

第12図　2号竪穴住居跡

〈遺物〉縄文土器476.80ｇが出土した。遺構が一部破壊されているためか、検出した竪穴住居の中で遺物量が最も少ない。住居の埋土中からは、遺物は出土していない。縄文土器１点を掲載した。16は波状口縁片で、フラスコ状のP1の埋土中から出土した。口縁部に沈線による区画文を施文し、口唇部までを磨く。Ⅱ群ｃ類に相当する。
〈時期〉遺構の検出面や出土遺物から、縄文時代後期中葉と判断した。




第13図　３号竪穴住居跡

## （2）炉　　跡

**1号炉跡**（第14図、写真図版16）

〈位置〉北側調査区、ⅠB13rに位置している。

〈検出状況〉Ⅲ層面中段に、円形の石組を確認した。遺構底面から焼土を確認したが、炉壁や炉石の被熱による変色や硬化は、確認することができなかった。

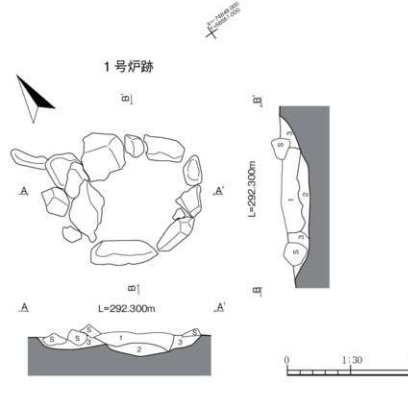
〈重複関係〉なし。

〈規模〉規模は、1.25×1.10m、深さ0.11mを測る。設置された炉石はすべて花崗岩であり、周辺から採取したものを利用していたと想定される。

〈堆積土〉3層からなる。黒色粘質シルトが主体である。焼土は3層土上面で少量ではあるが確認している。また、3層土中から縄文時代中期の土器が多く出土している。

〈遺物〉縄文土器202.57gが出土している。殆どが細片のため掲載しなかった。

〈時期〉遺構検出面や、掘り方から出土する遺物より、縄文時代中期以降であると判断した。




1号炉跡
1.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性やや強　しまりや中　暗褐色土粒1～2%含む。
2.5YR2/3　暗赤褐色焼土　粘性中　しまりやや強　黒褐色土ブロック20%含む。
3.10YR2/1　黒色シルト　粘性やや弱　しまりやや強　花崗岩粒1～2%、縄文土器（主に中期）を多量に含む。

第14図　1号炉跡

### （3）土　　坑

**1号土坑**（第15図、写真図版16）
〈位置〉北側調査区、ⅠＢ８ｈに位置する。
〈検出状況〉Ⅴから黒褐色土の円形プランを確認した。プランの北西側をⅣ層ブロックの混入した長方形の攪乱により一部削平されていた。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉平面形は不整形である。開口部は（1.30）×1.24m、底面（1.44）×1.20m、深さ0.30mを測る。
〈堆積土〉３層からなる。黒色シルト～黒褐色シルトが主体である。
〈壁・底面〉壁は浅くオーバーハングしており、所謂フラスコ状土坑であると判断した。底面は平坦である。
〈遺物〉縄文土器57.27gが出土した。１点を掲載した。17は粗製土器で、LR原体を横位に施文する。
〈時期〉土坑埋土上位から出土した炭化物の測定年代が、2,907±30を指すため、縄文時代晩期と判断した。

**2号土坑**（第15図、写真図版17）
〈位置〉北側調査区、ⅠＢ７ｈに位置する。
〈検出状況〉Ⅴ層から黒褐色の円形プランを検出した。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉平面形は楕円形である。開口部は1.14×0.99m、底面は1.32×1.30m、深さ0.30mを測る。
〈堆積土〉３層からなる。黒色シルト～褐色シルトが主体であり、地山粒を含む。自然堆積である。
〈壁・底面〉壁は東西方向にオーバーハングしており、所謂フラスコ状土坑であると判断した。底面は概ね平坦である。
〈遺物〉出土していない。
〈時期〉遺構検出面から、縄文時代と判断した。

**3号土坑**（第15図、写真図版17）
〈位置〉北側調査区、ⅠＢ７ｈに位置する。
〈検出状況〉Ⅴ層から黒褐色の円形プランを検出した。
〈重複関係〉土坑の西側の一部を攪乱によって切られる。
〈形状・規模〉平面形は不整形である。開口部は（1.10）×0.98m、底面は1.30×（1.28）m、深さ0.41mを測る。
〈堆積土〉４層からなる。黒褐色シルト～暗褐色シルトが主体であり、壁崩落土とみられる地山粒を埋土中に多く含む。自然堆積である。
〈壁・底面〉壁は東方向にオーバーハングしており、所謂フラスコ状土坑であると判断した。壁の一部が、攪乱によって削平されている。底面は攪乱による影響は少なく、概ね平坦である。
〈遺物〉出土していない。
〈時期〉遺構検出面から、縄文時代と判断した。

**4号土坑**（第15図、写真図版17）
〈位置〉北側調査区、ⅠＢ６ｈに位置する。

〈検出状況〉Ⅴ層から黒褐色の円形プランを検出した。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉平面形は円形である。開口部は1.30×1.28m、底面1.26×1.18、深さ0.13mを測る。
〈堆積土〉2層からなる。黒褐色シルト～褐色シルトが主体である。2層土中に炭化物粒を微量含む。また、一部木根が混入する。自然堆積である。
〈壁・底面〉壁面は大きく削平されており、緩やかに外反する。床面は概ね平坦である。
〈遺物〉出土していない。
〈時期〉遺構検出面から、縄文時代と判断した。

**5号土坑**（第15図、写真図版17）
〈位置〉北側調査区、ⅠB4jに位置する。
〈検出状況〉Ⅴ層から黒褐色の円形プランを検出した。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉平面形は、遺構の一部が調査区外へと広がるため全貌は不明であるが、円形であるとみられる。開口部は1.40×（1.00）m、底面は0.88×（0.30）m、深さ0.50mを測る。
〈堆積土〉2層からなる。黒色シルト～黒褐色シルトが主体である。2層中に地山ブロックを少量含む。自然堆積である。
〈壁・底面〉壁は外傾する。底面は概ね平坦である。
〈遺物〉出土していない。
〈時期〉検出面から、縄文時代と判断した。

**6号土坑**（第16図、写真図版18）
〈位置〉北側調査区、ⅠB4kに位置する。
〈検出状況〉Ⅴ層から黒褐色の円形プランを検出した。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉平面形は円形である。開口部は0.89×0.84m、底面は0.60×0.56m、深さ0.30mを測る。
〈堆積土〉2層からなる。黒色シルト～黒褐色シルトが主体である。壁崩落土とみられる地山粒を2層中に多く含む。自然堆積である。
〈壁・底面〉壁は緩やかに外傾する。底面は、概ね平坦である。
〈遺物〉出土していない。
〈時期〉遺構検出面から、縄文時代と判断した。

**7号土坑**（第16図、写真図版18）
〈位置〉北側調査区、ⅠB11sに位置する
〈検出状況〉北側調査区に広がる、遺物包含層下のⅤ層面から黒色プランを確認した。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉平面形は概ね平坦であるが、東側に浅い掘り込みが広がる。開口部は1.34×1.26m、底面は1.70×1.00m、深さ0.28mを測る。
〈堆積土〉4層からなる。黒色シルト～黒褐色シルトが主体である。自然堆積である。
〈壁・底面〉壁は外傾しており、底面は平坦である。

〈遺物〉縄文土器389.5gが出土している。縄文土器２点を掲載した。19は胴部片で、地文に複節縄文を施文し、沈線によるU字状・楕円形状とみられる区画文を施文する。区画文外は磨消を施す。Ⅰ群ｂ類に相当する土器である。
〈時期〉遺構検出面、出土遺物から、縄文時代中期後葉以降と判断した。

**８号土坑**（第16図、写真図版18）
〈位置〉北側調査区、ⅠB12sに位置する。
〈検出状況〉北側調査区に広がる、遺物包含層下のⅤ層面から黒色の円形プランを確認した。
〈重複関係〉P1を切って重複しており、本遺構のほうが新しい。
〈形状・規模〉平面形は不整形で、開口部は1.03×0.92m、底面は0.80×0.64m、深さ0.12mを測る。
〈堆積土〉１層からなる。黒色シルトが主体である。
〈壁・底面〉壁は緩やかに立ち上がる。底面は概ね平坦である。
〈遺物〉出土していない。
〈時期〉遺構検出面から、縄文時代と判断した。

**９号土坑**（第16図、写真図版18）
〈位置〉北側調査区、ⅠB13sに位置する。
〈検出状況〉Ⅳ～Ⅴ層漸移層に黒褐色円形プランを確認した。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉平面形は不整形である。開口部は1.34m×1.22m、底面1.20×1.08m、深さ0.74mを測る。
〈堆積土〉４層からなる。黒色シルト～黒褐色シルトが主体である。２層中に縄文時代後期の土器と、流れ込みと想定する焼土ブロックを含む。
〈壁・底面〉壁は南北方向に大きくオーバーハングしており、フラスコ状土坑であると判断した。底面は、概ね平坦である。
〈遺物〉縄文土器1463.3g、土製品等が出土している。縄文土器６点、土製円盤２点を掲載した。22は胴部片で、入組文を施文した瘤付土器である。21も胴部片であり、沈線による区画文内を工具による刺突文によって施文する。Ⅱ群ｃ類に相当する土器である。23は口唇部に小突起が付き、工具による圧痕が直上部から施文される。口縁部にかけて沈線による区画文を施文し、一部の区画内を磨消す。Ⅲ群に相当するとみられる。24は注口土器で、注口部が欠損する。25は高台付土器の高台部であり、無文である。これらは時期不明であるが、埋土下位から出土している。
〈時期〉遺構検出面・出土遺物から、縄文時代後期中葉～後葉と判断した。

**10号土坑**（第16図、写真図版19）
〈位置〉北側調査区、ⅠB12uに位置する。
〈検出状況〉Ⅳ～Ⅴ層漸移層に黒褐色プランを確認した。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉平面形は不整形である。開口部は1.48×1.34m、底面は1.44×1.32m、深さ0.50mを測る。
〈堆積土〉５層からなる。５層中段から縄文時代後期の土器が出土している。３～４層には地山粒が中量ほど含まれており、壁崩落土とみられる。自然堆積である。
〈壁・底面〉遺構の一部が近代の攪乱によって削平される。北側の壁が一部オーバーハングしており、

フラスコ状土坑であると判断した。底面は概ね平坦である。
〈遺物〉縄文土器1717.24gが出土している。殆どが破片資料である。縄文土器１点を掲載した。27は、香炉型土器の一部とみられる。
〈時期〉遺構検出面と出土遺物から、縄文時代晩期以前と判断した。

**11号土坑**（第17図、写真図版19）
〈位置〉北側調査区、２号竪穴住居跡の南側、ⅠＢ４ｓに位置する。
〈検出状況〉Ⅴ層面から黒褐色の楕円形プランを確認した。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉平面形は、東西方向に幅を持つ楕円形で、開口部は 1.52 × 1.24 m、底面 1.18 × 0.98 m、深さ 0.39 m を測る。
〈堆積土〉３層からなる。黒色粘質シルト、黒褐色粘質シルトが主体となる。東壁側の３層が三角堆積をしており、一定方向からの流れ込みがあったと確認した。自然堆積である。
〈壁・底面〉壁は外傾しており、特に東側が高く、西側に向かって緩やかに低くなってゆく。底面は概ね平坦である。
〈遺物〉縄文土器239.85gが出土している。縄文土器を１点掲載した。29は無文の浅鉢土器である。底部は欠損している。
〈時期〉遺構検出面から、縄文時代と判断した。

**12号土坑**（第17図、写真図版19）
〈位置〉北側調査区、３号竪穴住居跡の東側、ⅠＢ13u に位置する。
〈検出状況〉Ⅴ層面から黒褐色の円形プランを確認した。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉平面形は円形であり、開口部は0.88×0.80m、底面0.74×0.64m、深さ0.15mを測る。
〈堆積土〉１層からなる。黒褐色シルトが主体である。花崗岩粒を多く含む。自然堆積である。
〈壁・底面〉壁は緩やかに外傾し、底面は平坦である。
〈遺物〉縄文土器59.68gが出土している。細片のみであったため掲載は行わない。
〈時期〉出土した砕片土器片、遺構検出面から縄文時代後期と判断した。

**13号土坑**（第17図、写真図版19）
〈位置〉北側調査区、ⅠＢ14v に位置する。
〈検出状況〉Ⅴ層面から黒色の円形プランを確認した。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉平面形は楕円形であり、開口部は0.90×0.88m、底面1.01×0.92m、深さ0.72mを測る。東側の一部に浅い張り出しが見られる。
〈堆積土〉１層からなる。黒色粘質シルトが主体である。花崗岩粒を多く含む。自然堆積である。
〈壁・底面〉壁は外傾しており、底面は平坦である。
〈遺物〉出土していない。
〈時期〉検出面から、縄文時代と判断した。

**14号土坑**（第17図、写真図版20）
〈位置〉南側調査区、ⅠB14w に位置する。
〈検出状況〉Ⅴ層面から黒色の円形プランを確認した。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉平面形は隅丸方形で、開口部0.94×0.90m、底面1.48×1.40m、深さ0.56mを測る。
〈堆積土〉2層からなる。黒色シルトが主体である。2層に微量の炭化物粒を含む。
〈壁・底面〉壁はオーバーハングしており、フラスコ状土坑であると判断した。底面は、一部礫が露出しているが、概ね平坦である。
〈遺物〉縄文土器1326.6g が出土している。縄文土器2点を掲載した。30は口縁上位と胴部の間に縄文原体圧痕で区画した無文体があり、これを磨く。Ⅱ群b類に相当する土器である。
〈時期〉遺構検出面・出土遺物から、縄文時代後期前葉と判断した。

**15号土坑**（第17図、写真図版20）
〈位置〉北側調査区、ⅠB15u に位置する。
〈検出状況〉Ⅴ層面から黒色の円形プランを確認した。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉平面形は楕円形で、開口部は1.58×1.11m、底面1.38×1.32m、深さ0.68mを測る。
〈堆積土〉4層からなる。黒色粘質シルト、黒褐色粘質シルトが主体である。埋土中に巨礫が堆積しており、3～4層中の地山ブロックはこの礫に伴う堆積とみられる。自然堆積である。
〈壁・底面〉壁は、南東方向にオーバーハングしており、フラスコ状土坑と判断した。底面は概ね平坦である。
〈遺物〉縄文土器1075.45g、土製品等が出土している。縄文土器3点、土偶脚部1点を掲載した。32は口縁部に複数の沈線を施文し、この下位に渦巻状の沈線文を施文する。33は口縁上位と胴部の間に縄文原体圧痕で区画した無文体があり、これを磨く。Ⅱ群b類に相当する土器である。
　13は土偶脚部とみられる。
〈時期〉遺構検出面・出土遺物から、縄文時代後期前葉と判断した。

**16号土坑**（第17図、写真図版20）
〈位置〉北側調査区、ⅠB16t に位置する。
〈検出状況〉Ⅴ層面から黒色の円形プランを確認した。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉平面形は円形で、開口部は1.34×1.29m、底面1.34×1.25m、深さ0.41mを測る。
〈堆積土〉5層からなる。黒褐色粘質シルトが主体である。2層中に、焼土の流れ込みによるレンズ堆積が形成されている。角の立った土器片が搬出しており、故意に投棄したとみられる痕跡を確認した。一部人為堆積か。
〈壁・底面〉壁は西方向にオーバーハングしているが、壁のほとんどが開口部に向かって外傾するため、フラスコ状土坑であると判断した。
〈遺物〉縄文土器1604.9g が出土している。縄文土器4点を掲載した。36・37は壺型土器であり、36は頸部を欠損している。胴部にはS字もしくはクランク状の帯状文を沈線により施文する。37は頸部が無文であり、口唇部が外反する。38・39は、口縁上位と胴部の間に縄文原体圧痕で区画した無文体が

あり、これを磨く。いずれもⅡ群ｂ類に相当する土器である。
〈時期〉遺構検出面、出土遺物から縄文時代後期前葉と判断した。

**17号土坑**（第18図、写真図版20）
〈位置〉北側調査区、ⅠＢ15w に位置する。
〈検出状況〉Ⅴ層面から黒色の円形プランを確認した。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉平面形は、不整形であるが、土坑の北西部が一部張り出している。開口部は1.07×1.07m、底面0.85×0.80m、深さ0.27mを測る。
〈堆積土〉１層からなる。黒色粘質シルトが主体である。自然堆積である。
〈壁・底面〉壁は外傾し、底面は平坦である。
〈遺物〉縄文土器200.3gが出土している。縄文土器１点を掲載した。40は無文で、底部に網代痕が残存する。
〈時期〉遺構検出面、出土遺物から縄文時代と判断した。

**18号土坑**（第18図、写真図版21）
〈位置〉北側調査区、ⅠＢ17t に位置する。
〈検出状況〉Ⅴ層面から黒色の円形プランを確認した。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉平面形は円形で、開口部は0.90×0.88m、底面1.01×0.92m、深さ0.72mを測る。
〈堆積土〉５層からなる。黒色シルト、黒褐色粘質シルトが主体である。埋土中に炭化物粒を含み、５層中には焼土の流れ込みによるレンズ堆積が形成されている。自然堆積とみられる。
〈壁・底面〉東西方向に緩くオーバーハングしており、フラスコ状土坑と判断した。底面は概ね平坦である。
〈遺物〉縄文土器2803.61gが出土している。縄文土器９点を掲載した。44は浅鉢土器であり、無文である。口唇部にかけて緩やかに外反している。縄文時代後期の土器であるが、明確な時期は不明である。42は口縁部と胴部を縄文原体圧痕で区画し、口縁部を磨消す。43は口縁部片で、沈線による区画文内の一部を磨消す。41は口唇部が山形になっている。口縁部にはクランク状の帯状文を沈線によって施文する。いずれもⅡ群ｂ類に相当する土器である。
〈時期〉遺構検出面、出土遺物から縄文時代後期前葉と判断した。

**19・20・21号土坑**（第18図、写真図版21）
〈位置〉北側調査区、ⅠＢ16W・16x に位置する。
〈検出状況〉Ⅴ層面から、東西に延びる黒色のプランを確認し、精査を行ったところ、３つの円形プランを確認した。
〈重複関係〉19号土坑が一番新しく、他の遺構を切っている。20号土坑・21号土坑の新旧については土層断面、遺構底面を観察したが、確認することができなかった。
〈形状・規模〉平面形はいずれも不整円形である。19号土坑は、開口部1.40×1.00m、底面1.36×1.20m、深さ0.64mを測る。20号土坑は開口部1.08×（0.68）m、底面0.98×（0.58）m、深さ0.40mを測る。21号土坑は、開口部1.04×（0.56）m、底面0.70×（0.60）m、深さ（0.54）mを測る。

〈堆積土〉5層からなる。黒褐色粘質シルトが主体である。2層の焼土層は、水性堆積とみられる。自然堆積である。
〈壁・底面〉いずれの土坑も、オーバーハングしており、フラスコ状土坑と判断した。底面は概ね平坦である。
〈遺物〉縄文土器1643.73g、土製品等が出土している。縄文土器4点、土製円盤1点を掲載した。遺物の殆どは、19・20号土坑から出土している。51・52は口縁部～胴部片で、同一個体とみられる。51は胴部に2段からなるクランク状の帯状文を持つ。また、口唇部側面頂部には、沈線による楕円状のモチーフを持つ。50は口縁部で、クランク状、渦巻状の帯状文を施文する。渦巻状の帯状文直上には、工具による刺突文が施文される。Ⅱ群b類に相当する土器である。53は胴部片である。Ⅱ群b類にみられるクランク状帯状文と比較した際、区画沈線の角度等Ⅱ群b類には見られないと判断し、類似性の高い土器群のⅢ群に相当すると判断した。
〈時期〉遺構検出面、出土遺物から縄文時代後期前葉～後葉と判断した。

**22号土坑**（第18図、写真図版22）
〈位置〉南側調査区、ⅠB20uに位置する。
〈検出状況〉Ⅴ層面から調査区外へと続く、黒褐色の楕円形プランを確認した。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉遺構の一部が調査区外へ広がるため、明確ではないが、調査対象範囲の形状から、円形であると考えられる。開口部は1.89×(1.50)m、底面(1.54)×(1.30)m、深さ0.54mを測る。
〈堆積土〉6層からなる。黒褐色粘質シルトが主体である。埋土中には多くの地山粒を含む。自然堆積である。
〈壁・底面〉壁は外傾しており、一部調査区外へ続く。底面は概ね平坦である。
〈遺物〉縄文土器2806.94gが出土している。殆どが破片資料である。縄文土器1点を掲載した。54は口縁部片で、細い粘土紐を貼り付け、区画文を施す。この区画内をナデ調整する。また、口縁部上位には磨消しによる無文体が見られる。Ⅰ群に相当する土器である。
〈時期〉掲載遺物はⅠ群に相当するが、その他掲載できなかった破片を考慮すると縄文時代中期もしくは縄文時代後期前葉と判断した。

**23・24号土坑**（第19図、写真図版22）
〈位置〉南側調査区、ⅠB20v～wに位置する。
〈検出状況〉Ⅴ層面の黒色の楕円形プランから埋設土器を確認した。これを精査したところ、東側にも新たな円形のプランを確認した。
〈重複関係〉土層断面を観察したところ、23号土坑によって24号土坑の東側の一部が切られており、23号土坑が新しく、24号土坑が古いと判断した。
〈形状・規模〉平面形は23号土坑が不整形、24号土坑が楕円形である。23号土坑の開口部は、1.10×1.04m、底面は1.54×1.44m、深さ0.72mを測る。24号土坑の開口部は、1.40×(1.12)m、底面は0.94×(0.90)m、深さ0.20mを測る。
〈堆積土〉23号土坑は5層、24号土坑は3層からなる。いずれも、黒色粘質シルト、黒褐色粘質シルトが主体である。埋設土器は、人為による投棄と想定される。23号土坑は自然堆積である。
〈壁・底面〉23号土坑は、壁が西側に向けて大きくオーバーハングしており、フラスコ状土坑と判断し

た。23・24号土坑ともに床面は平坦である。
〈遺物〉縄文土器8640.25gが出土している。56は埋設されていた深鉢土器で、地文はRLを主体とし、胴部に施文する。口縁部上位面はナデ調整を行っており、無文体が形成される。57はクランク状とみられる帯状文を沈線によって施文し、一部区画内を磨消す。口縁部は緩やかに波状を呈してるとみられる。Ⅱ群b類に相当する土器である。
〈時期〉遺構検出面、出土遺物から縄文時代後期前葉と判断した。

**25号土坑**（第19図、写真図版22）
〈位置〉南側調査区、ⅠB19xに位置する。
〈検出状況〉Ⅴ層面から黒色の円形プランを確認した。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉円形で、開口部1.02×0.67m、底面1.12×1.00m、深さ0.96mを測る。
〈堆積土〉4層からなる。黒色シルト、黒褐色シルトが主体である。2層は流れ込みによる焼土ブロックであり、被熱による硬化はしていない。
〈壁・底面〉壁は全体がオーバーハングしており、フラスコ状土坑と判断した。底面は概ね平坦である。
〈遺物〉縄文土器405.6gが出土している。縄文土器1点を掲載した。58は口縁上位と胴部の間に縄文原体圧痕で区画した無文体があり、これを磨く。Ⅱ群b類に相当する土器である。
〈時期〉遺構検出面、出土遺物から縄文時代後期前葉と判断した。

**26号土坑**（第19図、写真図版23）
〈位置〉南側調査区、ⅠB20～21vの境界グリッド線上に位置する。
〈検出状況〉Ⅲ層土にサブトレンチを設定し、これを掘り下げたところ、Ⅴ層土面で黒褐色の円形プランを確認した。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉平面形は円形で、開口部は1.56×1.52m、底面は1.53×1.40m、深さ1.10mを測る。
〈堆積土〉11層からなる。黒褐色シルト～黄褐色シルトが主体である。6・8・10層は何れも黄褐色シルトであり、東壁に堆積している。4層中に流れ込みと想定される、微量の焼土が含まれている。
〈壁・底面〉壁は南東方向にオーバーハングしており、フラスコ状土坑と判断した。底面は巨礫が露出しており、傾斜する。
〈遺物〉縄文土器619.04gが出土している。縄文土器1点を掲載した。59は地文にLRL複節斜縄文を施文し、沈線による区画文を施文する。Ⅱ群に相当する土器である。
〈時期〉遺構検出面、出土遺物から縄文時代中期後葉と判断した。

**27号土坑**（第19図、写真図版23）
〈位置〉南側調査区、ⅠB20wに位置する。
〈検出状況〉Ⅳ層土掘削中に埋設土器とみられる土器を検出した。Ⅴ層面まで検出を行った結果、これの下に土坑を確認した。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉平面形は楕円形で、開口部は1.44×1.10m、底面1.00×0.91m、深さ0.58mを測る。
〈埋土〉9層からなる。黒色粘性シルト、明黄褐色粘性シルトが主体である。埋設土器内には黒色シル

トが堆積している。炭化物粒は出土していない。
〈壁・底面〉壁は外傾しており、底面は概ね平坦である。
〈遺物〉縄文土器3545.29ｇが出土している。60は口縁部と胴部の間に縄文原体圧痕で区画した無文体があり、これを磨く。Ⅱ群ａ類に相当する土器である。
〈時期〉遺構検出面、出土遺物から縄文時代後期前葉と判断した。

**28号土坑**（第20図、写真図版23）
〈位置〉南側調査区、ⅠＢ20w に位置する。
〈検出状況〉Ⅴ層面から黒色の円形プランを確認した。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉平面形は楕円形で、開口部0.80×0.71m、底面0.80×0.60m、深さ0.19mを測る。
〈堆積土〉２層からなる。黒褐色シルトが主体である。
〈壁・底面〉壁は外傾しており、底面は概ね平坦である。
〈遺物〉縄文土器171.0g、石器等が出土している。縄文土器３点、石斧１点を掲載した。61は土坑プラン検出の際に出土している。地文に RL 複節斜縄文を施文し、沈線で剣先文を施文する。Ⅰ群ａ類に相当する土器である。62は口縁部で、工具による刺突文と、クランク状とみられる帯状文を沈線によって施文し、一部区画内を磨消している。Ⅱ群ｂ類に相当する土器である。
　20は石斧で、刃部が大きく欠損している。二次加工等の痕跡は確認できなかった。
〈時期〉遺構検出面、縄文時代と判断した。

**29号土坑**（第20図、写真図版24）
〈位置〉南側調査区、ⅠＢ19y に位置する
〈検出状況〉Ⅴ層面から、明黄褐色シルトが堆積した黒褐色の円形プランを確認した。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉平面形は、南北にやや延びる楕円形で、開口部は1.60×1.30m、底面1.80×1.74m、深さ1.00mを測る。
〈堆積土〉７層からなる。黒色粘質シルト、黒褐色粘質シルトが主体である。２層・３層中には、地山ブロックを多く含む。自然堆積である。
〈壁・底面〉壁はオーバーハングしており、フラスコ状土坑と判断した。底面は一部礫層が露出しており、土坑中央部は深くなっている。
〈遺物〉縄文土器1079.7g が出土している。縄文土器５点を掲載した。65は、口縁部に工字状帯状文を沈線によって施文している。66は口縁上位と胴部の間に縄文原体圧痕で区画した無文体があり、これを磨く。67は縄文原体は無いものの、66と同様の傾向を持つ。Ⅱ群ｂ類に相当する土器である。
〈時期〉遺構検出面、出土遺物から縄文時代後期前葉と判断した。

**30号土坑**（第20図、写真図版24）
〈位置〉南側調査区、ⅠＣ19a に位置する。SK44・SK27と隣接する。
〈検出状況〉Ⅴ層面から黒褐色の楕円形プランを確認した。
〈重複関係〉なし。

〈形状・規模〉平面形は円形であり、開口部は0.94×0.90m、底面0.60×0.64m、深さ0.32mを測る。
〈堆積土〉6層からなる。黒色粘質シルト、黒褐色粘質シルトからなる。自然堆積である。
〈壁・底面〉壁は、外傾しており、床面は概ね平坦である。
〈遺物〉縄文土器1558.71g、石器等が出土している。縄文土器4点、石斧1点を掲載した。70は口縁部～胴部片で、口縁上位と胴部の間に縄文原体圧痕で区画した無文体があり、これを磨く。71は口縁部で、工具による刺突文と、クランク状とみられる帯状文を沈線によって施文し、一部区画内を磨消しているとみられる。Ⅱ群b類に相当する土器である。
　19は石斧としたが、石質の影響か判断が困難であるため明言は避ける。また、同様の形状をしたものが本土坑内から出土しているため、掲載を行った。
〈時期〉遺構検出面、出土遺物から縄文時代後期前葉と判断した。

**31号土坑**（第20図、写真図版24）
〈位置〉南側調査区、ⅠC19aに位置する。
〈検出状況〉V層面から黒色の円形プランを確認した。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉平面形は円形で、開口部1.58×1.58m、底面1.80×1.72m、深さ1.00mを測る。
〈堆積土〉10層からなる。黒褐色シルト、黄褐色シルトが主体である。黄褐色系統のシルト層が黒褐色土を挟む層が、2段階確認できる。複数回の壁崩落と自然堆積を繰り返したとみられる。
〈壁・底面〉壁は北東方向に小さくオーバーハングしており、フラスコ状土坑と判断した。底面は概ね平坦である。
〈遺物〉縄文土器2480.28g、土製品等が出土している。縄文土器6点、粘土塊1点を掲載した。74は口縁部で、隆沈線による渦巻文を施文する。Ⅰ群に相当する土器である。75は、口縁部に無文帯を施す。また、口唇部を折り返している。Ⅱ群b類に相当する土器である。76は波状口縁の一部で、口唇端部に工具による刺突文を施文する。77は、浅鉢土器で開口部に向けて外傾する。口縁部には縄文と沈線を施文し、胴部から底部にかけて、磨かれている。Ⅱ群c類に相当する土器である。78は77と同様の器形であるが、詳細については不明である。
〈時期〉遺構検出面、出土遺物から、縄文時代後期前葉～後期中葉と判断した。

**32号土坑**（第20図、写真図版24）
〈位置〉南側調査区、ⅠB21xに位置する
〈検出状況〉V層面から、明黄褐色・褐灰色シルトが堆積した黒色の円形プランを確認した。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉平面形は楕円形で、開口部は1.28×0.98m、底面1.68×1.60m、深さ1.24mを測る。
〈堆積土〉8層からなる。黒色粘質シルト、明黄褐色粘質シルト主体である。底面には礫層が広がっており、7・8層は礫層を意図的に埋めた痕跡と想定される。一部人為堆積か。
〈壁・底面〉壁は南側に大きくオーバーハングしており、フラスコ状土坑と判断した。底面は礫層が露出しており、判別ができなかった。
〈出土遺物〉出土していない。
〈時期〉遺構検出面から、縄文時代と判断した。

**33号土坑**（第21図、写真図版25）
〈位置〉南側調査区、ⅠB21w に位置する
〈検出状況〉Ⅴ層面から黒褐色の楕円形プランを確認した。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉平面形は楕円形で、開口部は1.18×1.10m、底面1.40×1.18m、深さ0.72mを測る。
〈堆積土〉8層からなる。灰黄褐色粘質シルト、明黄褐色粘質シルトが主体である。自然堆積である。
〈壁・底面〉壁は浅くオーバーハングしており、フラスコ状土坑と判断した。底面は礫層が露出しているが、概ね平坦である。
〈遺物〉縄文土器48.23g が出土している。縄文土器１点を掲載した。80は胴部～底部片で、底面に縄文が施文される。
〈時期〉遺構検出面、出土遺物から、縄文時代と判断した。

**34号土坑**（第21図、写真図版25）
〈位置〉南側調査区、ⅠB21x に位置する。
〈検出状況〉風化花崗岩を多く含んだ攪乱を断ち割ったところ、土坑とみられる断面が確認できた。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉楕円形で、開口部は1.38×(1.05)m、底面は1.54×1.12m、深さ(0.50)mを測る。
〈堆積土〉4層からなる。黒褐色シルト、明黄褐色シルトが主体である。3・4層に炭化物粒を微量含む。
〈壁・底面〉壁は、南側の一部が攪乱によって削平されている。全体がオーバーハングしており、フラスコ状土坑であると判断した。
〈遺物〉縄文土器264.5g、土製品等が出土している。縄文土器１点、粘土塊１点を掲載した。81は口縁部片で地文に RL 複節斜縄文を施文する。
　17は粘土塊で、埋土上位面から出土している。全体の色調が淡く、強い焼成、もしくは長期間にわたって被熱していた可能性が高い。
〈時期〉遺構検出面、出土遺物から縄文時代と判断した。

**35号土坑**（第21図、写真図版25）
〈位置〉南側調査区、ⅠB21～22v に位置する。
〈検出状況〉Ⅴ層面から黒褐色プランを確認した。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉平面形は不整形で、開口部は1.09×1.08m、底面は1.32×1.12m、深さ0.46mを測る。
〈堆積土〉4層からなる。黒褐色シルト～暗褐色シルトが主体である。
〈壁・底面〉壁は全体がオーバーハングしており、フラスコ状土坑と判断した。底面は概ね平坦である。
〈遺物〉縄文土器45.3g が出土している。縄文土器１点を掲載した。82は底部片である。
〈時期〉検出面から、縄文時代と判断した。

**36号土坑**（第21図、写真図版25）
〈位置〉南側調査区、ⅠB22w に位置する。
〈検出状況〉Ⅴ層面から黒色の円形プランを確認した。
〈重複関係〉なし。

〈形状・規模〉平面形は不整形で、開口部1.40×1.26m、底面1.64×1.52m、深さ0.88mを測る。
〈堆積土〉8層からなる。黒褐色シルトが主体である。3層中に帯状の地山ブロックが堆積している。一部人為堆積と想定する。
〈壁・底面〉壁はオーバーハングしており、フラスコ状土坑であると判断した。底面は、一部礫が露出しているが、概ね平坦である。
〈遺物〉縄文土器254.6gが出土している。縄文土器2点を掲載した。口縁上位に胴部文様体を縄文原体圧痕で区画した無文体を持つ。84は壺型土器の破片とみられる。Ⅱ群c類に相当する土器である。
〈時期〉遺構検出面、出土遺物から縄文時代後期前葉と判断した。

**37号土坑**（第21図、写真図版25）
〈位置〉南側調査区、ⅠC22・23a～ⅠC22・23bのグリッド線境界上に位置する。
〈検出状況〉Ⅴ層面から黒色の円形プランを確認した。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉平面形は楕円形で、開口部0.90×0.78m、底面1.04×0.98m、深さ0.74mを測る。
〈堆積土〉5層からなる。黒褐色シルト、にぶい黄褐色シルトが主体である。3・4層は壁崩落土とみられる。自然堆積である。
〈壁・底面〉壁は東側にオーバーハングしており、台形のフラスコ状土坑であると判断した。底面は概ね平坦である。
〈遺物〉縄文土器403.4gが出土している。縄文土器3点を掲載した。85は胴部にS字状の帯状文をを沈線により施文する。Ⅱ群a類に相当する土器である。86は無文体を持つ口縁部と胴部文様体を縄文原体圧痕文によって区画するⅡ群c類に相当する土器である。
〈時期〉検出面から、縄文時代と判断した。

### （4）陥し穴状土坑

**1号陥し穴状土坑**（第22図、写真図版25）
〈位置〉北側調査区、ⅠB8g～hに位置する。
〈検出状況〉Ⅴ層面から、黒褐色の溝状プランを検出した。
〈重複関係〉1号土坑を切る攪乱に、切られている。
〈形状・規模〉平面形は、おおよそ南北方向に延びる溝状で、開口部は(2.36)×0.68m、底面2.20×0.38m、深さ0.90mを測る。
〈堆積土〉5層からなる。暗褐色粘質シルトが主体となる。埋土上層に壁崩落土とみられる地山ブロックを多く含む。自然堆積である。
〈壁・底面〉短軸方向の壁が、中段部分から開口部にかけて緩やかに外傾している。底面は平坦である。
〈遺物〉出土していない。
〈時期〉検出面から、縄文時代と判断した。

**2号陥し穴状土坑**（第22図、写真図版26）
〈位置〉北側調査区、ⅠB7hに位置している。
〈検出状況〉Ⅳ層から黒色の溝状のプランを確認した。
〈重複関係〉東側の一部が、近代の農地耕作の影響を受けている。

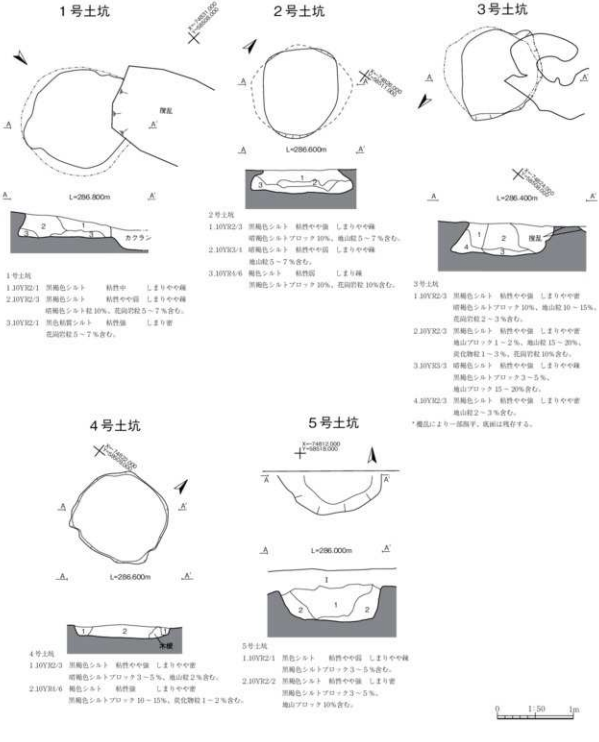
〈形状・規模〉平面形は、東西方向に延びる溝状で、開口部は2.80×1.02m、底面2.38×0.18m、深さ0.80mを測る。
〈堆積土〉4層からなる。黒褐色粘質シルト、黄褐色粘質シルトが主体である。3・4層については、壁崩落土とみられる。
〈壁・底面〉短軸方向の壁は、中段部分から開口部にかけて緩やかに外傾している。底面は概ね平坦であるが、一部礫が露出しており、地点によっては高低差が大きくなる。
〈遺物〉出土していない。
〈時期〉検出面から、縄文時代と判断した。

**3号陥し穴状土坑**（第22図、写真図版26）
〈位置〉北側調査区、ⅠB5fに位置する
〈検出状況〉V層面から、黒褐色の溝状プランを検出した。
〈重複関係〉東側の一部が、近代の農地耕作の影響を受けている。
〈形状・規模〉平面形は、おおよそ東西方向に延びる溝状で、開口部は(1.86)×0.78m、底面1.76×0.28m、深さ0.86mを測る。
〈堆積土〉4層からなる。暗褐色粘質シルトが主体である。埋土上層に地山粒を多く含む。自然堆積である。
〈壁・底面〉短軸方向の壁は、中段付近で緩やかにくびれ、開口部に向かって外傾する。底面は一部礫が露出しているが、概ね平坦である。
〈遺物〉出土していない。
〈時期〉検出面から、縄文時代と判断した。

**4号陥し穴状土坑**（第22図、写真図版26）
〈位置〉北側調査区、ⅠB5hに位置する。
〈検出状況〉V層面から、黒色の溝状プランを検出した。
〈重複関係〉なし。
〈形状・規模〉平面形は、おおよそ東西方向に延びる溝状で、開口部は2.80×0.88m、底面2.50×0.48m、深さ0.52mを測る。
〈堆積土〉4層からなる。黒色シルト、暗褐色粘質シルトが主体である。埋土下層に壁崩落土とみられる地山ブロックが多く堆積している。自然堆積である。
〈壁・底面〉短軸方向の壁は、底面付近が東西方向にオーバーハングしており、フラスコ状土坑のような形態となる。底面は一部礫が露出しているが、概ね平坦である。
〈遺物〉出土していない。
〈時期〉検出面から、縄文時代と判断した。

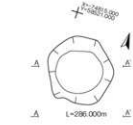
**5号陥し穴状土坑**（第23図、写真図版26）
〈位置〉北側調査区、ⅠB5jに位置する。
〈検出状況〉V層面から、黒色の溝状プランを検出した。
〈重複関係〉なし。

〈形状・規模〉平面形は、おおよそ東西方向に延びる溝状で、開口部は1.98×0.54m、底面1.20×0.24m、深さ0.83mを測る。
〈堆積土〉５層からなる。黒褐色粘質シルト、暗褐色粘質シルトが主体である。各層に前後の層のブロックが多く混入している。自然堆積である。
〈壁・底面〉壁は、外傾しており、底面は一部礫が露出しているが、概ね平坦である。
〈出土遺物〉出土していない。
〈時期〉検出面から、縄文時代と判断した。



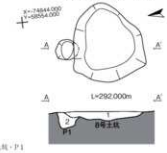

第15図　１～５号土坑

## 6号土坑



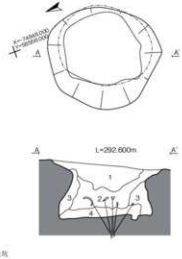

6号土坑
1.10YR2/1　黒色シルト　粘性やや強　しまりやや密
2.10YR2/2　黒褐色シルト　粘性中　しまりやや密
　　地山ブロック5～7％含む。

## 8号土坑　P1



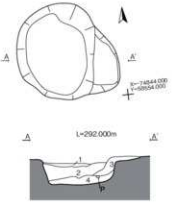

8号土坑・P1
1.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性中　しまりやや密
2.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや密
　　暗褐色粘質シルトブロック7～10%、地山粒1～2％、炭化物3～5％％含む。

## 9号土坑



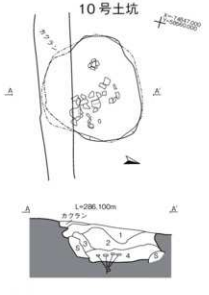

9号土坑
1.10YR2/2　黒褐色シルト　粘性弱　しまり緩
　　暗褐色シルトブロック7～10%、花崗岩粒10～15%含む。
2.10YR2/3　黒褐色シルト　粘性弱　しまり緩
　　赤褐色焼土ブロック10～15%、暗褐色シルトブロック10～15%、
　　炭化物粒2～3%、花崗岩粒10～15%含む。
3.10YR2/3　黒褐色シルト　粘性やや弱　しまり緩
4.10YR17/1　黒色シルト　粘性やや弱　しまり緩

## 7号土坑




7号土坑
1.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性弱　しまりやや密
　　黒褐色シルトブロック5％含む。
2.10YR2/2　黒褐色シルト　粘性やや強　しまりやや密
　　地山粒1～2％、炭化物粒1～2％含む。
3.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性中　しまりやや緩
　　花崗岩粒1～2％含む。
4.10YR2/2　黒褐色粘質シルト　粘性やや弱　しまり緩
　　暗褐色土シルトブロック10%地山ブロック10～15%含む。

## 10号土坑




10号土坑
1.10YR2/3　黒褐色シルト　粘性やや弱　しまり緩
　　地山ブロック10～15%、花崗岩粒1～2％含む。
2.10YR2/2　黒褐色粘質シルト　粘性中　しまりやや密
　　地山粒2～10%、花崗岩粒1～2％含む。
3.10YR2/2　黒褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや密
　　地山粒1～2％含む。
4.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性強い　しまり密
　　炭化物粒1～2％含む。

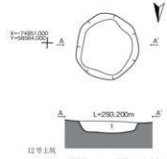
0　1:50　1m

第16図　6～10号土坑

## 11 号土坑

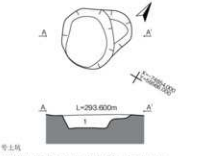
11 号土坑
1.10YR2/3　黒褐色粘質シルト　粘性やや強　しまり密
　　明褐色粘質シルトブロック 10 ～ 20%、花崗岩粒 3 ～ 5 %含む。
2.10YR2/2　黒色粘質シルト　粘性中　しまりやや密
　　花崗岩粒 1 ～ 2 %含む。
3.10YR2/2　黒色粘質シルト　粘性強　しまり密
　　明褐色地土ブロック 1 ～ 2 %、地山ブロック 10 ～ 20%含む。

## 12 号土坑



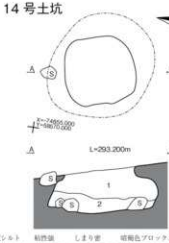

12 号土坑
1.10YR2/2　黒褐色シルト　粘性中　しまりやや緩
　　白色粒粒 10 ～ 15%含む。

## 13 号土坑



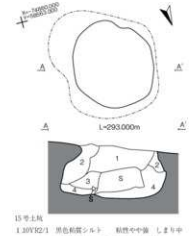

13 号土坑
1.10YR2/2　黒色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや密
　　黒褐色土ブロック 1 ～ 2 %、地山ブロック 1 ～ 2 %、
　　花崗岩粒 10 ～ 15%含む。

## 14 号土坑



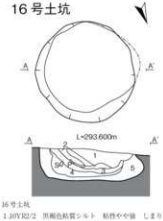

14 号土坑
1.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性強　しまり密　暗褐色ブロック 3 ～ 5 %、炭化物粒 1 ～ 2 %含む。
2.10YR2/2　黒褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや緩　明褐色地土ブロック 10 ～ 13%、
　　炭化物粒 1 ～ 2 %、花崗岩粒 1 ～ 2 %含む。

## 15 号土坑




15 号土坑
1.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性やや強　しまり中
　　暗褐色粘質シルトブロック 1 ～ 2 %、
　　地山ブロック 3 %、花崗岩粒 1 ～ 2 %含む。
2.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性やや弱　しまり中
　　暗褐色粘質シルトブロック 10 ～ 15%、
　　地山粒 3 ～ 5 %含む。
3.10YR2/2　黒褐色粘質シルト　粘性強　しまり密
　　地山ブロック 15 ～ 20%、炭化物粒 1 ～ 2 %含む。
4.10YR2/2　黒褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや緩
　　地山ブロック 1 ～ 2 %、炭化物 1 ～ 2 %含む。

## 16 号土坑

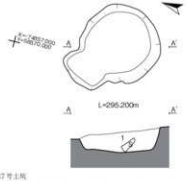



16 号土坑
1.10YR2/1　黒褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや密
　　花崗岩粒 1 ～ 2 %含む。
2.10YR2/1　黒色シルト　粘性やや弱　しまりやや緩
　　暗赤褐色地土ブロック 20 ～ 25%、炭化物粒 1 ～ 2 %含む。
3.10YR2/2　黒褐色粘質シルト　粘性中　しまりやや強
4.10YR2/2　黒褐色シルト　粘性やや弱　しまり中
5.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性強　しまりやや密

0　1:50　1m

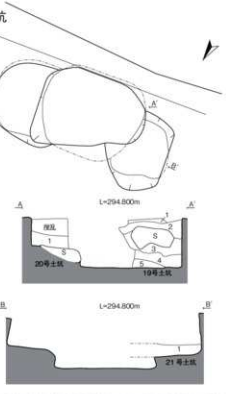
第17図　11～16号土坑

## 17 号土坑




17 号土坑
1.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや密
黒褐色粘質シルトブロック 10%、地山粒 1 ～ 2 %含む。

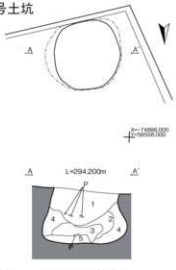
## 19・20・21 号土坑




19・20・21 号土坑

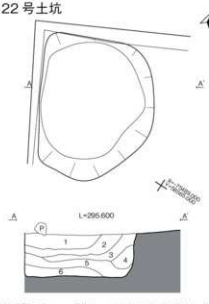
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1.10YR2/1 | 黒色シルト | 粘性やや弱 | しまりやや緩 | 赤褐色地土ブロック 1 ～ 2 %、花崗岩粒 1 ～ 2 %含む。 |
| 2.5YR5/8 | 赤褐色地土 | 粘性やや強 | しまりや | 炭化物粒 1 ～ 2 %含む。 |
| 3.10YR2/2 | 黒褐色粘質シルト | 粘性やや強 | しまり密 | 花崗岩粒 5 ～ 10%含む。 |
| 4.10YR2/2 | 黒褐色土粘質シルト | 粘性やや強 | しまり密 | 地山ブロック 10 ～ 15%含む。 |
| 5.10YR2/2 | 黒褐色土粘質シルト | 粘性やや強 | しまり密 | 地山ブロック 20 ～ 25%含む。 |

## 18 号土坑




18 号土坑
1.10YR2/1　黒色シルト　粘性やや弱　しまりやや緩
白色砂粒 10 ～ 15%、炭化物粒 1 ～ 2 %含む。
2.10YR2/2　黒褐色シルト　粘性やや強　しまりやや緩
褐色粘質シルトブロック 10%、地山ブロック 20 ～ 25%、
炭化物粒 1 ～ 2 %含む。
3.10YR2/2　黒褐色粘質シルト　粘性やや強　しまり密
地山ブロック 1 ～ 2 %、炭化物粒 1 ～ 2 %含む。
4.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性中　しまりやや密
地山ブロック 1 ～ 2 %、炭化物粒 1 ～ 2 %含む。
5.10YR2/3　黒褐色粘質シルト　粘性やや強　しまり密
暗赤褐色地土ブロック 10 ～ 15%、炭化物粒 3 ～ 5 %含む。

## 22 号土坑



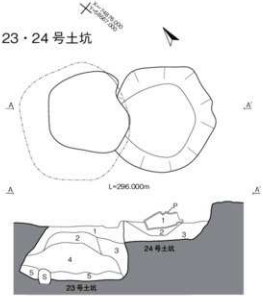

22 号土坑

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1.10YR3/1 | 黒褐色粘質シルト | 粘性中 | しまりやや密 | 地山粒 10%、炭化物粒 10%含む。 |
| 2.10YR4/3 | にぶい黄褐色粘質シルト | 粘性中 | しまり密 | 地山ブロック 5 %、炭化物粒 1 %含む。 |
| 3.10YR2/2 | 黒褐色粘質シルト | 粘性中 | しまり密 | にぶい黄褐色粘質シルトブロック 5 %含む。 |
| 4.10YR2/2 | 黒褐色粘質シルト | 粘性やや強 | しまりやや密 | 地山粒 10%含む。 |
| 5.10YR5/3 | にぶい黄褐色粘質シルト | 粘性やや強 | しまり密 | 地山ブロック 5 %含む。 |
| 6.10YR5/6 | 黄褐色粘質シルト | 粘性強 | しまり密 | にぶい黄褐色粘質シルトブロック 3 %含む。 |

0　1:50　1m

第18図　17～22号土坑

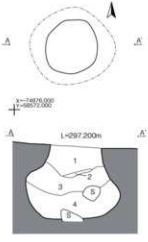
## 23・24 号土坑




23 号土坑
1.10YR2/1　黒色粘質シルト　　粘性やや強　しまりやや密
　　地山粒 10%、炭化物粒 10%含む。
2.10YR2/8　にぶい黄橙色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや密
　　地山ブロック 5%、炭化物粒 1%含む。
3.10YR3/1　黒褐色粘質シルト　　粘性中　　しまりやや密
　　にぶい黄褐色粘質シルトブロック 5%含む。
4.10YR7/8　黒褐色粘質シルト　　粘性やや強　しまり密
　　地山粒 10%含む。
5.10YR2/1　にぶい黄褐色粘質シルト　粘性中　　しまりやや密
　　地山ブロック 5%含む。

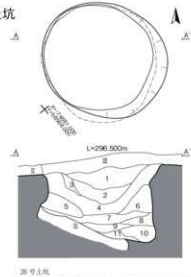
24 号土坑
1.10YR2/1　黒色粘質シルト　　粘性やや強　しまりやや密
　　地山粒 1%、土器内耳鍋土 1%含む。
2.10YR4/2　灰黄褐色粘質シルト　粘性やや弱　しまり密
　　地山粒 5%含む。
3.10YR2/1　黒色粘質シルト　　粘性中　　しまりやや密
　　地山粒 5%、灰黄褐色粘質シルト 5%含む。

## 25 号土坑



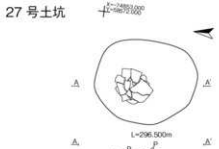

25 号土坑
1.10YR1.7/1　黒色粘質シルト　　粘性弱　しまりやや密
　　黒褐色粘質シルトブロック 5%含む。
2.5YR3/3　暗赤褐色シルト　粘性弱　しまりやや密　黒色粘質シルト 5%含む。
3.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性強　しまり密　　地山ブロック 15%含む。
4.10YR3/1　黒褐色粘質シルト　粘性強　しまりやや密　地山ブロック 25%含む。

## 26 号土坑




26 号土坑
1.10YR3/1　黒褐色粘質シルト　　粘性やや強　しまりやや密
　　灰白色砂 15%含む。
2.10YR3/1　黒褐色粘質シルト　　粘性やや強　しまりやや密
　　地山粒 3%含む。
3.10YR4/2　灰黄褐色粘質シルト　粘性中　　しまり中
　　地山土粒 5%含む。
4.10YR2/1　黒色粘質シルト　　粘性中　　しまりやや密
　　焼土粒 1%、地山土粒 1%含む。
5.10YR4/2　灰黄褐色粘質シルト　粘性やや強　しまり中
　　黒色粘質シルト 5%含む。
6.10YR3/6　黄褐色粘質シルト　　粘性やや強　しまりやや密
　　黒色粘質シルト 5%、黒色粘質シルト 10%含む
7.10YR3/2　黒褐色粘質シルト　　粘性中　　しまり中
　　黄褐色粘質シルト 10%含む。
8.10YR5/6　黄褐色粘質シルト　　粘性中　　しまりやや緩
　　黒褐色粘質シルト 5%含む。
9.10YR3/2　黒褐色粘質シルト　　粘性中　　しまり中
　　地山土粒 10%含む。
10.10YR5/6　黄褐色粘質シルト　　粘性中　　しまりやや緩
　　黒褐色粘質シルト 5%含む。
11.10YR3/2　黒褐色粘質シルト　　粘性中　　しまり中
　　地山土粒 10%含む。

## 27 号土坑

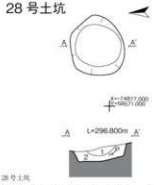



27 号土坑
1.10YR2/1　黒色粘質シルト　　粘性やや強　しまり中　　土器片、にぶい黄褐色シルト質砂 3%含む。
2.10YR5/6　黄褐色シルト質砂　粘性弱　　しまり密　　地山ブロック 3%含む。
3.10YR2.7/1　黒色粘質シルト　　粘性やや強　しまりやや密　黄褐色シルト質砂粒 3%含む。
4.10YR3.7/1　黒色粘質シルト　　粘性強　　しまりやや密　黄褐色粘質シルトブロック 1%含む。
5.10YR2/1　黒色粘質シルト　　粘性やや強　しまりやや緩　地山土粒 3%含む。
6.10YR3/1　黒褐色粘質シルト　　粘性やや強　しまり中　　地山ブロック 10%、灰黄褐色粘質シルト 10%含む。
7.10YR5/2　灰黄褐色粘質シルト　粘性中　　しまりやや密　地山土粒 5%含む。
8.10YR6/6　明黄褐色粘質シルト　粘性中　　しまりやや密　黒色土 5%、灰黄褐色粘質シルト 3%含む。
9.10YR6/6　明黄褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや密　灰黄褐色粘質シルト 5%含む。

0　1:50　1m

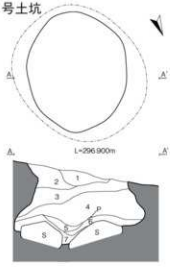
第19図　23～27号土坑

## 28 号土坑



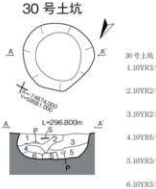

28 号土坑
1.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性中　しまりやや密
地山土粒5％含む。
2.10YR3/1　黒褐色粘質シルト　粘性やや弱　しまりやや密
地山土粒5％含む。

## 29 号土坑



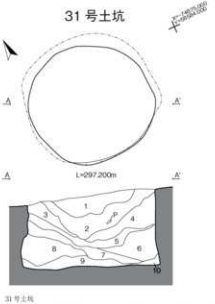

29 号土坑
1.10YR6/6　明黄褐色粘質シルト　粘性やや強　しまり密
黒色粘質シルト10％含む。
2.10YR3/1　黒褐色粘質シルト　粘性中　しまりやや密
炭化物粒1％、地山土粒3％含む。
3.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや密
にぶい黄褐色粘質シルトブロック30％含む。
4.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性強　しまり密
地山土粒5％含む。
5.10YR6/4　褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや密
地山土粒5％含む。
6.5YR3/6　暗赤褐色粘土　粘性やや強　しまりやや緩
黒色粘質シルト5％含む。
7.10YR4/4　褐色シルト　粘性やや強　しまり密
黒色粘質シルト3％含む。

## 30 号土坑



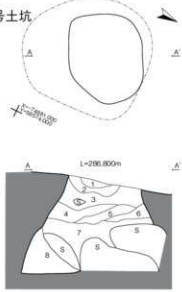

30 号土坑
1.10YR3/1　黒褐色粘質シルト　粘性中　しまりやや密
地山粒10％、炭化物1％含む。
2.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性やや強　しまり中
灰黄褐色粘質シルト5％、地山粒15％含む。
3.10YR3/2-2　黒褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや密
地山粒3％含む。
4.10YR5/3　にぶい黄褐色粘質シルト　粘性中　しまりやや密
黒色粘質シルト粒5％含む。
5.10YR3/1　黒褐色粘質シルト　粘性やや強　しまり密
地山ブロック15％含む。
6.10YR3/2　黒褐色粘質シルト　粘性中　しまり中
炭化物粒1％含む。

## 31 号土坑




31 号土坑
1.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや密
地山土粒5％含む。
2.10YR3/1　黒褐色粘質シルト　粘性やや強　しまり中
地山土粒3％、炭化物粒5％含む。
3.10YR6/6　明黄褐色粘質シルト　粘性やや強　しまり中
灰黄褐粘質シルト5％含む。
4.10YR5/4　にぶい黄褐色粘質シルト　粘性中　しまり中
灰黄褐色粘質シルト15％、地山ブロック10％含む。
5.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや緩
灰黄褐色粘質シルト5％、地山土粒10％含む。
6.10YR5/6　黄褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや緩
黒色粘質シルト20％含む。
7.10YR4/2　灰黄褐色粘質シルト　粘性中　しまり中
地山土粒5％、炭化物粒5％含む。
8.10YR5/2　灰黄褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや緩
黒色粘質シルト10％、地山ブロック20％、炭化物5％含む。
9.10YR3/1　黒褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや緩
黒色粘質シルト20％含む。
10.10YR17/1　黒色粘質シルト　粘性やや強　しまり緩
地山土粒5％含む。

## 32 号土坑

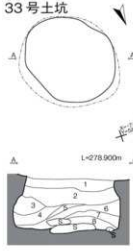



32 号土坑
1.10YR4/1　褐灰色粘質シルト　粘性やや強　しまり中　地山土粒15％含む。
2.10YR6/6　明黄褐色粘質シルト　粘性中　しまりやや密　黒色粘質シルト3％、地土粒3％含む。
3.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性やや強　しまり中　地山土粒3％含む。
4.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性やや強　しまり中　地山ブロック25％、礫3％含む。
5.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性やや強　しまり中　地山土粒3％含む。
6.10YR3/2　黒褐色粘質シルト　粘性強　しまりやや密　地山ブロック20％含む。
7.10YR5/6　明黄褐色粘質シルト　粘性強　しまりやや密　黒色粘質シルト5％含む。
8.10YR5/6　明黄褐色粘質シルト　粘性強　しまりやや密　地山土粒5％含む。

0　1:50　1m

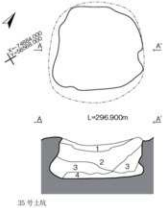
第20図　28～32号土坑

## 33 号土坑



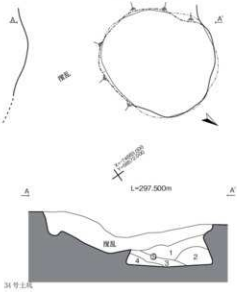

33 号土坑
1.10YR4/2　灰黄褐色粘質シルト　粘性中　しまりやや密
地山ブロック 20%含む。
2.10YR3/1　黒褐色粘質シルト　粘性やや弱　しまりやや密
灰黄褐色粘質シルト 5 %含む。
3.10YR6/6　明黄褐色粘質シルト　粘性中　しまり密
黒褐色粘質シルト 5 %含む。
4.10YR6/6　明黄褐色粘質シルト　粘性中　しまり密
黒色粘質シルト 3 %含む。
5.10YR2/1　黒色土粘質シルト　粘性やや強　しまりやや密
明黄褐色 3 %含む。
6.10YR6/6　明黄褐色粘質シルト　粘性やや弱　しまりやや緩
灰黄褐色粘質シルト 10%含む。
7.10YR4/2　灰黄褐色粘質シルト　粘性中　しまりやや密
地山ブロック 5 %含む。
8.10YR6/6　明黄褐色粘質シルト　粘性やや弱　しまりやや緩

## 35 号土坑



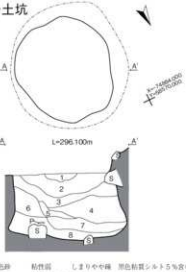

35 号土坑
1.10YR3/1　黒褐色粘質シルト　粘性中　しまり中
地山粒 3 %、炭化物粒 1 %含む。
2.10YR2/3　暗褐色粘質シルト　粘性中　しまりやや密
地山粒 3 %、礫 1 %含む。
3.10YR3/3　暗褐色粘質シルト　粘性中　しまり中
地山ブロック 10%含む。
4.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性中　しまりやや密
地山粒 1 %含む。

## 34 号土坑



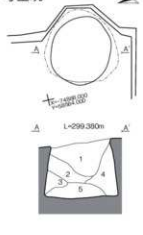

34 号土坑
1.10YR3/2　黒褐色粘質シルト　粘性中　しまり中　地山土粒 5 %含む。
2.10YR3/1　黒褐色粘質シルト　粘性中　しまりやや密　小礫 10%含む。
3.10YR5/6　明黄褐色粘質シルト　粘性中　しまり中　炭化物粒 3 %含む。
4.10YR3/2　黒褐色粘質シルト　粘性中　しまりやや密　炭化物粒 3 %含む。

## 36 号土坑




36 号土坑
1.10YR7/3　にぶい黄橙色砂　粘性弱　しまりやや緩　黒色粘質シルト 5 %含む。
2.10YR1/7.1　黒色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや緩　灰黄褐色粘質シルト 5 %含む。
3.10YR3/2　黒褐色粘質シルト　粘性やや強　しまり中　橙色地山ブロック 15%含む。
4.10YR3/1　黒褐色粘質シルト　粘性中　しまりやや密　灰黄褐色粘質シルト 20%含む。
5.5YR3/3　暗赤褐色粘質シルト　粘性やや弱　しまり中　黒褐色粘質シルト 10%含む。
6.10YR3/2　黒褐色粘質シルト　粘性やや弱　しまりやや緩　地山ブロック 5 %含む。
7.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性強　しまり中　地山土粒 5 %含む。
8.10YR4/2　灰黄褐色粘質シルト　粘性中　しまりやや緩　地山ブロック 10%含む。

## 37 号土坑

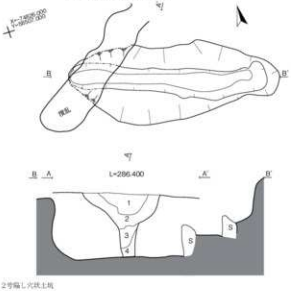



37 号土坑
1.10YR3/1　黒褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや密
地山土粒 10%含む。
2.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性やや弱　しまり中
地山土粒 15%含む。
3.10YR4/3　にぶい黄褐色粘質シルト　粘性やや弱　しまり密
地山ブロック 5 %含む。
4.10YR4/3　にぶい黄褐色粘質シルト　粘性やや弱　しまり密
地山ブロック 20%含む。
5.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性やや弱　しまり密
地山ブロック 3 %含む。

0　1:50　1m

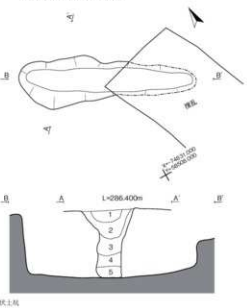
第21図　33～37号土坑

## 2号陥し穴状土坑



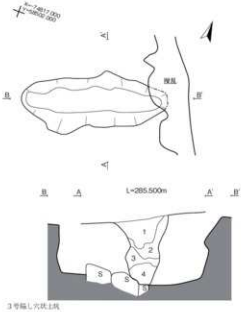

2号陥し穴状土坑
1.10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや密
2.10YR2/2　黒褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや密
　　暗褐色ブロック 10 ～ 15%、黒色ブロック 3 ～ 5 %、地山ブロック 15 ～ 20%含む。
3.10YR5/6　黄褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや緻
　　暗褐色土ブロック 20 ～ 30%、黒褐色土ブロック 3 ～ 5 %含む。
4.10YR5/6　黄褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや密
　　暗褐色土ブロック 3 ～ 5 %含む。

## 1号陥し穴状土坑



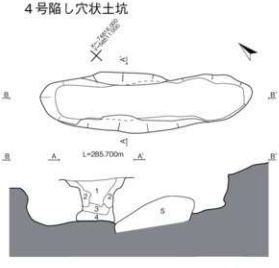

1号陥し穴状土坑
1.10YR2/1　黒色シルト　粘性やや強　しまりやや緻
　　褐色土ブロック 3 ～ 5 %、暗褐色土粒 3 ～ 5 %含む。
2.10YR3/4　暗褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや密
　　黒褐色土ブロック 10 ～ 15%、黒色土ブロック 3 ～ 5 %、地山ブロック 10 ～ 15%含む。
3.10YR4/6　褐色シルト　粘性やや強　しまりやや緻
　　暗褐色土ブロック 15 ～ 20%、黒色土ブロック 3 ～ 5 %含む。
4.10YR5/4　暗褐色シルト　粘性やや強　しまりやや緻
　　褐色土ブロック 3 ～ 5 %含む。
5.10YR2/2　黒褐色粘質シルト　粘性強　しまり密
*オーバーハングなし、自然堆積。

## 3号陥し穴状土坑




3号陥し穴状土坑
1.10YR2/3　黒褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや密
　　暗褐色シルトブロック 15 ～ 20%、地山ブロック 1 ～ 2 %、黄化物粒 1 ～ 2 %含む。
2.10YR3/4　暗褐色シルト　粘性やや強　しまりやや密
　　黒色シルトブロック 1 ～ 2 %、地山ブロック 15 ～ 20%含む。
3.10YR3/4　暗褐色シルト　粘性弱　しまり緩
　　黒褐色土ブロック 3 ～ 5 %、地山ブロック 1 ～ 2 %含む。
4.10YR3/3　暗褐色粘質シルト　粘性強　しまり密
　　褐色土シルト粒 3 ～ 5 %、花崗岩粒 10 ～ 15%含む。

## 4号陥し穴状土坑

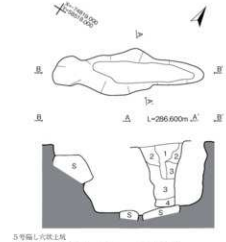



4号陥し穴状土坑
1.10YR2/1　黒色シルト　粘性やや強　しまりやや緻
　　暗褐色シルト 1 ～ 2 %、地山粒 1 ～ 2 %含む。
2.10YR4/6　褐色粘質シルト　粘性やや強　しまり密
　　暗褐色ブロック 10 ～ 15%、黒色土ブロック 1 ～ 2 %含む。
3.10YR3/3　暗褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや密
　　地山ブロック 15 ～ 20%、花崗岩粒 1 ～ 2 %含む。
4.10YR3/4　暗褐色粘質シルト　粘性強　しまりやや密
　　花崗岩粒 1 ～ 2 %含む。

0　1:50　1m

第22図　1～4号陥し穴状土坑

### 5号陥し穴状土坑




第23図　5号陥し穴状土坑

## (5)焼　土　遺　構

**1号焼土遺構**(第24図、写真図版26)

〈位置〉北側調査区、Ⅰ B15u に位置している。

〈検出状況〉Ⅳ層付近から赤褐色の焼土ブロックが混入した黒色土のプランを確認した。

〈重複関係〉なし。

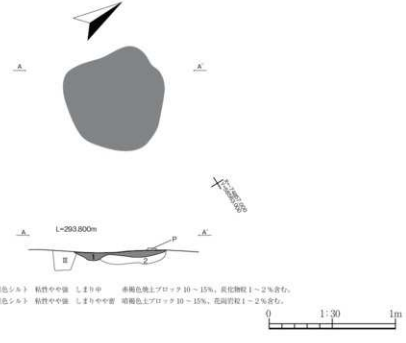
〈形状・規模〉平面形は、概ね円形である。規模は0.80×0.70m、深さ3cmを測る。

〈堆積土〉2層からなる。埋土上層中に、赤褐色焼土ブロックを含む黒色シルトが主体である。炭化物粒を少量含む。

〈遺物〉縄文土器46.29g が出土している。縄文土器1点を掲載した。85はクランク状とみられる帯状文を沈線によって施文し、一部区画内を磨消す。Ⅱ群b類に相当する土器である。

〈時期〉遺構検出面、出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉と判断した。

### 1号焼土遺構



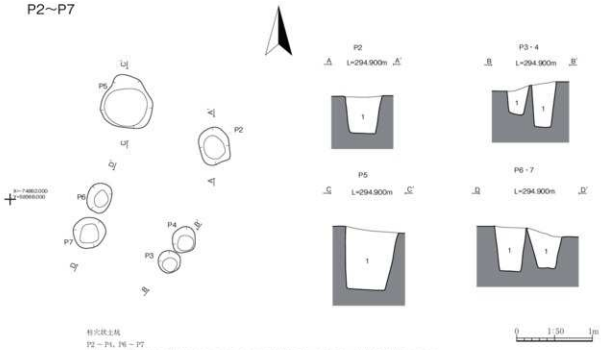

第24図　1号焼土遺構

### (6)柱 穴 状 土 坑

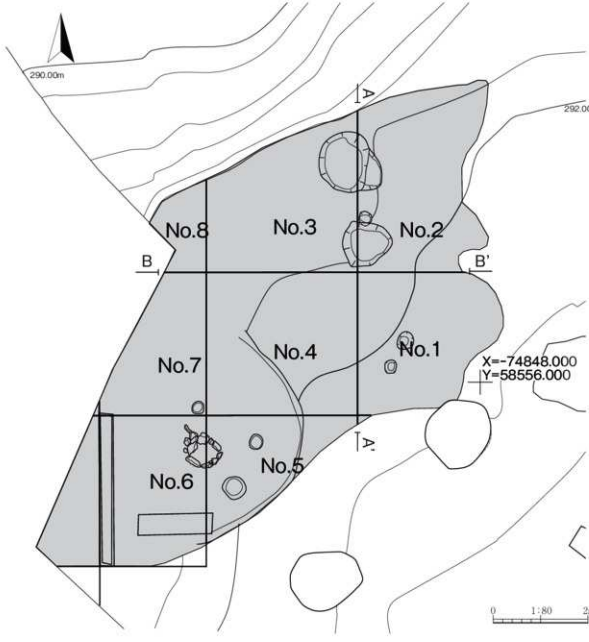
今回確認した柱穴状土坑(第25図)は７個で、すべてⅣ層面から検出した。埋土は、１層からなり、黒色粘質シルトが主体である。P5には焼土粒が含まれている P3・4、P6・7の規格、配列は類似性が非常に高い。遺物等は出土していない。何れも北側調査区の自然流路左岸から確認している。ある程度配列に規則性が見られるが、住居等の遺構や、遺物の集積が見られなかったため詳細については不明である。移行時期は、遺構検出面から、すべて縄文時代中期～後期であると判断した。

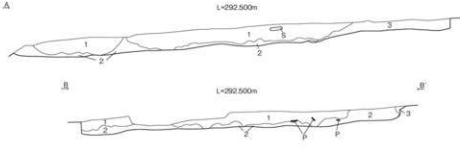
### (7)遺 物 包 含 層

〈位置・検出状況〉北側調査区ⅠＢ12r・ⅠＢ12s～ⅠＢ13r・ⅠＢ13s 周辺(第26図、写真図版27～30)から北側斜面地上で確認した。調査区内でも一際遺物の出土量が多く、主にⅡ～Ⅳ群の土器を包含している。検出した際、遺物包含層東側(No. １～４)は、半円形のプランを呈しており、竪穴住居跡として調査を行ったが、焼土や床面の硬化、壁の立ち方、床面施設などが明確に確認できず、遺物を多く包含していたことから、遺物包含層と判断した。遺物包含層西側(No. ５～８)については、住居埋土上に土器を多く含んだ黒色シルトが堆積している。これは遺物包含層東側(No. １～４)と同様であるため、遺物包含層とした。一部竪穴住居埋土上位遺物が混在する。遺物包含層完掘状況、地形図を見ると調査区外西側斜面下にかけてこの遺物包含層が広がると想定される。
〈規模〉緩斜面地の平坦部に形成されており、約56.538㎡が該当する。土層は基本土層Ⅲ～Ⅳ層からなり、黒色粘質シルトからなるⅢ層が主体となる。
〈出土遺物〉調査にあたって、遺物包含層を８区分した。それぞれ No.1(368.99g)、No.2(6126.89g)、No.3(5571.73g)、No.4(1740.68g)、No.5(2299.33g)、No.6(1705.46g)、No.7(293.45g)、No.8(243.31g)、




第25図　柱穴状土坑




1.10YR2/1　黑色シルト　粘性やや弱　しまりやや密　黑褐色シルトブロック7～10%、黄褐色シルト粒3～5%含む。縄文時代中期～後期の遺物を多く含む。
2.10YR2/2　黑褐色粘性シルト　粘性やや強　しまりやや密　黄褐色シルトブロック10～15%、花崗岩粒7～10%含む。
3.10YR5/6　黄褐色シルト　粘性やや弱　しまりやや密　暗褐色シルトブロック7～10%、明黄褐色シルトブロック20～25%、花崗岩粒7～10%含む。

第26図　遺物包含層

その他(1145.19g)の縄文土器が出土しており、石器、土製品等も出土している。

縄文土器28点を掲載した。95・96は胴部片で、隆沈線による渦巻文を施文する。Ⅰ群ａ類に相当する土器である。96～98・100・107～109・116はいずれも、器面に縄文を施文し、逆U字・円形に沈線によって区画文を施文し、口縁部から胴部にかけて磨消を施す。99・108は隆沈線、鰭状隆帯を施文する。107は中空把手状口縁部片である。Ⅰ群ｂ類に相当する土器である。

118は口縁部片であり、地文に RL 複節斜縄文を施文する。口唇部には鰭状の突起を持つ。Ⅱ群ｂ類に相当する土器である。

111は無文の壷型土器と想定される。頚部は欠損しており、器面を磨く。Ⅲ群に相当する土器である。

110は台付土器台部片で、並行沈線・波状沈線により施文し、器面を磨く。Ⅳ群に相当する土器である。

102・103・111～114・119・120・122は縄文時代中期～後期の粗製土器とみられる。102は地文に LR 複節斜縄文を施文する。口縁部に向けて広く外傾する。111は口縁部が括れており、一部に無文体を持つ。122は無文であり、底部を欠損する。浅鉢土器と見られる。Ⅴ群に相当する土器として分類した。

石器は５点掲載した。258は石鏃で、一部欠損が見られるが、頚部を持つ。268は掻削器で、台形状の縁辺に使用痕が見られる。276は石斧であり、磨いて調整を加えている。刃部に一部欠損が見られる。289は敲石とみられるが、表面が風化しており判別が困難であったが、叩打痕が石器中央部に見られたため、石器であると判断した。

土製円盤は１点掲載した。243は小型の土製円盤であり、縄文が見られるため、土器片を再利用したものであると判断した。

〈時期〉出土土器の大半はⅢ層上位面から出土しており、Ⅰ群に相当する土器が大半である。これに混じってⅡ～Ⅳ群相当の土器が出土している。この包含層下から、縄文時代後期にあたる２号竪穴住居が検出している。このため、この遺物包含層は、２号住居跡廃絶後、遺跡の南側から縄文時代中期の遺物を含んだⅢ層土が何らかの形で、流れ込んできていると想定した。このため、遺物包含層の形成時期は縄文時代中期～後期頃と推察する。

## 5　遺構外出土遺物

縄文土器116点、石器29点、土製品８点が出土している。遺物の大半は南側調査区のⅠB12～14、北側調査区ⅠB19～20のⅢ層土中から出土しており、縄文時代後期の土器が多く出土している。ⅠB12周辺については、遺物包含層に掛る部分でもあるが、遺物包含層認定を行う前に出土した遺物のため、遺構外出土遺物として取り扱うこととする。

### (1)縄　文　土　器

172・202・235は胴部、口縁部に細い隆沈線による渦巻文、区画文を施文すると想定される。182・181・183・203・222は細い隆線・沈線によって渦巻文、剣先文を施文する。これらの土器は、南側調査区のⅠB19～20のⅢ層土中より出土している。Ⅰ群ａ類に相当する土器である。

190は口縁部片とみられ、壷状土器の把手と想定する。128は隆帯を器面に貼り付け、円形の隆沈線を器面に施文する。126・155は沈線による区画文を施文し、区画文外の地文を磨消す。Ⅰ群ｂ類に相当する土器である。

130・171・223は。166・175・186・185・211・224はいずれも帯状文を持ち、S字・クランク状・工

字文の帯状文を施文する。器形は深鉢土器以外にも壷型土器などが見られる。170・176・187・207・216・217・225・226・220は口縁部に無文体を持ち、これを０条～２条の縄文原体の圧痕文で区画する。無文体はナデもしくはミガキによる調整を施す。133・169・236は口唇部上に突起を持つものである。133・236は口縁頂部に鰭型突起を持ち、これの下部に数段の沈線を施文する。169は山形状突起を持つ。Ⅱ群ａ類に相当する土器である。

127・144・164・227は口縁部に沈線もしくは並行沈線・刺突文を施文するものである。144は山形口縁であり、127は波状口縁であると想定する。192・188・208は器面に羽状縄文を施文するものである。188は異方向羽状縄文である。205は沈線による浮彫文を施文する注口土器とみられる。218は口縁部が朝顔状に開く深鉢土器の胴部片で、斜方向に沈線を交互に施文する。Ⅱ群ｂ類に相当する土器である。

228は壷型土器の頚部で、細い入組文の結節部に瘤を施文する。129・134は口唇部に突起を持ち、口縁部に連続刺突文と入組文の２段を施文する。Ⅱ群ｃ類に相当する土器である。

146は壷型土器で胴部に非結束羽状縄文を施文する。頚部と胴部を２条の沈線によって区画する。口唇部直上には沈線が施文され、３つの小突起が施される。147は小破片で、器面に横位の入組三叉文が施文され、口唇部には瘤が施され、これを直上から沈線によって施文する。135・156は、口縁部片で、数条の沈線・並行沈線を施文する。Ⅲ群に相当する土器である。

131・157・152は口縁部片で、口唇部に小突起を施文し、口縁部に数条の沈線・並行沈線を施文する。また、内面に沈線を１条施文する。158は高台付土器の台部であり、並行沈線・波状沈線を器面に施文し、これを磨く。Ⅳ群に相当する土器である。

（２）石　　器

石鏃４点、石錐１点、石匙４点、掻削器５点、石斧５点、石棒１点、磨石５点、礫器１点、黒曜石原石３点を掲載した。261は有茎鏃で先端が丸みを帯びる。259・262は尖基鏃である。260はⅠ～Ⅲ層面から出土しており、石槍と想定したが、石器自体の規格が小さいため、259・262と同様に尖基鏃であると判断した。

263は石錐で先端部が欠損している。

269～274は掻削器で、いずれもⅢ～Ⅳ層から出土している。269は石器自体に刃部が巡っている。270は横長である。271・272は円形に近く、自然面の残存する部位を刃部として使用している。273は、石器加工剥片を転用したものとみられる。

277～281は石斧である。277は刃部が欠損する。280は基部が欠損する。刃部に使用痕が見られる。281は小型の石斧であり、基部の一部が剝離している。上述した3点はいずれも、早池峰山周辺で採取された蛇紋岩を形成したものである。278は基部と刃部の一部が欠損している。

282は石棒で、南側調査区南壁トレンチを掘削した際に出土した。石器両端はほぼ直角に形成され、先端部とみられる部分に叩打による剝離が見られる。

284～288は磨石で、いずれも板状である。284・286・288は大型の磨石を砕片にし、使用したものとみられる。285は円形で、大型の磨石である。287は台形状の縦長の磨石で、３面を使用している。

291は礫器で、両面に刃部を持つ。

292～293の黒曜石は、Ⅲ層土中から出土しており、遺構内から出土したものではない。また、Ⅲ層土中より出土するため、伴出する土器との接点を検討することは困難である。産地についてはいずれも不明である。

## （3）土　製　品

238～247は土製円盤で、Ⅲ～Ⅳ層から出土する。245には条痕文が施文される。246は一部欠損している。251は遺物包含層付近から出土した土偶脚部である。装飾は無く、無文である。253は方形とみられる土製品の一部であり、繊維脱痕が確認できた。これについては事例が確認できなかったため、近代の製品の一部である可能性も高い。255は斧型土製品で１号竪穴住居内１号土坑から出土している。縄文原体による施文のみで、側面に穿孔痕が見られる。大木８～９式土器と伴出する土製品である。256・257は動物型土製品である。256は器面に工具による刺突文が施文されており、蛇等の顔と思われる文様を形成する。土器把手の一部とも想定される。257は一部欠損しているが、脚部、尻尾、背鰭状突起等、生物を象徴すると思われる部位が確認できる。また尻尾とみられる部位の下には工具を差し入れたと想定される穴を持つ。イノシシ型であると想定される。

**第１表　土器観察表（１）**

| 掲載番号 | 出土位置 | 出土層位 | 器　種 | 分類 | 残存部位 | 法量(cm) 口径 | 法量(cm) 底径 | 口唇部 | 外　面 | 内　面 | 焼成 | 図版 | 写真 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1号竪穴住居 | 縄土中 | 深鉢 | Ⅰa | 2分の1 | － | － | － | 地文(LR)　縦位→後帯(LR結束)→磨消 | ナデ(横位) | 良好 | 27 | 31 |
| 2 | 1号竪穴住居P8 | 縄土中 | 深鉢 | Ⅰb | 4分の3 | 13.0 | 6.0 | － | 地文(LL)　縦位→沈線→磨消 | ナデ(横位) | 良好 | 27 | 31 |
| 3 | 1号竪穴住ベルト | 縄土中 | 深鉢 | Ⅰb | 口縁部 | － | － | － | 地文(RL,R)　縦位→沈線→磨消 | ナデ(横位) | 良好 | 27 | 31 |
| 4 | 1号竪穴住居 | 縄土中 | 高台付土器 | Ⅴe | 底部 | － | 5.4 | － | 地文　縄文(不明) | 不明 | やや不良 | 27 | 31 |
| 5 | 2号竪穴住居　南北ベルト | 縄土中 | 小型壺 | Ⅱa | 完形 | 3.7 | 5.0 | － | 地文(LR)→沈線→口縁部磨消 | ナデ(横位) | 不良 | 27 | 31 |
| 6 | 2号竪穴住居　東西ベルト | 縄土上位 | 深鉢 | Ⅱb | 側部～底部 | (23.4) | 8.0 | － | 地文　工具による条痕(縦位→横位) | ミガキ(横位) | 不良 | 27 | 31 |
| 8 | 2号竪穴住居　東西ベルト | 縄土上位 | 深鉢 | Ⅱb | 口縁部 | － | － | － | 地文　工具による条痕(横位) | ミガキ(横位) | 不良 | 27 | 31 |
| 9 | 2号竪穴住居　東西ベルト | 床面直上 | 深鉢 | Ⅱc | 口縁部～側部 | (20.5) | － | － | 地文　赤絵筋羽状縄文(RL)→入組文→蕨住→磨消 | ナデ(横位) | 良好 | 27 | 31 |
| 9 | 2号竪穴住居　南北ベルト | 縄土上位 | 深鉢 | Ⅱc | 口縁部 | － | － | 突起状（1個） | 地文(LR)　縦位→工具による連続刺突文(横位)→沈線 | ナデ(横位) | 不良 | 27 | 31 |
| 10 | 2号竪穴住居跡　Q1 | 縄土上位 | 深鉢 | Ⅱc | 口縁部～側部 | － | － | 突起状（5個） | 地文(LR)縦位→沈線→工具による連続刺突文 | ナデ(横位) | やや不良 | 27 | 31 |
| 11 | 2号竪穴住居跡　南北ベルト | 縄土上位 | 深鉢 | Ⅱb | 口縁部 | － | － | － | 地文　縄文(不明)→沈線(4条)→一部磨消 | ナデ(横位) | やや不良 | 27 | 31 |
| 12 | 2号竪穴住居 | 床面直上 | 深鉢 | Ⅴa | 底部 | － | 5.1 | － | 地文(RL)→沈線 | ナデ(横位) | 良好 | 28 | 31 |
| 13 | 2号竪穴住居跡　東西ベルト | 縄土上位 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部～側部 | － | － | － | 工具によるナデ(横位) | ミガキ(横位) | 不良 | 28 | 31 |
| 14 | 2号竪穴住居　南北ベルト | 縄土上位 | 浅鉢 | Ⅴa | 3分の4 | 11.8 | 4.2 | － | 無文 | ナデ(縦位) | やや良好 | 28 | 31 |
| 15 | 2号竪穴住居　東西ベルト | 縄土上位 | 深鉢 | Ⅴf | 底部 | － | － | － | 不明 | ナデ | やや不良 | 28 | 31 |
| 16 | 3号竪穴住居　P1 | 縄土中 | 深鉢 | Ⅱb | 口縁部 | － | － | － | 地文(LR)→沈線→口縁部ミガキ | ミガキ(横位) | やや不良 | 28 | 32 |
| 17 | 1号土坑 | 縄土上位 | 深鉢 | Ⅴa | 側部 | － | － | － | 地文(LR)横位 | ナデ(横位) | 不良 | 28 | 32 |
| 18 | 6号土坑 | 縄土中 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部 | － | － | － | 地文(RL)横位 | ナデ(横位) | やや不良 | 28 | 32 |
| 19 | 7号土坑 | 縄土中 | 深鉢 | Ⅰb | 側部 | － | － | － | 地文(LR,L)→沈線→磨消 | ナデ(横位) | 不良 | 28 | 32 |
| 20 | 7号土坑 | 縄土上位 | 深鉢 | Ⅴf | 底部 | － | － | － | 地文(LR)横位 | ナデ(横位) | 不良 | 28 | 32 |
| 21 | 9号土坑 | 縄土下位 | 深鉢 | Ⅱb | 側部 | － | － | － | 地文(RL)縦位 | ナデ(横位) | 不良 | 28 | 32 |
| 22 | 9号土坑 | 縄土下位 | 深鉢 | Ⅱc | 側部 | － | － | － | 地文(RL)縦位→沈線→磨消→小隆帯貼付け | ナデ(横位) | やや良好 | 28 | 32 |
| 23 | 9号土坑 | 縄土下位 | 深鉢 | Ⅱc | 口縁部 | － | － | 突起状（1個） | 地文(LR)→沈線→一部磨消 | ナデ(横位) | やや良好 | 28 | 32 |
| 24 | 9号土坑 | 縄土下位 | 注口土器 | Ⅴc | 側部 | － | － | － | 無文 | ナデ(横位) | 不良 | 28 | 32 |
| 25 | 9号土坑 | 縄土下位 | 高台付土器 | Ⅴe | 底部 | － | 8.0 | － | 無文 | ナデ(横位) | 良好 | 28 | 32 |
| 26 | 9号土坑 | 縄土上位 | 深鉢 | Ⅴf | 底部 | － | 8.2 | － | 不明 | ナデ | やや不良 | 28 | 32 |
| 27 | 10号土坑 | 縄土中 | 斧型　土器？ | Ⅱ | 側部 | － | － | － | 沈線→工具による連続刺突文 | ナデ(横位) | 不良 | 28 | 32 |
| 28 | 10号土坑 | 縄土下位 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部～側部 | － | － | － | 地文(LR)→ナデ | ナデ(横位) | 良好 | 28 | 32 |
| 29 | 11号土坑 | 縄土中 | 浅鉢 | Ⅴa | 口縁部～側部 | 13.6 | － | － | 無文 | ナデ(横位) | やや不良 | 29 | 32 |

## 第2表　土器観察表（2）

| 掲載番号 | 出土位置 | 出土層位 | 器種 | 分類 | 残存部位 | 法量(cm) 口径 | 法量(cm) 底径 | 口縁部 | 外面 | 内面 | 焼成 | 図版 | 写真 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 30 | 14号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅱa | L1縁部～側部 | － | － | － | 地文(LR)→(LR)縦位→縄文原体による圧痕文→一部磨消 | ナデ(横位) | やや良好 | 29 | 32 |
| 31 | 14号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅵ | 側部～底部 | － | 9.8 | － | 地文　縄文不明 | ナデ(縦位) | 不良 | 29 | 32 |
| 32 | 15号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅱa | L1縁部 | － | － | － | 地文(LR)→沈線→磨消→一部工具による刺突文 | ナデ(横位) | 良好 | 29 | 33 |
| 33 | 15号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅱa | L1縁部 | － | － | － | 地文(LR)横位→縄文原体による圧痕文→一部磨消 | ナデ(横位) | やや不良 | 29 | 33 |
| 34 | 15・19・20・23号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅵ | 側部～底部 | － | 10.4 | － | 無文 | ナデ(横位) | やや良好 | 29 | 33 |
| 35 | 15号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅵ | 底部 | － | 4.2 | － | 無文 | ナデ(横位) | やや良好 | 29 | 33 |
| 36 | 16号土坑 | 埋土中 | 壺型土器 | Ⅱa | 側部～底部 | － | 5.0 | － | 地文(LR)→沈線によるS字クランク状の弧状文→一部磨消 | ナデ(横位) | 良好 | 29 | 33 |
| 37 | 16号土坑 | 埋土中 | 壺型土器 | Ⅱa | 3分の4 | (6.0) | 7.3 | － | 地文(RL)横位→縄文原体による圧痕文→部部磨消 | ナデ(横位) | 良好 | 29 | 33 |
| 38 | 16号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅱa | L1縁部 | － | － | － | 地文(RL)縦位→縄文原体による圧痕文→磨消 | ナデ(横位) | やや不良 | 29 | 33 |
| 39 | 16号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅴa | L1縁部 | － | － | － | 地文(LR)→縄文原体による圧痕文→一部磨消 | ナデ(横位) | やや不良 | 29 | 33 |
| 40 | 17号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅴa | L1縁部 | － | － | － | 地文(RL) | ナデ(横位) | 不良 | 29 | 33 |
| 41 | 18号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅱa | L1縁部 | － | － | 山形 | 地文(LR)→沈線によるクランク状の帯状文→一部磨消 | ナデ(横位) | 不良 | 30 | 33 |
| 42 | 18号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅱa | L1縁部～側部 | － | － | － | 地文(RL)→縄文原体による圧痕文→L1縁上部・側部下部ナデ調整 | ナデ(横位) | やや不良 | 30 | 33 |
| 43 | 18号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅱa | L1縁部 | － | － | － | 地文(RL)横位→沈線→一部磨消 | ナデ(横位) | やや不良 | 30 | 33 |
| 44 | 18号土坑 | 埋土中 | 浅鉢 | Ⅴb | 3分の4 | (14.0) | 6.8 | － | 無文 | ナデ(横位) | 不良 | 30 | 33 |
| 45 | 18号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅵ | 側部～底部 | － | (10.6) | － | 無文 | ナデ(横位) | 良好 | 30 | 33 |
| 46 | 18号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅵ | 側部～底部 | － | (12.4) | － | 無文 | ナデ(横位) | 不良 | 30 | 33 |
| 47 | 18号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅵ | 側部～底部 | － | (10.9) | － | 地文(RL)→一部ナデ調整 | ナデ(横位) | 不良 | 30 | 34 |
| 48 | 18号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅵ | 側部～底部 | － | (11.2) | － | 無文 | ナデ(横位) | 不良 | 30 | 34 |
| 49 | 18号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅵ | 底部 | － | (10.5) | － | 不明 | 不明 | やや不良 | 30 | 34 |
| 50 | 19・20・23号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅱa | L1縁部 | － | － | － | 地文(RL)→沈線による区画文・渦巻文→一部磨消 | ナデ(横位) | やや不良 | 31 | 34 |
| 51 | 19・20・23号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅱa | L1縁部～側部 | － | － | － | 地文(RL)→L1縁横位→沈線による区画文・円形・クランク状帯状文→区画内磨消 | ナデ(横位) | 良好 | 31 | 34 |
| 52 | 19・20・23号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅱa | L1縁部 | － | － | － | 地文(LR)→沈線による円形・クランク状帯状文→一部磨消 | ナデ(横位) | 良好 | 31 | 34 |
| 53 | 19・20・23号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅱc | 側部 | － | － | － | 地文(RL)縦位→沈線による区画文→区画文外を磨消 | ナデ(横位) | 不良 | 31 | 34 |
| 54 | 22号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅰa | L1縁部 | － | － | － | 地文(LR)→隆帯による区画→工具によるナデ調整(隆帯摩) | ナデ(横位) | 不良 | 31 | 34 |
| 55 | 23・24号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅰa | L1縁部 | － | － | － | 地文(RL)→隆沈線による区画文→一部磨消→L1縁部上部隆沈線 | ナデ(横位) | やや不良 | 31 | 34 |
| 56 | 23・24号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅴa | ほぼ完形 | 26.0 | 14.0 | － | 地文(RL)→L1縁部ナデ調整 | ナデ(横位) | やや良好 | 31 | 34 |
| 57 | 23・24号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅱa | L1縁部～側部 | － | － | － | 地文(LR)→L1縁横位→沈線区画文修体→沈線区画文内の磨消→工具による刺突文 | ナデ(横位) | やや不良 | 31 | 35 |
| 58 | 25号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅴa | L1縁部 | － | － | － | 地文(RL)縦位→一部磨消 | ナデ(横位) | やや不良 | 31 | 35 |
| 59 | 26号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅰb | 側部 | － | － | － | 地文(LR)L→沈線→磨消 | ナデ(横位) | 不良 | 31 | 35 |
| 60 | 27号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅱa | L1縁部～側部 | － | － | － | 地文(RL)→縄文原体による圧痕文→L1縁部～部磨消→側部下位をナデ調整 | ナデ(横位) | やや良好 | 31 | 35 |
| 61 | 28号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅰa | 側部～底部 | － | 7.4 | － | 地文(RL)縦位→沈線(刺先文) | ナデ(横位) | 良好 | 32 | 35 |
| 62 | 28号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅱa | L1縁部 | － | － | － | 地文(RL)→沈線→一部磨消→工具による刺突文 | ナデ(横位) | 不良 | 32 | 35 |
| 63 | 28号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅴa | L1縁部～側部 | (34) | － | － | 地文(RL)→L1縁部磨消 | ナデ(横位) | 不良 | 32 | 35 |
| 64 | 28号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅵ | 底部 | － | 8.0 | － | 無文 | ナデ(横位) | やや不良 | 32 | 35 |
| 65 | 29号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅱa | L1縁部～側部 | － | － | － | 地文(RL)縦位→沈線による区画文→区画文内磨消 | ナデ(横位) | 良好 | 32 | 35 |
| 66 | 29号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅱa | L1縁部 | － | － | － | 地文(RL)→縄文原体による圧痕文(2条)→圧痕文内を磨消 | ナデ(横位) | 不良 | 32 | 35 |
| 67 | 29号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅱa | L1縁部 | － | － | － | 地文(LR)→縄文原体による圧痕文(2条)→圧痕文内を磨消 | ナデ(横位) | 良好 | 32 | 35 |
| 68 | 29号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅵ | 底部 | － | (14.0) | － | 不明 | 不明 | 良好 | 32 | 36 |

## 第３表　土器観察表（３）

| 掲載番号 | 出土位置 | 出土層位 | 器　種 | 分類 | 残存部位 | 法量(cm) 口径 | 法量(cm) 底径 | 口唇部 | 外　面 | 内　面 | 焼成 | 図版 | 写真 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 69 | 29号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅵ | 底部 | － | (9.4) | － | 不明 | 不明 | やや不良 | 32 | 36 |
| 70 | 30号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部～胴部 | － | － | － | 地文(Lr)→縄文原体による圧痕文(沒彫)→圧痕文間磨消 | ナデ(横位) | 良好 | 32 | 36 |
| 71 | 30号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部 | － | － | － | 地文(LR)→沈線による区画文→工具による刺突文(刃形) | ナデ(横位) | やや不良 | 32 | 36 |
| 72 | 30号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅵ | 底部 | － | (6.0) | － | 不明 | 不明 | 不良 | 32 | 36 |
| 73 | 30号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅵ | 胴部～底部 | － | 13.6 | － | 無文 | ナデ(横位) | 不良 | 32 | 36 |
| 74 | 31号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅰa | 口縁部 | － | － | － | 隆沈線による渦巻文 | ミガキ | 不良 | 33 | 36 |
| 75 | 31号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部～胴部 | － | － | － | 地文(LR)磨消→口縁部磨消 | ナデ(横位) | やや良好 | 33 | 36 |
| 76 | 31号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅱb | 口縁部 | － | － | － | 沈線→工具による圧痕文 | ミガキ(横位) | やや不良 | 33 | 36 |
| 77 | 31号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅱb | 33gの4 | － | 10.6 | － | 地文(LR)→沈線 | ナデ(横位) | 良好 | 33 | 36 |
| 78 | 31号土坑 | 埋土中 | 浅鉢 | Ⅴa | 完形 | 8.1 | 4.0 | － | 無文 | ナデ(横位) | やや不良 | 33 | 36 |
| 79 | 31号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部～胴部 | 12.7 | － | － | 無文 | ナデ(横位) | 良好 | 33 | 36 |
| 80 | 33号土坑 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅵ | 胴部～底部 | － | (5.6) | － | 不明 | ナデ(横位) | やや良好 | 33 | 36 |
| 81 | 34号土坑 | 埋土上位 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部 | － | － | － | 地文(RL)縦位 | ナデ(横位) | やや不良 | 33 | 36 |
| 82 | 35号土坑 | 埋土 | 深鉢 | Ⅵ | 底部 | － | － | － | 無文 | ナデ(横位) | 不良 | 33 | 36 |
| 83 | 36号土坑 | 埋土 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部 | － | － | － | 地文(RL)→縄文原体による圧痕文→一部磨消 | ナデ(横位) | 不良 | 33 | 36 |
| 84 | 36号土坑 | 埋土 | 壺型土器？ | Ⅱa | 胴部～底部 | － | (4.8) | － | 地文(LR)→沈線→一部磨消 | ナデ(横位) | 良好 | 33 | 36 |
| 85 | 37号土坑 | 埋土 | 深鉢 | Ⅱa | 胴部 | － | － | － | 地文(LR)横位→沈線→一部磨消 | ナデ(横位) | 不良 | 33 | 36 |
| 86 | 37号土坑 | 埋土 | 深鉢 | Ⅱc | 口縁部～胴部 | (12.1) | － | － | 地文(LR)→縄文原体による圧痕文 | ナデ(横位) | やや良好 | 33 | 36 |
| 87 | 37号土坑 | 埋土 | 深鉢 | Ⅵ | 底部 | － | 14.4 | － | 無文 | ナデ(横位) | 良好 | 33 | 37 |
| 88 | 1号焼土遺構 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅱa | 胴部 | － | － | － | 地文(RL)→沈線による円形帯状文→区画文→一部磨消 | ナデ(横位) | 良好 | 34 | 37 |
| 89 | 自然流路 | 埋土上位 | 深鉢 | Ⅰb | 口縁部 | － | － | － | 隆帯貼付け→工具による沈線 | ナデ(横位) | やや不良 | 34 | 37 |
| 90 | 自然流路 | 埋土上位 | 深鉢 | Ⅱ | 胴部 | － | － | － | 地文(RL)→工具による連続刺突文→沈線による山形文 | ナデ(横位) | 不良 | 34 | 37 |
| 91 | 自然流路 | 埋土上位 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部 | － | － | 沈線 | 地文(RL)横位→沈線による区画文→口縁上部の磨消 | ナデ(横位) | 不良 | 34 | 37 |
| 92 | 自然流路 | 埋土上位 | 深鉢 | Ⅱb | 胴部 | － | － | － | 条痕文 | ナデ(横位) | やや不良 | 34 | 37 |
| 93 | 自然流路 | 埋土上位 | 深鉢 | Ⅵ | 底部 | － | － | － | 不明 | ナデ(横位) | やや不良 | 34 | 37 |
| 94 | 自然流路 | 埋土上位 | 深鉢 | Ⅵ | 底部 | － | － | － | 不明 | ナデ(横位) | 不良 | 34 | 37 |
| 95 | 北頭調査区遺物包含層No.1 | 盲層上位 | 深鉢 | Ⅰb | 口縁部 | － | － | － | 地文(LRL)→沈線による区画文→橋手文→磨消 | ナデ(横位) | やや不良 | 34 | 37 |
| 96 | 北頭調査区遺物包含層No.2 | 盲層上位 | 深鉢 | Ⅰa | 胴部 | － | － | － | 地文(LRL)→貼り付け隆帯による区画文→橋手文 | ナデ(横位) | 不良 | 34 | 37 |
| 97 | 北頭調査区遺物包含層No.2 | 盲層上位 | 深鉢 | Ⅰb | 口縁部 | － | － | － | 地文(LRL)→沈線による区画文→磨消 | ナデ(横位) | 良好 | 34 | 37 |
| 98 | 北頭調査区遺物包含層No.2 | 盲層上位 | 深鉢 | Ⅰb | 口縁部 | － | － | － | 地文(LRL)→沈線による区画文→磨消 | ナデ(横位) | 不良 | 34 | 37 |
| 99 | 北頭調査区遺物包含層No.2 | 盲層上位 | 深鉢 | Ⅰb | 口縁部 | － | － | － | 地文(LR)→沈線による区画文→磨消 | ナデ(横位) | 不良 | 34 | 37 |
| 100 | 北頭調査区遺物包含層No.2 | 盲層上位 | 深鉢 | Ⅰb | 口縁部～胴部 | 25.2 | － | － | 地文(LRL)→貼り付け隆帯による橋手文→沈線に逆U字状区画文→口縁上部磨消→口縁上部に沈線(沒彫) | ナデ(横位) | 良好 | 34 | 37 |
| 101 | 北頭調査区遺物包含層No.2 | 盲層上位 | 壺型土器？ | Ⅱ | 胴部 | － | 4.5 | － | ミガキ | ミガキ(横位) | 良好 | 34 | 37 |
| 102 | 北頭調査区遺物包含層No.2 | 盲層上層 | 深鉢 | Ⅴa | 胴部～底部 | － | － | － | 地文(LR) | ナデ(横位) | やや不良 | 35 | 37 |
| 103 | 北頭調査区遺物包含層No.2 | 盲層上位 | ミニチュア土器 | Ⅵ? | 胴部～底部 | － | (2.6) | － | 無文 | ナデ(横位) | 良好 | 35 | 37 |
| 104 | 北頭調査区遺物包含層No.2 | 盲層上位 | 深鉢 | Ⅵ | 口縁部～胴部 | － | － | － | 地文(LR) | ナデ(横位) | 不良 | 35 | 37 |
| 105 | 北頭調査区遺物包含層No.2 | 盲層上位 | ミニチュア土器 | Ⅵ | 胴部～底部 | － | (4.5) | － | 然糸文(RL)縦位 | ナデ(横位) | 不良 | 35 | 37 |
| 106 | 北頭調査区遺物包含層No.3 | 盲層上位 | 深鉢 | Ⅰb | 胴部～底部 | － | 8.4 | － | 地文(LR)→沈線による区画文 | ナデ(横位) | やや不良 | 35 | 38 |
| 107 | 北頭調査区遺物包含層No.3 | 盲層上位 | 深鉢 | Ⅰb | 口縁部 | － | － | 中空把手 | 地文(LRL)→沈線による区画文→磨消 | ナデ(横位) | やや不良 | 35 | 38 |
| 108 | 北頭調査区遺物包含層No.3 | 盲層上位 | 深鉢 | Ⅰb | 口縁部 | － | － | － | 地文(LRL)→貼り付け隆帯による橋手文→磨消 | ナデ(横位) | 不良 | 35 | 38 |

## 第4表　土器観察表（4）

| 掲載番号 | 出土位置 | 出土層位 | 器　種 | 分類 | 残存部位 | 法量(cm) 口径 | 法量(cm) 底径 | 口縁部 | 外　面 | 内　面 | 焼成 | 図版 | 写真 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 109 | 北側調査区遺物包含層No.3 | Ⅱ層上位 | 深鉢 | Ⅰb | 口縁部 | － | － | － | 地文(RL)→沈線による区画文→隆沈線による蕨手文→口縁上部に沈線(2条)→磨消 | ナデ(横位) | 不良 | 35 | 38 |
| 110 | 北側調査区遺物包含層No.3 | Ⅱ層上位 | 高台付土器 | Ⅳ | 底部 | － | － | － | 波状沈線→ミガキ | ミガキ | 不良 | 35 | 38 |
| 111 | 北側調査区遺物包含層No.3 | Ⅱ層上位 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部～側部 | 28.8 | － | － | 地文(LRL) | ナデ(横位) | 良好 | 35 | 38 |
| 112 | 北側調査区遺物包含層No.3 | Ⅱ層上位 | 深鉢 | Ⅴa | 側部～底部 | － | (9.6) | － | 地文(LRL) | ナデ(横位) | 不良 | 36 | 38 |
| 113 | 北側調査区遺物包含層No.3 | Ⅱ層上位 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部～側部 | － | － | － | 地文(LR)→口縁上部に工具による沈線→磨消 | ナデ(横位) | やや良好 | 36 | 38 |
| 114 | 北側調査区遺物包含層No.3 | Ⅱ層上位 | 浅鉢? | Ⅴb | 口縁部 | － | － | － | 地文(LR) | ナデ(横位) | 不良 | 36 | 38 |
| 115 | 北側調査区遺物包含層No.3 | Ⅱ層上位 | 深鉢 | Ⅵ | 側部～底部 | － | 8.4 | － | 地文(RL)横位 | ナデ(縦位,横位) | 不良 | 36 | 38 |
| 116 | 北側調査区遺物包含層No.4 | 表土中 | 深鉢 | Ⅰb | 3分の1 | 8.1 | 5.0 | － | 地文(LR)→沈線による区画文 | ナデ(横位) | 良好 | 36 | 39 |
| 117 | 北側調査区遺物包含層No.4 | Ⅱ層上位 | 深鉢 | Ⅵ | 底部 | － | 4.0 | － | 無文 | 不明 | やや不良 | 36 | 39 |
| 118 | 北側調査区遺物包含層No.5 | Ⅱ層上位 | 深鉢 | Ⅱb | 口縁部 | － | － | 断面楔状突起 | 地文(RL) | ナデ(横位) | やや不良 | 36 | 39 |
| 119 | 北側調査区遺物包含層No.6 | Ⅱ層下位 | 深鉢 | Ⅴa | 側部～底部 | (3.3) | 3.4 | － | 地文(LR) | ナデ(横位) | やや良好 | 36 | 39 |
| 120 | 北側調査区遺物包含層No.6 | Ⅱ層上位 | 深鉢 | Ⅴa | 底部 | － | － | － | 無文 | ナデ | やや不良 | 36 | 39 |
| 121 | 北側調査区遺物包含層No.6 | Ⅱ層上位 | 深鉢 | Ⅵ | 底部 | － | － | － | 不明 | ナデ(横位) | 不良 | 36 | 39 |
| 122 | 北側調査区遺物包含層No.7 | Ⅱ層上位 | 浅鉢 | Ⅴa | 口縁部～側部 | 15.6 | － | － | ナデ | ナデ | 不良 | 36 | 39 |
| 123 | IH6g　IH6p IH7g　IH7p | サクラン明土 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部～側部 | － | － | － | ナデ | ナデ(横位) | 不良 | 36 | 39 |
| 124 | IB10r | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部～側部 | － | － | 一部折り返し,口縁 | 地文(LR結節)縦位 | ナデ(横位) | 不良 | 37 | 39 |
| 125 | IB11s | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅵ | 側部～底部 | (5.3) | (9.0) | － | 地文不明　横位の縄文 | ナデ | やや良好 | 37 | 39 |
| 126 | IB12s·12t·13s·13t | Ⅱ～Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅰb | 口縁部 | － | － | － | 地文(RL)→沈線による区画文→ミガキ | ナデ(横位) | 不良 | 37 | 39 |
| 127 | IB11u風倒木 | 表土中 | 深鉢 | Ⅱb | 口縁部 | － | － | － | 地文(LR)→沈線→ミガキ | ナデ(横位) | 不良 | 37 | 39 |
| 128 | IB11u風倒木 IB10r | 表土中 | 深鉢 | Ⅰb | 口縁部 | － | － | － | 地文(LRL)→隆沈線による蕨手文,沈線文→一部磨消 | ナデ(横位) | やや良好 | 37 | 39 |
| 129 | IB12r IB13r | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅱc | 口縁部 | － | － | 爪型刺突文 | 地文(RL)→帯状入組文→磨消→連続爪型刺突文 | ナデ(横位) | やや不良 | 37 | 39 |
| 130 | IB12s | Ⅱ層 | 鉢型土器 | Ⅱ | 口縁部 | 6.5 | － | － | 地文(LR)→沈線→ミガキ | ナデ(横位) | 不良 | 37 | 39 |
| 131 | IB12s | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅳ | 口縁部 | － | － | － | 並行沈線→連続刺突文→工具による穿孔 | ミガキ(横位) | 良好 | 37 | 39 |
| 132 | IB12s | Ⅱ層 | 注口土器 | Ⅴc | 注口部 | － | － | － | 無文 | 不明 | やや不良 | 37 | 39 |
| 133 | IB12s·12t·13s·13t | Ⅱ～Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅱb | 口縁部 | － | － | 隆沈線による消巻文 | 地文(LR)→台形型沈線→ミガキ | ナデ(横位) | やや良好 | 37 | 39 |
| 134 | IB12s·12t·13s·13t | Ⅱ～Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅱc | 口縁部 | － | － | 工具による施文 | 地文(LR)→帯状入組文→一部磨消→羽状沈線→連続爪型刺突文 | ナデ(横位) | 不良 | 37 | 39 |
| 135 | IB12s·12t·13s·13t | Ⅱ～Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅱ | 口縁部 | － | － | 工具による圧痕文 | 地文(LR)→沈線→一部ナデ | ナデ(横位) | 不良 | 37 | 39 |
| 136 | IB12s·12t·13s·13t | Ⅱ～Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部～側部 | － | － | － | 地文(LR)横位→沈線→口縁上部ナデ調整 | ナデ(横位) | 不良 | 37 | 39 |
| 137 | IB12s·12t·13s·13t | Ⅱ～Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅴa | 側部～底部 | － | － | － | 地文(LR) | 不明 | 不良 | 38 | 39 |
| 138 | IB12s·12t·13s·13t | Ⅱ～Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅴa | 側部～底部 | － | (10.2) | － | 地文(RL)→ナデ | ナデ(横位) | 不良 | 38 | 39 |
| 139 | IB12s | Ⅱ～Ⅳ層 | 深鉢 | Ⅵ | 底部 | － | (13.1) | － | 不明 | 不明 | 不良 | 38 | 39 |
| 140 | IB13r | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅱ | 口縁部 | － | － | 沈線 | 変形工字文→ミガキ | ミガキ | 良好 | 38 | 40 |
| 141 | IB13r | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅴa | 底部 | (9.4) | 7.6 | － | 無文 | ナデ(横位) | やや不良 | 38 | 40 |
| 142 | IB13r | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅴa | 底部 | － | 6.0 | － | 無文 | 不明 | 不良 | 38 | 40 |
| 143 | IB13r | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部 | － | － | － | 地文(LR) | ナデ(横位) | やや不良 | 38 | 40 |
| 144 | IB13r IB13s | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅱb | 口縁部 | － | (7.4) | － | 地文(LR)横位→沈線→一部磨消 | ナデ(横位) | やや良好 | 38 | 40 |
| 145 | IB13r IB14r | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部 | － | － | － | 地文(LR) | ミガキ | 不良 | 38 | 40 |

## 第５表　土器観察表（５）

| 掲載番号 | 出土位置 | 出土層位 | 器　種 | 分類 | 残存部位 | 法量(cm) 口径 | 法量(cm) 底径 | 口唇部 | 外　面 | 内　面 | 焼成 | 図版 | 写真 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 146 | B13c･B13a | Ⅱ層 | 壺型土器 | Ⅱ | 口縁部～胴部 | 106 | － | 口唇部直上に沈線 | 赤褐顔羽状縄文(LR,RL)→沈線→ナデ | ナデ(横位) | やや良好 | 38 | 40 |
| 147 | B13a | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅲ | 口縁部 | － | － | 工具による施文(沈線) | 地文(LR)→沈線による入組三叉文→一部磨消 | ナデ(横位) | やや不良 | 38 | 41 |
| 148 | B13a | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅴa | 胴部～底部 | － | (78) | － | 工具によるナデ | ナデ(横位) | 不良 | 38 | 40 |
| 149 | B13a | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅴa | 胴部～底部 | － | (88) | － | ナデ | ナデ(横位) | やや良好 | 38 | 40 |
| 150 | B13a | Ⅱ層 | 注口土器 | Ⅴc | 注口部 | － | － | － | 無文 | 不明 | 良好 | 38 | 40 |
| 151 | B13a | Ⅱ～Ⅳ層 | 深鉢 | Ⅵ | | － | 80 | － | | ナデ(横位) | 良好 | 38 | 40 |
| 152 | B14r | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅳ | 口縁部 | － | － | 工具による連続刺突文 | 地文(LR)→菱行沈線 | 菱行沈線→ナデ(横位) | 不良 | 38 | 40 |
| 153 | B14r | Ⅱ層 | 注口土器 | Ⅴc | 注口部 | － | － | － | 無文 | ナデ(横位) | 不良 | 38 | 40 |
| 154 | B14r-13r･13s付近 | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅵ | | － | 108 | － | 地文(LR)→一部ナデ | ナデ(横位) | 良好 | 38 | 40 |
| 155 | B14r-14s･13r･13s付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | 深鉢 | Ⅰb | 口縁部 | － | － | － | 地文(RL)→縦位→沈線による区画文→磨消 | ナデ(横位) | 不良 | 38 | 40 |
| 156 | B14r-14s･13r･13s付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | 深鉢 | Ⅲ | 口縁部 | － | － | 工具による圧痕文 | 沈線 | ナデ | やや良好 | 38 | 40 |
| 157 | B14r-14s･13r･13s付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | 深鉢 | Ⅲ | 口縁部 | － | － | 工具による圧痕直上に沈線 | 地文(LR)→平行沈線→連続刺突文→沈線によるモチーフ | 3ガキ | 良好 | 38 | 40 |
| 158 | B14r-14s･13r･13s付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | 高台付土器 | Ⅳ | | － | 77 | － | 菱行沈線,波状沈線→3ガキ | ナデ,3ガキ | やや不良 | 39 | 40 |
| 159 | B14r-14s･13r･13s付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | 深鉢 | Ⅴa | 底部 | － | (70) | － | 無文 | 不明 | 不良 | 39 | 40 |
| 160 | B14r-14s･13r･13s付近 | Ⅰ～Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅴa | 底部 | － | － | － | 不明 | 不明 | 不良 | 39 | 40 |
| 161 | B14r-14s･13r･13s付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | 壺型土器 | Ⅵd | 胴部～胴部 | 82 | － | － | 地文(RL)→縦位→沈線→磨消 | ナデ(横位) | 不良 | 39 | 40 |
| 162 | B14r-14s･13r･13s付近 | Ⅰ～Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅵ | 胴部～底部 | － | (70) | － | ナデ | ナデ(横位) | 不良 | 39 | 40 |
| 163 | B14r-14s･13r･13s付近 | Ⅱ～Ⅲ層 | 底部？ | Ⅵ | 胴部～底部 | － | (65) | － | 無文 | ナデ(横位) | 不良 | 39 | 40 |
| 164 | B14t | Ⅱ～Ⅳ層 | 深鉢 | Ⅲb | 口縁部 | － | (39) | 工具による圧痕文 | 沈線 | ナデ(横位) | 不良 | 39 | 40 |
| 165 | B14t | Ⅱ層 | ミニチュア土器 | Ⅵf | 底部 | － | 35 | － | 不明 | 不明 | やや不良 | 39 | 40 |
| 166 | B15g | Ⅰ～Ⅲ層 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部 | － | － | － | 地文(LR)→沈線→一部磨消→工具による刺突文 | ナデ(横位) | やや不良 | 39 | 40 |
| 167 | B15g | Ⅰ～Ⅲ層 | 深鉢 | Ⅵ | 底部 | － | (124) | － | 無文 | 不明 | 不良 | 39 | 40 |
| 168 | B15g | | 深鉢 | Ⅵ | 底部 | － | (87) | － | 無文 | 不明 | 不良 | 39 | 40 |
| 169 | B16r | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部 | － | － | 沈線による施文 | 無文 | 3ガキ(横位) | やや良好 | 39 | 40 |
| 170 | B16s | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅱa | 胴部 | － | － | － | 地文(RL)→沈線→一部磨消 | ナデ(横位) | やや良好 | 39 | 40 |
| 171 | B17t | Ⅱ～Ⅳ層 | 深鉢 | Ⅱ | 口縁部 | － | － | － | 不明 | 不明 | 不良 | 39 | 40 |
| 172 | B19w | Ⅱ層上 | 深鉢 | Ⅰa | 胴部 | － | － | － | 地文(LR)→貼付隆帯による隆沈線 | ナデ(横位) | 不良 | 39 | 40 |
| 173 | B19w | Ⅱ層上 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部 | － | － | － | 地文(RL)縦位 | ナデ(横位) | 不良 | 39 | 41 |
| 174 | B19w B20w | Ⅱ層上 | 浅鉢 | Ⅴa | ほぼ完形 | － | 25 | － | 無文 | ナデ(横位) | やや不良 | 39 | 41 |
| 175 | B19s | Ⅱ層上 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部 | － | － | － | 地文(LR)→沈線による区画文→一部磨消→工具による刺突文 | ナデ(横位) | 不良 | 39 | 41 |
| 176 | B19s | Ⅱ層上 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部 | － | － | － | 地文(LR)→縄文原体による圧痕文→一部磨消 | ナデ(横位) | 不良 | 39 | 41 |
| 177 | B19s | Ⅱ層上 | 深鉢 | Ⅲb | 口縁部 | － | － | － | 地文(RL)→沈線→一部磨消 | ナデ(横位) | 不良 | 39 | 41 |
| 178 | B19s | Ⅱ層下 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部 | － | － | － | 地文(LR) | ナデ(横位) | 不良 | 39 | 41 |
| 179 | B19s | Ⅱ層上 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部～胴部 | － | － | － | 地文(LR)縦位 | ナデ(横位) | 不良 | 39 | 41 |
| 180 | B19s | Ⅱ層上 | 深鉢 | Ⅵ | 胴部～底部 | － | － | － | 無文 | 不明 | 良好 | 40 | 41 |
| 181 | B20v | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅰa | 胴部 | － | － | － | 地文(LR)→沈線による区画文→刺先文 | 3ガキ | 不良 | 40 | 41 |
| 182 | B20v | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅰa | 口縁部 | － | － | － | 地文(LR)→沈線→沈線による刺先文→隆沈線 | ナデ(横位) | 不良 | 40 | 41 |
| 183 | B20v | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅰa | 口縁部 | － | － | － | 地文(LR)縦位→貼付仕り隆帯による隆沈線 | ナデ(横位) | やや不良 | 40 | 41 |
| 184 | B20v | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅰb | 口縁部 | － | － | － | 突起状装飾→小穿孔痕 | ナデ(横位) | やや良好 | 40 | 41 |
| 185 | B20v | Ⅱ層上 | 深鉢 | Ⅱa | 胴部 | － | － | － | 地文(LR)→沈線による区画文→磨消→工具による刺突文 | ナデ(横位) | やや良好 | 40 | 41 |
| 186 | B20v | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部 | － | － | － | 地文(LR)縦位→縄文による圧痕文→一部ナデ | ナデ(横位) | 不良 | 40 | 41 |

## 第6表　土器観察表（6）

| 掲載番号 | 出土位置 | 出土層位 | 器　種 | 分類 | 残存部位 | 法量(cm) 口径 | 法量(cm) 底径 | 口縁部 | 外　面 | 内　面 | 焼成 | 図版 | 写真 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 187 | Ⅰ B20v | Ⅱ層上 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部 | － | － | － | 地文(LR)→縄文による圧痕文→一部ナデ | ナデ(横位) | やや不良 | 40 | 41 |
| 188 | Ⅰ B20v | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅱb | 胴部 | － | － | － | 赤績東羽状縄文(LRLR) | ナデ(横位) | 不良 | 40 | 41 |
| 189 | Ⅰ B20v | Ⅱ層上 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部 | － | － | － | 地文(LR)横位→工具による沈線 | ナデ(横位) | 不良 | 40 | 41 |
| 190 | Ⅰ B20v | Ⅱ層上 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部 | － | － | － | 地文(LR)→縄文による圧痕文→一部ナデ | ナデ(横位) | 不良 | 40 | 41 |
| 191 | Ⅰ B20v | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部 | － | － | － | 隆沈線 | ナデ(横位) | やや不良 | 40 | 41 |
| 192 | Ⅰ B20v | Ⅱ層上 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部 | － | － | － | 赤績東羽状縄文(LRLR) | ナデ(横位) | 不良 | 40 | 41 |
| 193 | Ⅰ B20v | Ⅱ層上 | 壺型土器？ | Ⅴd | 胴部 | － | (34) | － | 無文 | ナデ(横位) | 良好 | 40 | 41 |
| 194 | Ⅰ B20v | Ⅱ層上 | ミニチュア土器 | Ⅴf | 口縁部 | － | － | － | 無文 | ナデ(横位) | やや不良 | 40 | 41 |
| 195 | Ⅰ B20v | Ⅱ層上 | 深鉢 | Ⅵ | 底部 | － | (98) | － | 不明 | 不明 | 不良 | 40 | 41 |
| 196 | Ⅰ B20v | Ⅱ層上 | 深鉢 | Ⅵ | 胴部～底部 | － | (56) | － | 地文(RL)横位 | ナデ(横位) | 良好 | 40 | 41 |
| 197 | Ⅰ B20v | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅵ | 胴部～底部 | － | (55) | － | 不明 | ナデ(横位) | やや不良 | 40 | 41 |
| 198 | Ⅰ B20v | Ⅱ層上 | 深鉢 | Ⅵ | 胴部～底部 | － | (112) | － | 不明 | ナデ | 不良 | 40 | 41 |
| 199 | Ⅰ B20v | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅵ | 胴部～底部 | － | (72) | － | 地文(RL)→ナデ | ナデ(横位) | 不良 | 40 | 41 |
| 200 | Ⅰ B20v | Ⅱ層上 | 浅鉢 | Ⅵ | 3分の4 | (184) | 113 | － | 無文 | ナデ(横位) | やや不良 | 40 | 41 |
| 201 | Ⅰ B20v | Ⅱ層上面 | 深鉢 | Ⅵ | 底部 | － | 144 | － | 無文 | ナデ(横位) | やや良好 | 41 | 42 |
| 202 | Ⅰ B20w | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅰa | 胴部 | － | － | － | 地文(LR)→隆沈線 | ナデ(横位) | 不良 | 41 | 42 |
| 203 | Ⅰ B20w | Ⅱ層上 | 深鉢 | Ⅰa | 胴部 | － | － | － | 地文(RL)→粘土紐による刺先文？ | ナデ | やや良好 | 41 | 42 |
| 204 | Ⅰ B20w | Ⅱ層上面 | 壺型土器？ | Ⅱb | 頸部～胴部 | － | － | － | 地文(不明)→沈線→一部磨消 | ナデ(横位) | 不良 | 41 | 42 |
| 205 | Ⅰ B20w | Ⅱ層上 | 壺型土器？ | Ⅱb | 胴部～底部 | － | 35 | － | 沈線による浮彫表現→ミガキ | ナデ(横位) | やや良好 | 41 | 42 |
| 206 | Ⅰ B20w | Ⅱ層上面 | 浅鉢 | Ⅴa | 口は完形 | 144 | 40 | － | 無文 | ナデ(横位) | やや良好 | 41 | 42 |
| 207 | Ⅰ B20x | Ⅱ層上 | 深鉢 | Ⅱa | 胴部 | － | － | － | 地文(LR)→沈線による区画文→一部磨消 | ナデ(横位) | 不良 | 41 | 42 |
| 208 | Ⅰ B20x | Ⅱ層上 | 深鉢 | Ⅱb | 口縁部 | － | － | － | 赤績東羽状縄文(LRLR)→縄文原体による圧痕文→一部磨消 | ナデ(横位) | やや良好 | 41 | 42 |
| 209 | Ⅰ B21v | Ⅱ層下 | 深鉢 | Ⅵ | 底部 | － | (102) | － | 不明 | ナデ(横位) | 不良 | 41 | 42 |
| 210 | Ⅰ B21v | Ⅱ層上面 | 深鉢 | Ⅵ | 底部 | － | 51 | － | 無文 | 不明 | やや良好 | 41 | 42 |
| 211 | Ⅰ B21w | Ⅱ層上 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部 | － | － | － | 地文(不明)→沈線によるS字状崇状文 | ナデ(横位) | 不良 | 41 | 42 |
| 212 | Ⅰ B21w | Ⅱ層上 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部 | － | 70 | － | 地文(RL)横位 | ナデ(横位) | 不良 | 41 | 42 |
| 213 | Ⅰ B21x | Ⅱ層上 | 深鉢 | Ⅴa | 底部 | － | － | － | 無文 | 不明 | 良好 | 41 | 42 |
| 214 | Ⅰ B22v | Ⅱ層上位 | 深鉢 | Ⅴa | 底部 | － | 90 | － | 無文 | ナデ(横位) | やや不良 | 41 | 42 |
| 215 | Ⅰ B22y | Ⅱ層上 | 深鉢 | Ⅱb | 底部 | － | (66) | － | 地文(RL)→沈線→一部磨消 | ナデ(横位) | 不良 | 41 | 42 |
| 216 | Ⅰ C15a | Ⅱ層中 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部 | － | － | － | 赤績東羽状縄文(LRLR)→縄文原体による圧痕文→一部磨消 | ナデ(横位) | やや不良 | 41 | 42 |
| 217 | Ⅰ C16a | Ⅱ層中 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部 | － | － | － | 赤績東羽状縄文(LRLR)→縄文原体による圧痕文→一部磨消 | ナデ(横位) | やや不良 | 41 | 42 |
| 218 | Ⅰ C17a | Ⅱ層中 | 深鉢 | Ⅱb | 口縁部 | － | － | 隆帯状突起 | 無文 | ナデ(横位) | 不良 | 41 | 42 |
| 219 | Ⅰ C18a | Ⅱ層中 | 深鉢 | Ⅵ | 底部 | － | (110) | － | 無文 | 不明 | 不良 | 42 | 42 |
| 220 | 北側調査区 | 埋土中 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部 | － | － | － | 地文(RL)→沈線→一部磨消 | ナデ(横位) | 不良 | 42 | 42 |
| 221 | 北側調査区 | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部 | － | － | － | 地文(RL) | ナデ(横位) | 不良 | 42 | 42 |
| 222 | 南側調査区 | Ⅰ～Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅰa | 胴部 | － | － | － | 地文(RL)→粘土紐発泡による刺先文？ | ナデ(横位) | 良好 | 42 | 42 |
| 223 | 南側調査区 | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅱ | 口縁部 | － | － | － | 地文(RL)→一部磨消 | ナデ(横位) | やや不良 | 42 | 42 |
| 224 | 南側調査区 | Ⅰ～Ⅱ層 | 壺型土器？ | Ⅱa | 胴部 | － | － | － | 地文(RL)→沈線によるクランク状崇状文→磨消→工具による刺突文 | ナデ(横位) | 不良 | 42 | 42 |
| 225 | 南側調査区 | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部 | － | － | － | 地文(LR)→縄文原体による圧痕文→一部磨消 | ナデ(横位) | やや良好 | 42 | 42 |
| 226 | 南側調査区 | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部 | － | － | － | 地文(LR)→縄文原体による圧痕文→一部磨消 | ナデ(横位) | やや不良 | 42 | 42 |
| 227 | 南側調査区 | Ⅱ層上層 | 深鉢 | Ⅱb | 口縁部 | － | － | － | 地文(RL)→沈線 | ナデ(横位) | やや不良 | 42 | 42 |
| 228 | 南側調査区 | Ⅰ～Ⅱ層 | 壺型土器？ | Ⅱc | 口縁部 | － | － | － | 地文(RL)→沈線→一部ナデ→粘土整形付け | ナデ(横位) | 不良 | 42 | 42 |

## 第７表　土器観察表（７）

| 掲載番号 | 出土位置 | 出土層位 | 器　種 | 分類 | 残存部位 | 法量(cm) 口径 | 法量(cm) 底径 | 口唇部 | 外　面 | 内　面 | 焼成 | 図版 | 写真 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 229 | 南側調査区 | Ⅰ～Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅶ | 底部 | － | (6.0) | － | 無文 | 不明 | やや不良 | 42 | 42 |
| 230 | 南側調査区 | Ⅰ～Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅶ | 底部 | － | (13.0) | Ⅰ | 無文 | ナデ(横位) | やや不良 | 42 | 42 |
| 231 | 南側調査区 | Ⅰ～Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅶ | 底部 | － | (7.0) | － | 無文 | 不明 | やや良好 | 42 | 42 |
| 232 | 南側調査区 | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅶ | 底部 | － | 12.4 | － | 無文 | 不明 | 不良 | 42 | 42 |
| 233 | 南側調査区 | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部 | (12.0) | － | － | 無文 | ナデ(横位) | やや不良 | 42 | 43 |
| 234 | 南側調査区 | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部 | － | － | 動物型突起か？ | 地文(RL)→沈線による方形区画文→磨消 | ナデ(横位) | 不良 | 42 | 43 |
| 235 | 地点不明 | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅰa | 口縁部 | － | 9.6 | 隆沈線による渦巻文 | 地文(LR) | ナデ(横位) | 良好 | 42 | 43 |
| 236 | 地点不明 | Ⅱ層 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部 | － | － | 棒状突起 | 地文(RL)→沈線 | ナデ(横位) | やや不良 | 42 | 43 |
| 237 | 地点不明 | Ⅱ層 | ミニチュア土器 | Ⅵf | 完形 | 4.0 | 1.6 | － | 無文 | ナデ(横位) | 良好 | 42 | 43 |

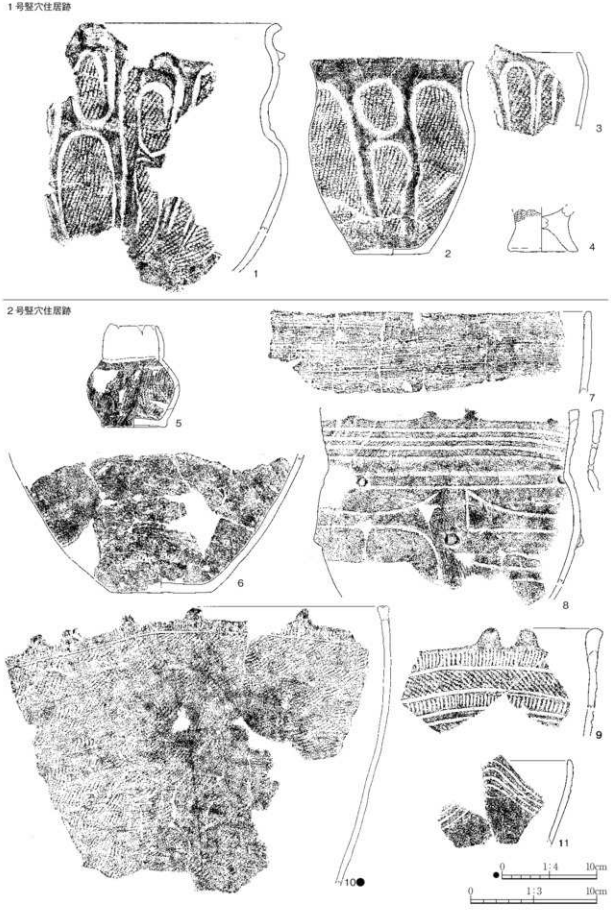
## 第８表　土製品観察表（１）

| 掲載番号 | 出土位置 | 出土層位 | 器　種 | 残存部位 | 文　様 | 外面色調<br>内面色調 | 図　版 | 写真 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 238 | 2号竪穴住居跡　Q 1 | 暗土下位 | 土製円盤 | 完形 | 地文(RLR) | にぶい黄褐色<br>にぶい黄橙色 | 43 | 43 |
| 239 | 9号土坑 | 暗土下位 | 土製円盤 | 完形 | 地文(LR) | 灰黄褐色<br>黒褐色 | 43 | 43 |
| 240 | 9号土坑 | 暗土下位 | 土製円盤 | 完形 | － | 灰黄褐色<br>にぶい黄橙色 | 43 | 43 |
| 241 | 19・20・21号土坑 | 暗土中 | 土製円盤 | 完形 | － | 黒褐色<br>にぶい黄橙色 | 43 | 43 |
| 242 | 自然流路 | 横出面 | 土製円盤 | 完形 | 沈線 | にぶい黄橙色<br>にぶい黄橙色 | 43 | 43 |
| 243 | 北側調査区包含層No3 | Ⅱ層上位 | 土製円盤 | 完形 | 地文(RL) | にぶい黄橙色<br>にぶい黄橙色 | 43 | 43 |
| 244 | Ⅰ B13r・13sl4r・14sl付近 | － | 土製円盤 | 完形 | 地文(不明) | 灰黄褐色<br>にぶい黄橙色 | 43 | 43 |
| 245 | Ⅰ B17u | Ⅱ～Ⅳ層 | 土製円盤 | 完形 | 条痕文 | にぶい黄橙色<br>灰黄褐色 | 43 | 43 |
| 246 | Ⅰ B20w | Ⅱ層下 | 土製円盤 | 一部欠損 | 地文(RL)縦位 | にぶい黄橙色<br>にぶい黄橙色 | 43 | 43 |
| 247 | 不明 | － | 土製円盤 | 完形 | 地文(RL) | 灰黄褐色<br>にぶい黄橙色 | 43 | 43 |
| 248 | 2号竪穴住居跡　南北ベルト | 暗土上位 | 土偶 | 体部背面 | － | にぶい黄橙色 | 43 | 43 |
| 247 | 2号竪穴住居跡　南北ベルト | 暗土上位 | 土偶 | 腹部 | － | にぶい黄橙色 | 43 | 43 |
| 250 | 55号土坑 | 暗土中 | 土偶 | 脚部 | － | にぶい黄橙色 | 43 | 43 |
| 251 | Ⅰ B12s | Ⅱ層 | 土偶 | 脚部 | － | にぶい黄橙色 | 43 | 43 |
| 252 | 31号土坑 | 暗土 | 粘土塊 | － | － | 浅黄橙色 | 43 | 43 |
| 253 | Ⅰ B9c | Ⅳ～Ⅴ層 | 粘土塊？ | 一部欠損 | － | 浅黄橙色 | 43 | 43 |
| 254 | 34号土坑 | Ⅰ層 | 粘土塊 | － | － | にぶい黄橙色 | 43 | 43 |
| 255 | 1号竪穴住居跡　1号土坑 | 暗土 | 形型土製品 | 完形 | 地文(RLR) | 褐灰色 | 43 | 43 |
| 256 | Ⅰ B11u　風倒木 | 暗土中 | 動物型土製品？ | 胴部片 | － | 褐灰色 | 43 | 43 |
| 257 | Ⅰ B14s | Ⅱ層 | 動物型土製品 | 胴部 | － | にぶい黄橙色 | 43 | 43 |

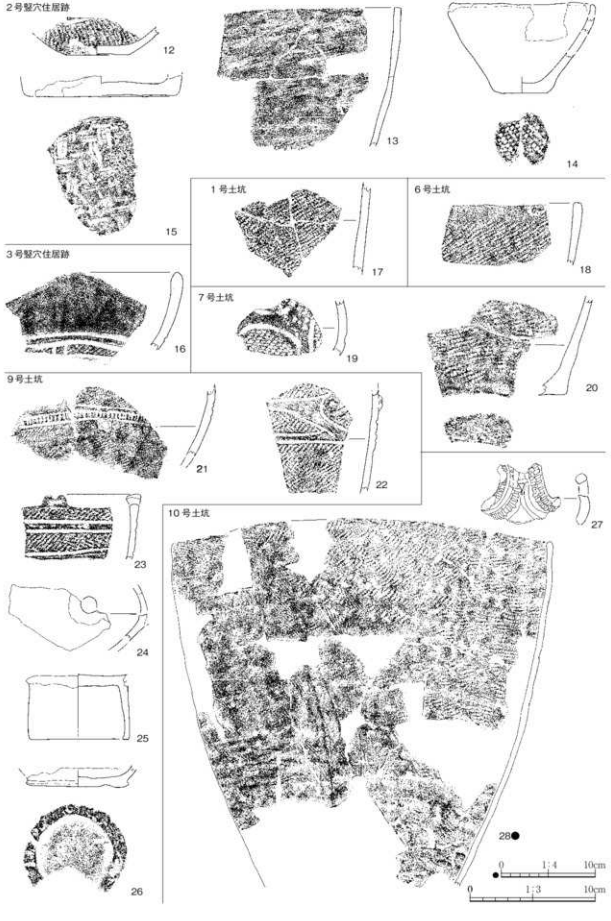
## 第９表　石器観察表（１）

| 掲載番号 | 出土位置 | 出土層位 | 器種 | 石　質 | 産　地 | 計測値(cm) | | | | | 図　版 | 写真 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 長　さ | 幅 | 厚　さ | 刃部幅 | 重量(g) | | |
| 258 | 北無調査区包含層%5 | 第層上位 | 石鏃 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 2.50 | 1.60 | 0.50 | － | 1.3 | 44 | 44 |
| 259 | I B4g | 第層 | 石鏃 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 2.60 | 0.90 | 0.30 | － | 0.7 | 44 | 44 |
| 260 | I B15g | Ⅰ～Ⅱ層 | 石鏃 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 5.85 | 1.20 | 0.70 | － | 4.9 | 44 | 44 |
| 261 | I B21v | 第層上 | 石鏃 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 2.20 | 1.70 | 0.40 | － | 1.1 | 44 | 44 |
| 262 | I B22x | 第層 | 石鏃 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | (4.30) | 0.90 | 0.60 | － | 1.9 | 44 | 44 |
| 263 | I B20w | 第層上 | 石鏃 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | (0.31) | 2.40 | 0.60 | － | 3.4 | 44 | 44 |
| 264 | I B12s | Ⅰ～Ⅱ層 | 石匙 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 3.90 | 3.70 | 1.20 | － | 12.2 | 44 | 44 |
| 265 | I B12t～12u | Ⅱ～Ⅲ層 | 石匙 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 6.00 | 5.20 | 1.40 | － | 32.7 | 44 | 44 |
| 266 | I B13u | Ⅱ～Ⅲ層 | 石匙 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 5.10 | 1.95 | 0.35 | － | 4.4 | 44 | 44 |
| 267 | I B14r | 第層 | 石匙 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 4.30 | 4.70 | 1.00 | － | 14.4 | 44 | 44 |
| 268 | 北無調査区包含層%1 | 第層上位 | 掻削器 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 7.10 | 3.80 | 1.55 | － | 37.1 | 44 | 44 |
| 269 | I B13u | 第～Ⅳ層 | 掻削器 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 7.80 | 5.30 | 1.70 | － | 58.8 | 44 | 44 |
| 270 | I B13v | 第層 | 掻削器 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 3.65 | 6.70 | 1.50 | － | 19.9 | 44 | 44 |
| 271 | I B19u | 第層上 | 掻削器 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 8.10 | 9.80 | 2.00 | － | 111.4 | 44 | 44 |
| 272 | I B19w | 第層上 | 掻削器 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 8.60 | 7.05 | 2.10 | － | 136.5 | 45 | 44 |
| 273 | I B20v | 第層上面 | 掻削器 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 3.75 | 3.20 | 1.00 | － | 12.8 | 45 | 44 |
| 274 | 28号土坑 | 埋土 | 石斧 | ホルンフェス | 北上山地　古生代(変成は中世代白亜紀) | (8.20) | 5.20 | 1.90 | － | 118.2 | 45 | 45 |
| 275 | 30号土坑 | 埋土 | 石斧？ | ホルンフェス | 北上山地　古生代(変成は中世代白亜紀) | 17.51 | 5.40 | 3.70 | － | 559.1 | 45 | 45 |
| 276 | 北無調査区包含層%7 | 第層上位 | 石斧 | 砂岩 | 北上山地　古生代 | 15.30 | 4.85 | 2.10 | 5.20 | 273.1 | 45 | 45 |
| 277 | I B15g | | 石斧 | 蛇紋岩 | 早池峰山周辺　古生代オルドビス紀 | (5.90) | 3.30 | 1.90 | － | 76.1 | 45 | 45 |
| 278 | I B20v | 第層上位 | 石斧 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | (7.30) | 5.05 | 2.45 | (4.50) | 139.0 | 45 | 45 |
| 279 | 地点不明 | 黒色土上部 | 石斧 | 砂岩 | 北上山地　古生代 | (7.05) | 4.20 | 1.90 | 4.10 | 104.1 | 45 | 45 |
| 280 | 地点不明 | 黒色土上部 | 石斧 | 蛇紋岩 | 早池峰山周辺　古生代オルドビス紀 | (5.20) | 4.30 | 1.70 | 4.15 | 59.8 | 45 | 45 |
| 281 | 地点不明 | | 石斧 | 蛇紋岩 | 早池峰山周辺　古生代オルドビス紀 | (3.40) | 1.85 | (0.48) | 1.60 | 4.5 | 45 | 45 |
| 282 | 南無調査区 | Ⅰ層 | 石棒 | ホルンフェス | 北上山地　古生代(変成は中世代白亜紀) | 29.00 | 6.10 | 2.50 | － | 869.2 | 46 | 45 |
| 283 | 北無調査区包含層%6 | 第層下位 | 磨石 | 花崗閃緑岩 | 北上山地　中世代白亜紀 | 11.70 | 9.30 | 5.70 | － | 994.2 | 46 | 45 |
| 284 | I B10r | Ⅱ層 | 磨石 | デイサイト | 北上山地　中世代白亜紀 | 12.90 | 8.50 | 4.35 | － | 751.2 | 46 | 45 |
| 285 | I B10r | Ⅱ層中 | 磨石 | 花崗閃緑岩 | 北上山地　中世代白亜紀 | 21.30 | 19.00 | 6.22 | － | 3050.6 | 46 | 46 |
| 286 | I B15g | Ⅰ～第層 | 磨石 | デイサイト | 北上山地　中世代白亜紀 | 8.73 | 5.90 | 5.60 | － | 524.2 | 46 | 46 |
| 287 | I B19w | 第層上 | 磨石 | 閃緑岩 | 北上山地　中世代白亜紀 | 14.20 | 4.10 | 3.00 | － | 328.8 | 47 | 46 |
| 288 | I B20v | 第層上位 | 磨石 | 頁岩 | 北上山地　中世代白亜紀 | 10.70 | 7.10 | 5.30 | － | 105.3.3 | 47 | 46 |
| 289 | 北無調査区包含層%9 | 第層下位 | 敲石 | 花崗閃緑岩 | 北上山地　中世代白亜紀 | 13.0 | 8.00 | 6.55 | － | 805.8 | 47 | 46 |
| 290 | 23・24号土坑 | 埋土 | 礫器 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 9.30 | 8.90 | 2.80 | － | 300.0 | 47 | 46 |
| 291 | I B10r | Ⅱ層 | 礫器 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 12.90 | 10.80 | 3.70 | － | 606.0 | 48 | 46 |
| 292 | I B11s | 第層 | 黒曜石 | 黒曜石 | 不明 | 3.20 | 3.00 | 1.20 | － | 11.8 | 48 | 46 |
| 293 | I B20v | 第層上 | 黒曜石 | 黒曜石 | 不明 | 2.80 | 1.20 | 1.10 | － | 2.4 | 48 | 46 |
| 294 | I B20x | 第層上 | 黒曜石 | 黒曜石 | 不明 | 2.20 | 2.10 | 1.10 | － | 4.1 | 48 | 46 |

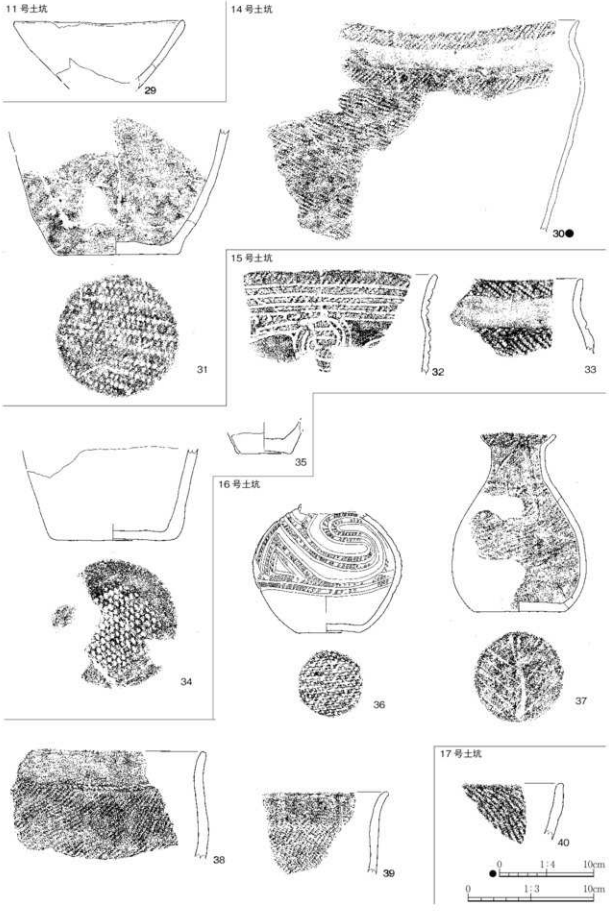
（　）は残存値




第27図　1・2号竪穴住居跡出土遺物

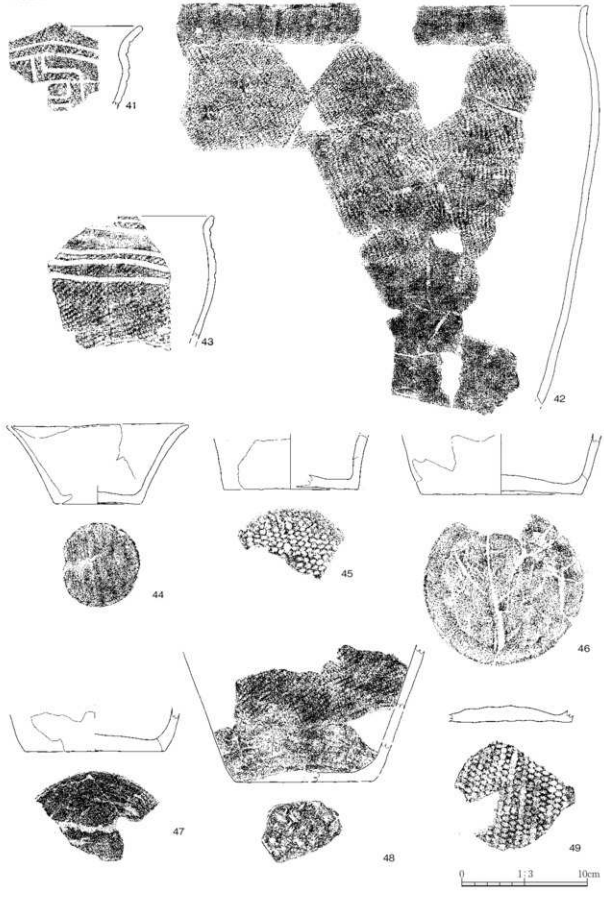



第28図　2・3号竪穴住居跡、土坑出土遺物（1）

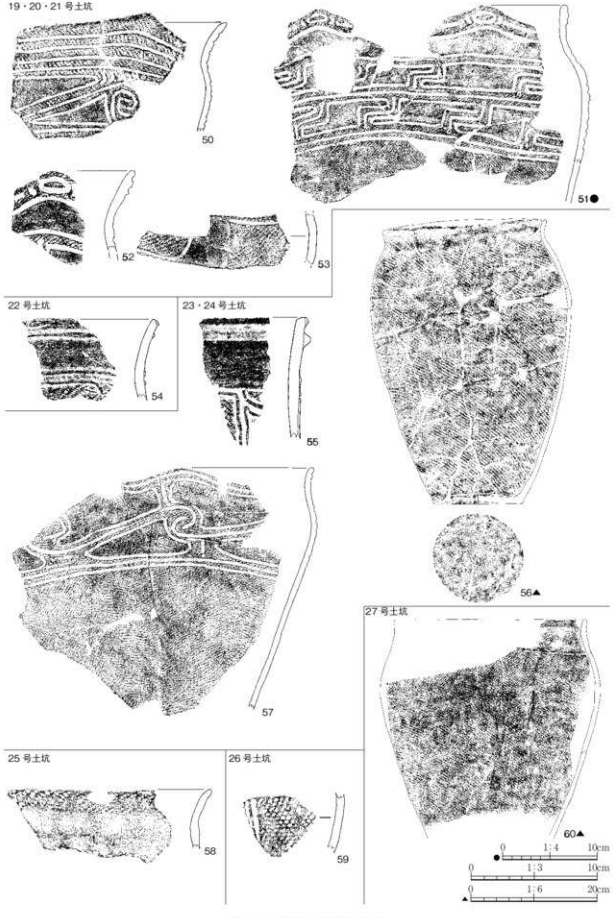



第29図　土坑出土遺物（2）

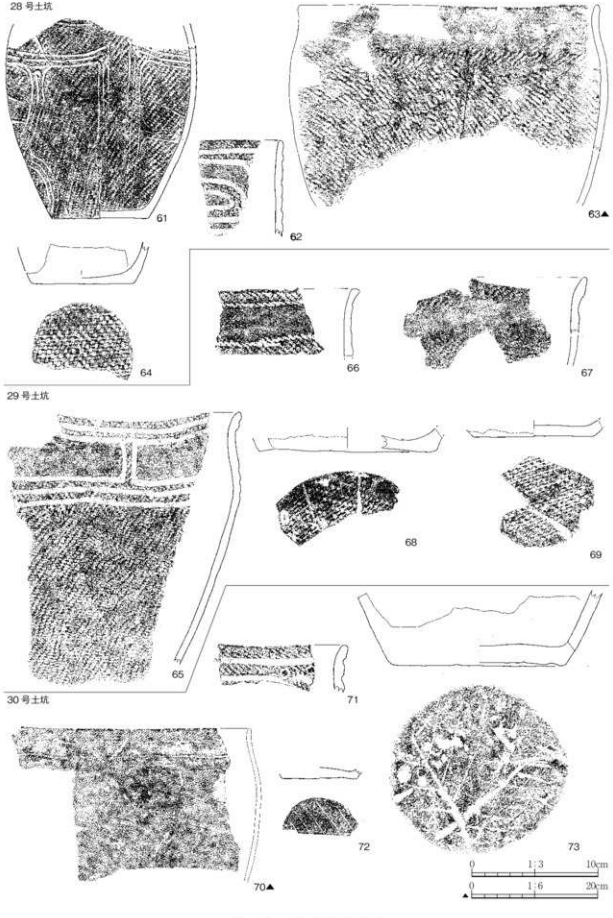
18号土坑



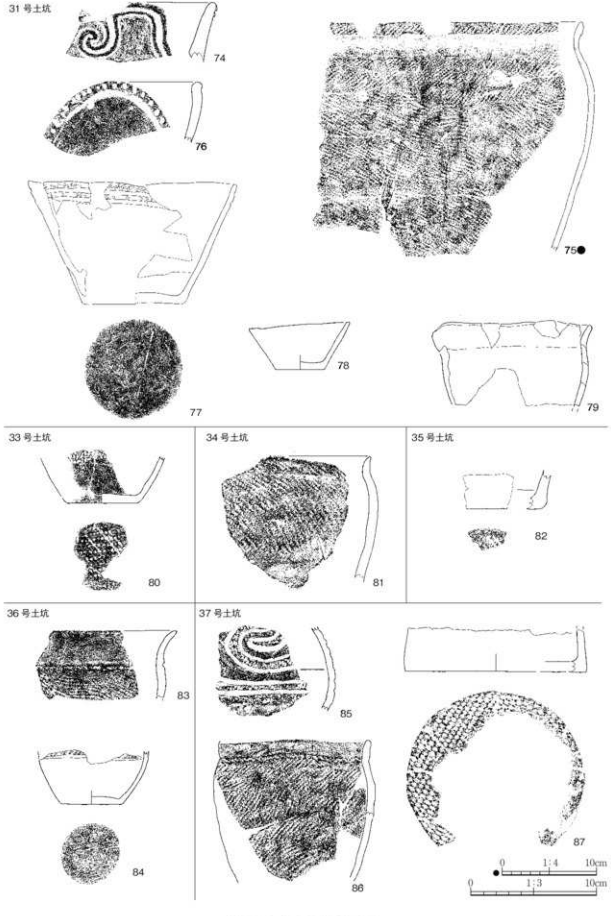

第30図　土坑出土遺物（3）



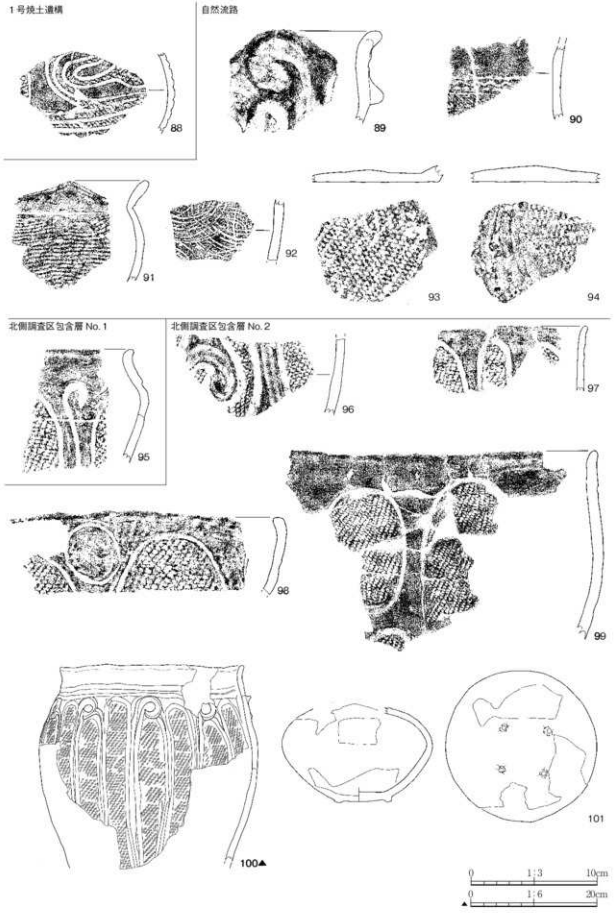

第31図　土坑出土遺物（4）



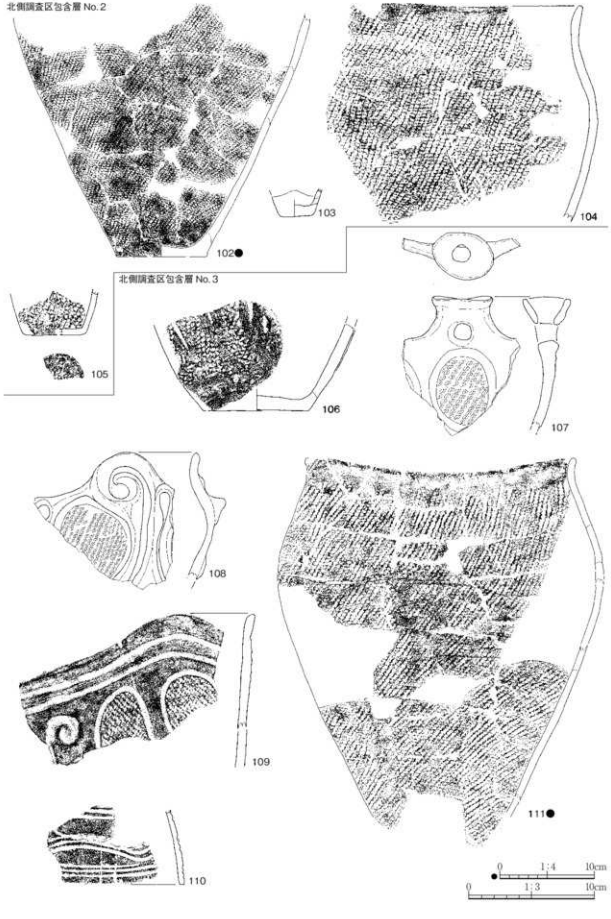

第32図　土坑出土遺物（5）



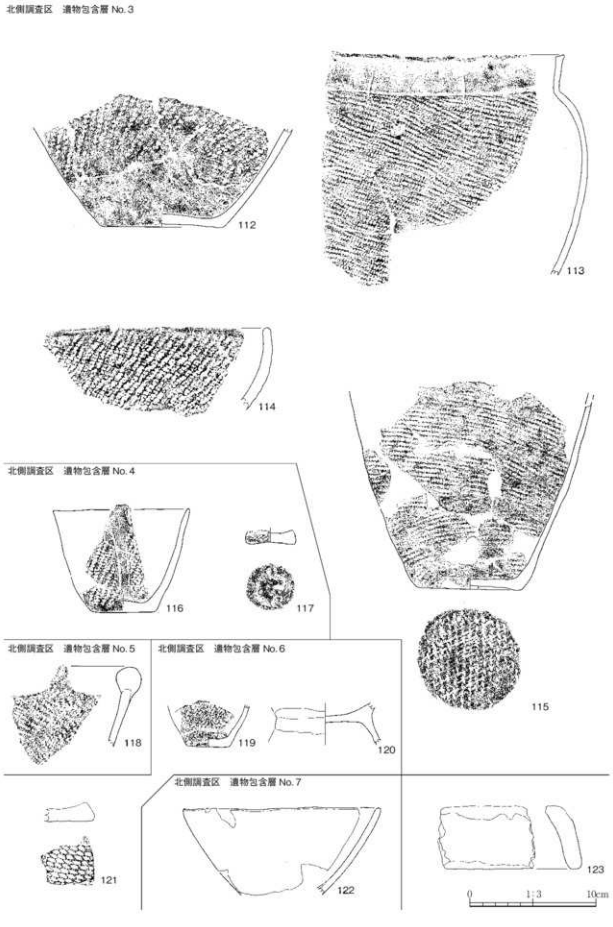

第33図　土坑出土遺物（6）



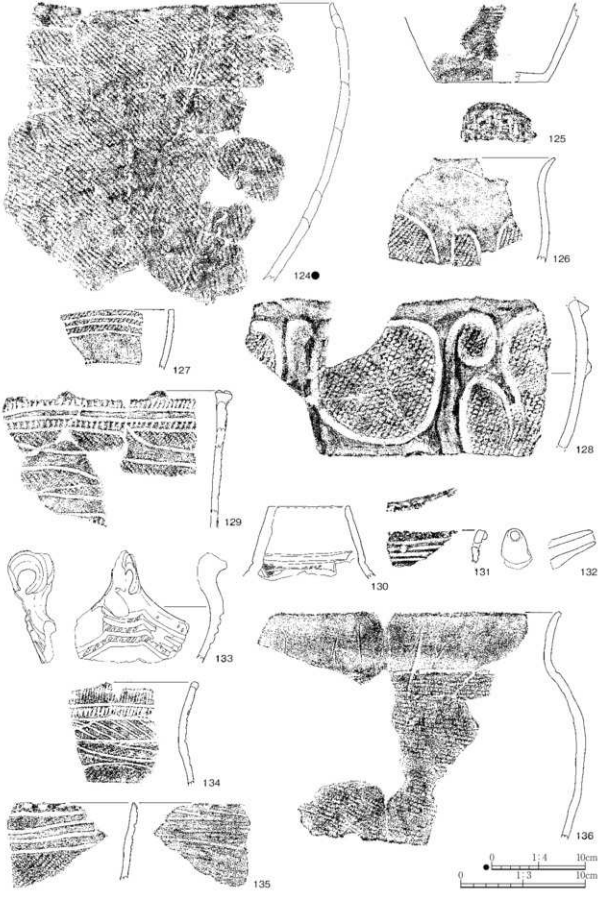

第34図　1号焼土遺構、自然流路、北側調査区遺物包含層出土遺物（1）



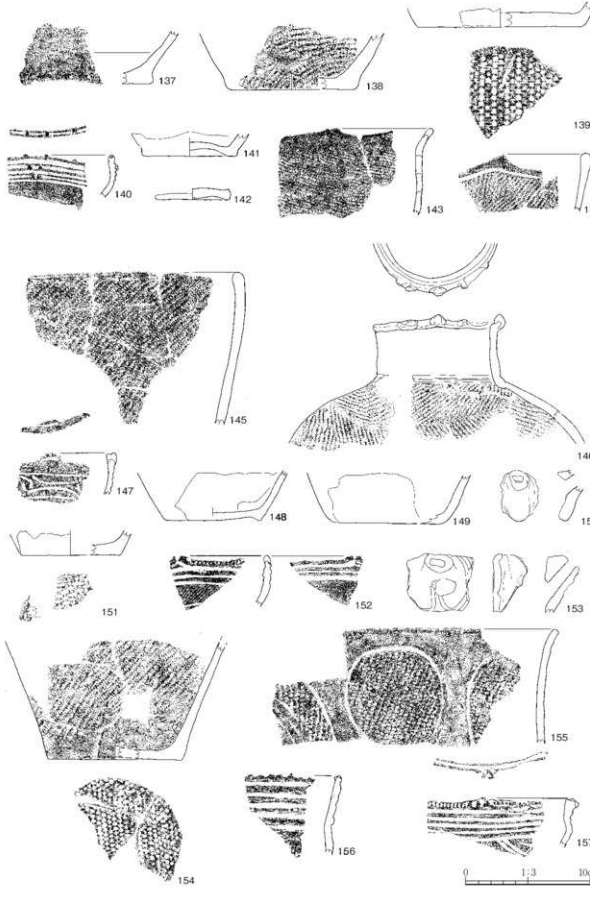

第35図　北側調査区遺物包含層出土遺物（2）



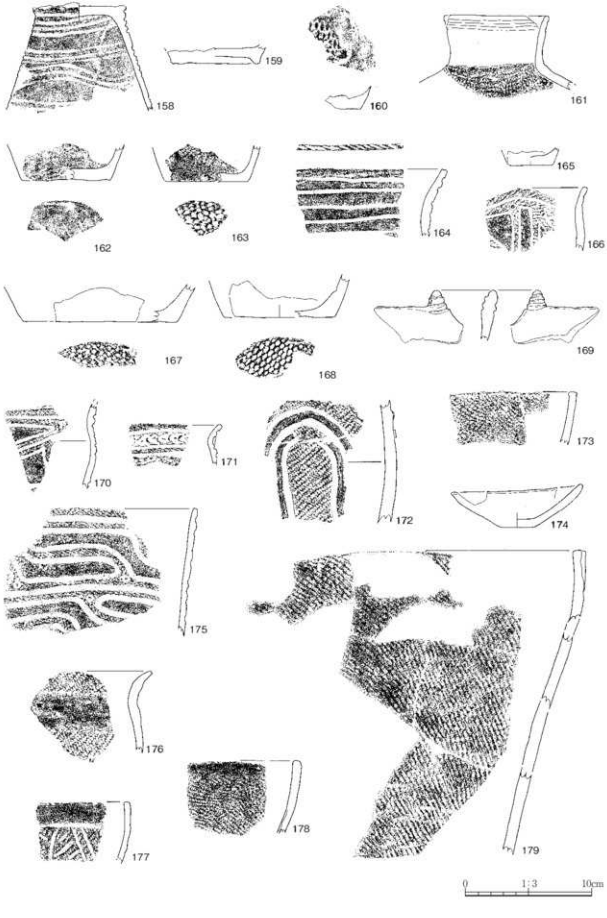

第36図　北側調査区遺物包含層(3)、遺構外出土遺物(1)



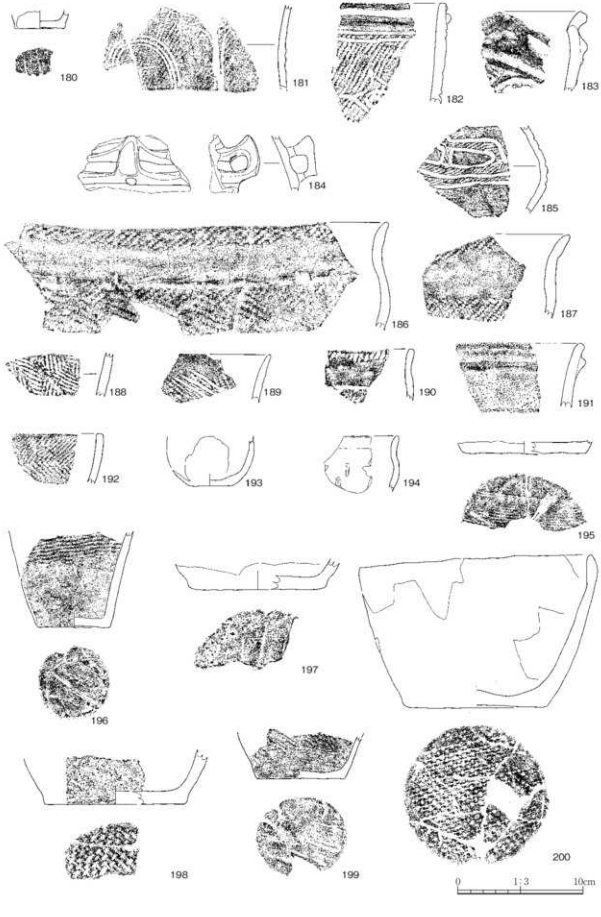

第37図　遺構外出土遺物（2）



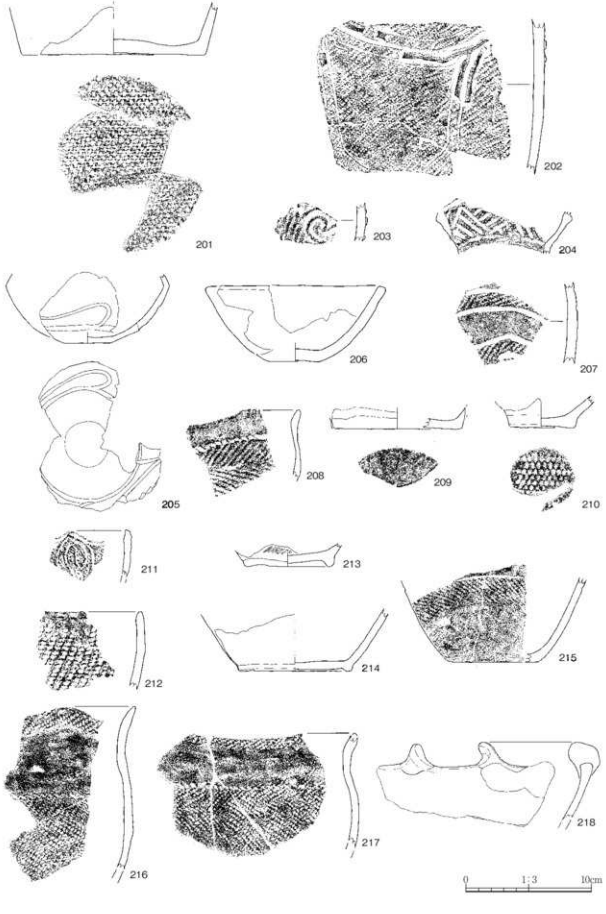

第38図　遺構外出土遺物(3)



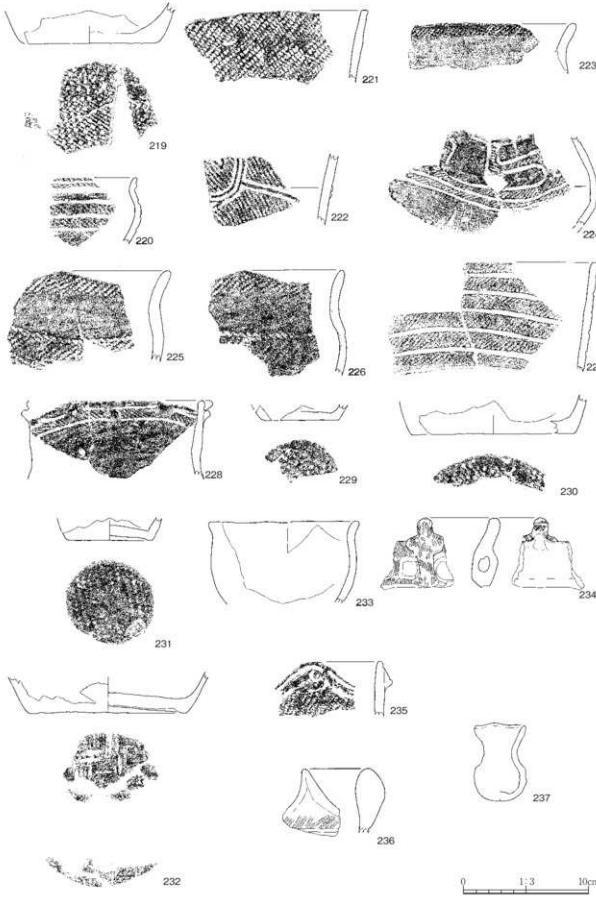

第39図　遺構外出土遺物（4）



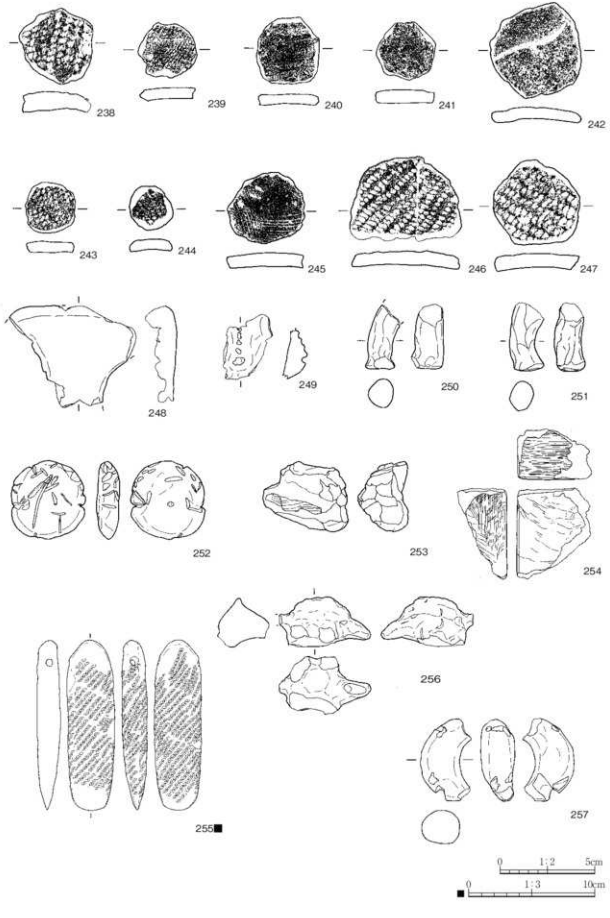

第40図　遺構外出土遺物（5）



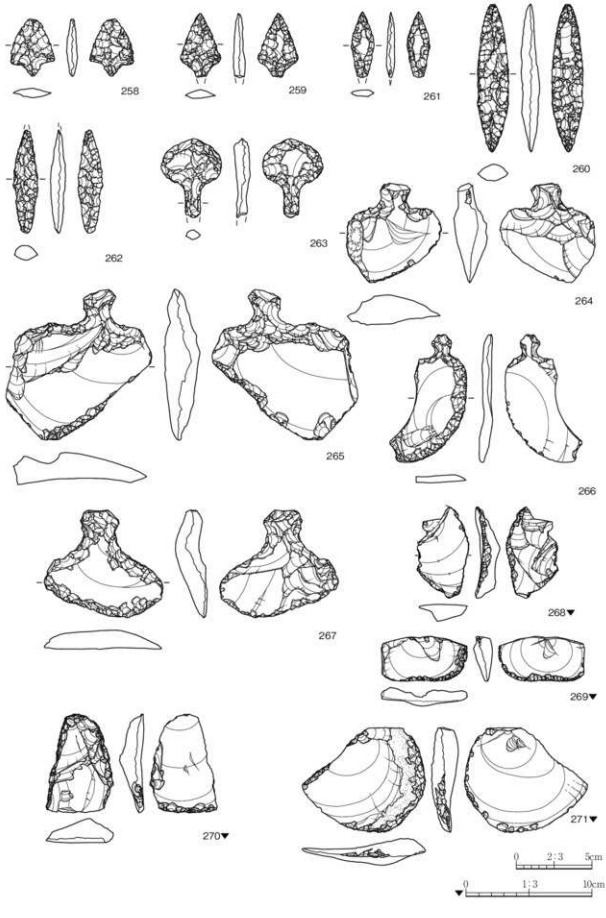

第41図　遺構外出土遺物(6)



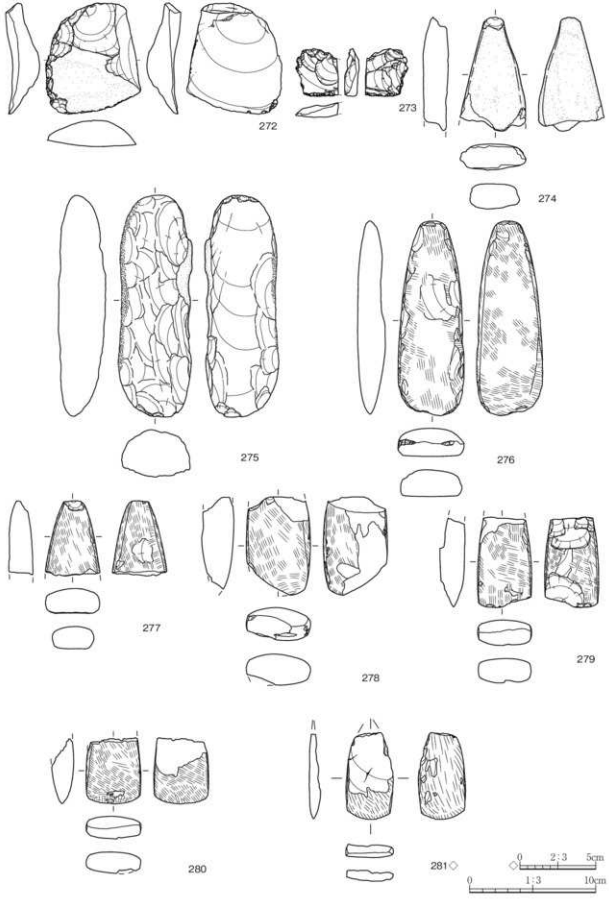

第42図　遺構外出土遺物（7）


238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255■
256
257
0 1:2 5cm
0 1:3 10cm

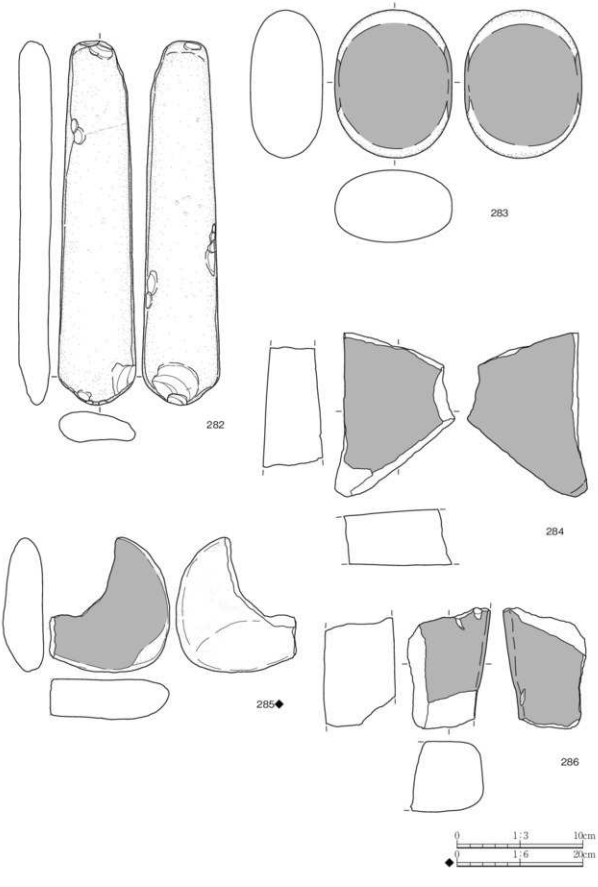
第43図　土製品


258
259
261
260
262
263
264
265
266
267
268▼
269▼
270▼
271▼
0　2:3　5cm
0　1:3　10cm

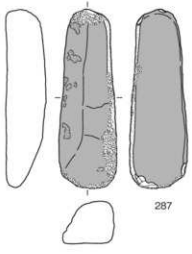
第44図　石器（1）

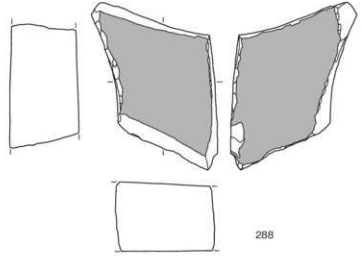


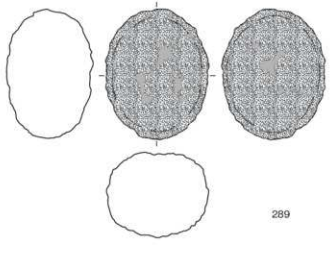

第45図　石器（2）

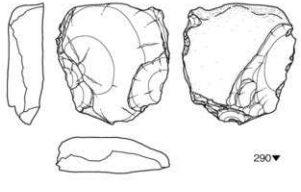



第46図　石器（3）



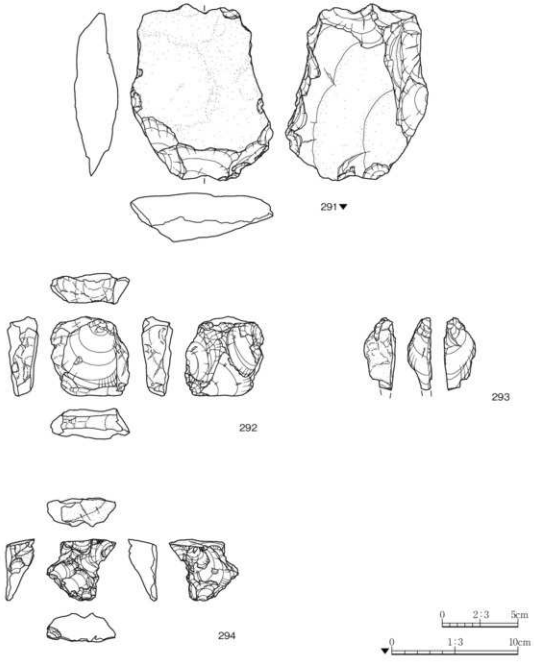







第47図　石器（4）




第48図　石器（5）

## 6　平成27年度調査で検出された遺構と遺物

遺構は、縄文時代中期～後期の土坑18基、陥し穴状土坑５基、焼土遺構１基、柱穴状土坑４個、古代の竪穴状遺構１棟検出している。

遺物は、縄文土器大コンテナ３箱、石器中コンテナ２箱、土製品４点、石製品１点、鉄製品３点、銭貨２枚等が出土している。

### （1）竪 穴 状 遺 構

**１号竪穴状遺構**（第49・60図、写真図版48・57）

〈位置・検出状況〉西側調査区のＩＢ７～８ｋグリッドにわたって位置し、Ｖ層で検出されている。

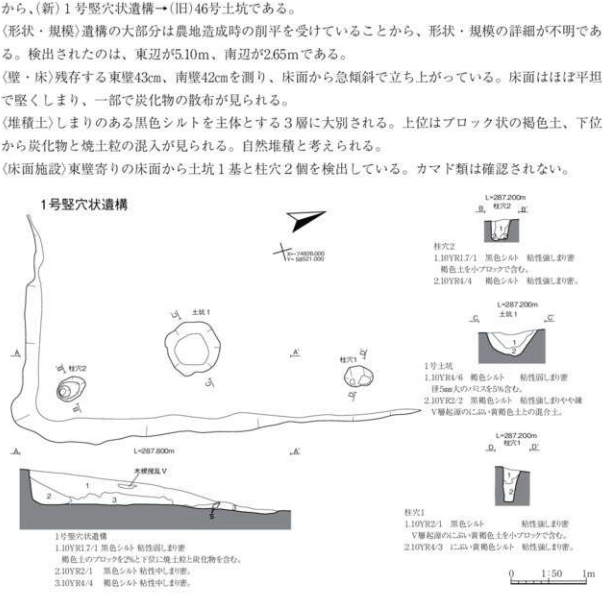
〈重複関係〉南壁側で縄文時代の46号土坑と重複しており、新旧関係は本遺構が土坑を切っていることから、（新）１号竪穴状遺構→（旧）46号土坑である。

〈形状・規模〉遺構の大部分は農地造成時の削平を受けていることから、形状・規模の詳細が不明である。検出されたのは、東辺が5.10m、南辺が2.65mである。

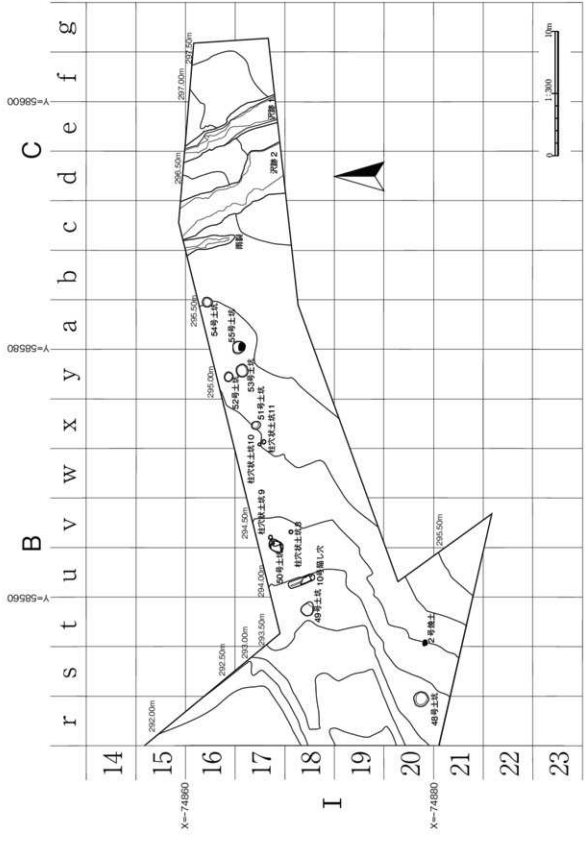
〈壁・床〉残存する東壁43cm、南壁42cmを測り、床面から急傾斜で立ち上がっている。床面はほぼ平坦で堅くしまり、一部で炭化物の散布が見られる。

〈堆積土〉しまりのある黒色シルトを主体とする３層に大別される。上位はブロック状の褐色土、下位から炭化物と焼土粒の混入が見られる。自然堆積と考えられる。

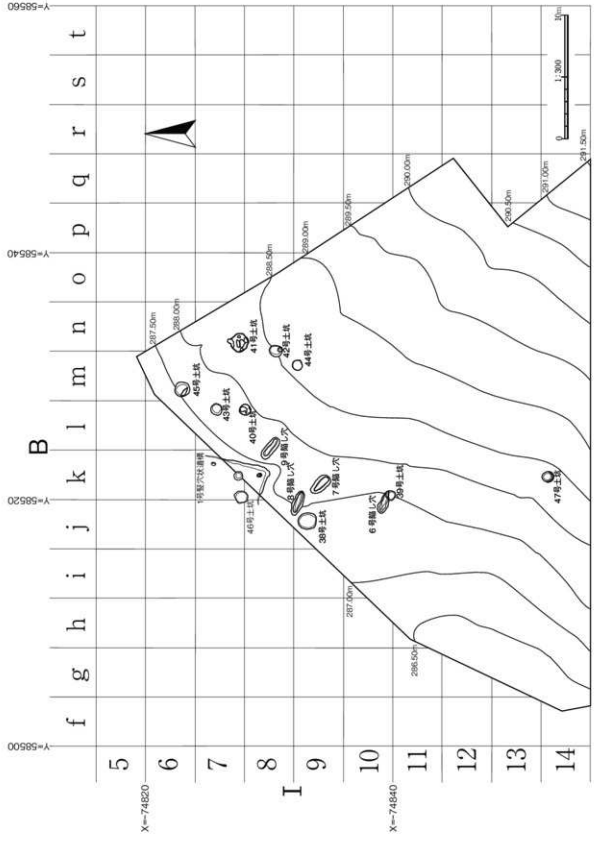
〈床面施設〉東壁寄りの床面から土坑１基と柱穴２個を検出している。カマド類は確認されない。



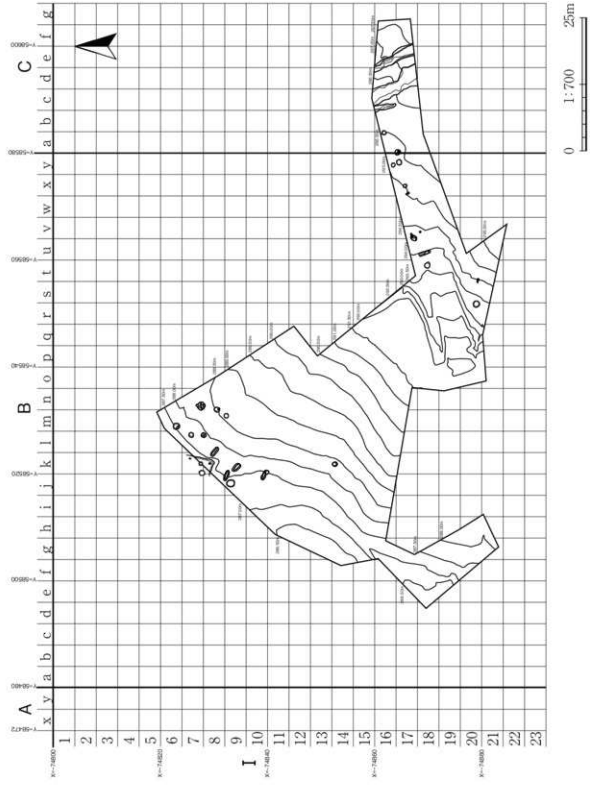

第49図　１号竪穴状遺構


C
B
I
Y=-58600
Y=-58580
Y=-58560
X=-74860
X=-74880
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
r
s
t
u
v
w
x
y
a
b
c
d
e
f
g
297.00m
297.50m
296.50m
295.50m
295.00m
294.50m
294.00m
293.50m
293.00m
292.50m
292.00m
295.50m
54号土坑
55号土坑
52号土坑
53号土坑
51号土坑
41穴状土坑11
41穴状土坑10
41穴状土坑9
41穴状土坑8
50号土坑
41穴状土坑
49号土坑
10幅い穴
2号溝土
48号土坑
南北2
東西2
1:300
0
10m

第50図　遺構配置図(6)


Y=-58500
Y=-58520
Y=-58540
Y=-58560
f g h i j k l m n o p q r s t
B
5 6 7 8 9 10 11 12 13 14
I
X=-74820
X=-74840
287.50m
288.00m
288.50m
289.00m
289.50m
290.00m
290.50m
291.00m
291.50m
287.00m
286.50m
41号土坑
42号土坑
44号土坑
45号土坑
43号土坑
40号土坑
9号風しゃ穴
8号風しゃ穴
7号風しゃ穴
6号風しゃ穴
39号土坑
38号土坑
46号土坑
47号土坑
1号竪穴状遺構
0
1:300
10m

第51図　遺構配置図(7)




第52図　遺構配置図（8）

〈土坑〉土坑１はやや不整の円形で、開口部0.67×0.66m、底部0.42×0.41m、深さ0.35mを測る。
〈柱穴〉楕円形を呈しており、規模はＰ１（径0.38×0.26m、深さ0.43m）、Ｐ２（径0.40×0.28m、深さ0.27m）である。
〈遺物・時期〉土坑１埋土から鉄鏃１点が出土している。295は一部欠損しているが平根形を呈しており、現存長10.2cm、最大幅3.0cmを測る。他に時期を特定できる遺物は出土していないが、鉄鏃の形状や類例等から、平安時代と考えられる。

（２）土　　坑

**38号土坑**（第53・60図、写真図版49・57）
〈位置・検出状況〉西側調査区のＩＡ９ｊグリッドに位置する。Ｖ層で検出されているが、上部は近年の撹乱と削平を受けている。
〈重複関係〉他遺構との重複はない。
〈形状・規模〉ほぼ南－北に長軸がある楕円形を呈しており、開口部1.47×1.33m、底部1.30×1.06m、深さ0.14mである。
〈堆積土〉堅くしまった黒色シルトを主体とする２層に大別され、下位は粘性のある褐色シルトがレンズ状に堆積している。自然堆積と考えられる。
〈壁・底面〉壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面は木根撹乱による凹凸が見られるが、ほぼ平坦である。
〈遺物・時期〉埋土下位から縄文土器が111ｇ出土している。296は浅鉢の口縁部～胴部破片である。口縁部は平行する沈線の間に刺突列が巡り、口唇部に刻目が施されている。胴部は羽状縄文が施文され、ススの付着が認められる。時期は縄文時代晩期大洞Ｃ１式に比定される。

**39号土坑**（第53図、写真図版49）
〈位置・検出状況〉西側調査区のＩＢ10ｊ～ｋグリッドにわたって位置する。検出面はＶ層である。
〈重複関係〉６号陥し穴状遺構と重複しており、新旧関係は本遺構が切っている事から（新）39号土坑→（旧）６号陥し穴状遺構である。
〈形状・規模〉円形を呈しており、開口部0.80×0.78m、底部0.64×0.60m、深さ0.10mである。
〈堆積土〉しまりのある黒色シルトの単層で構成され、にぶい黄褐色土がブロック状に混入している。自然堆積と考えられる。
〈壁・底面〉壁は低面から緩やかに立ち上がっている。底面は木根撹乱による凹凸がある。
〈遺物・時期〉遺物の出土がなく、時期は不明である。

**40号土坑**（第53・60図、写真図版49）
〈位置・検出状況〉西側調査区のＩＢ７ｌ～８ｌグリッドにわたって位置し、Ｖ層で検出されている。
〈重複関係〉他遺構との重複はない。
〈形状・規模〉南南東－北北西に長軸がある円形を呈している。開口部0.92×0.90m、底部0.82×0.78m、深さ0.14mを測る。
〈堆積土〉しまりのある暗褐色シルトを主体とする３層に大別され、上位の黒色シルトはレンズ状に堆積している。自然堆積と考えられる。
〈壁・底面〉北壁側の一部がオーバーハングしていることから、フラスコ状土坑と確認された。底面

は木根攪乱があるものの、ほぼ平坦である。
〈遺物・時期〉埋土下位から縄文土器が182ｇ出土している。297は小形の鉢で、口縁部は平行する沈線が巡り口唇部に刻目が施されている。胴部は単節斜縄文を地文とし、底部は無文である。時期は縄文時代後期前葉頃に比定される。

**41号土坑**（第53・60図、写真図版49・57）
〈位置・検出状況〉西側調査区のＩＢ７ｎ～８ｎグリッドにわたって位置する。検出面はⅤ層である。
〈重複関係〉他遺構との重複はない。
〈形状・規模〉円形を呈しており、開口部1.41×1.37m、底部1.43×1.40m、深さ0.50mである。
〈堆積土〉黒色シルトを主体とする８層に大別される。上位から中位はしまりのある黒色シルトと暗褐色シルトと褐色シルトで構成され、下位は暗褐色シルトとにぶい黄褐色シルトの互層である。自然堆積と考えられる。
〈壁・底面〉壁はオーバーハングしていることから、フラスコ状土坑と考えられる。底面は基盤の花崗岩が露出しているが、ほぼ平坦である。
〈遺物・時期〉埋土中位から縄文土器が62ｇ出土している。298は鉢の口縁部破片で、沈線が施されている。細片のため時期は不明である。

**42号土坑**（第53図、写真図版50）
〈位置・検出状況〉西側調査区のＩＢ８ｍ～８ｎグリッドにわたって位置し、Ⅴ層で検出されている。
〈重複関係〉他遺構との重複はない。
〈形状・規模〉ほぼ南－北に長軸がある楕円形を呈している。開口部1.06×0.93m、底部0.96×0.72m、深さ0.20mを測る。
〈堆積土〉しまりのある黒色シルトを主体とする２層に大別され、下位に壁崩落土のにぶい黄褐色土の堆積が見られる。自然堆積と考えられる。
〈壁・底面〉西壁側は緩やかに、ほかは急傾斜で立ち上がっている。底面は一部に木根攪乱があるが、ほぼ平坦である。
〈遺物・時期〉埋土上位から縄文土器を４ｇ出土しているが、細片のため時期は不明である。

**43号土坑**（第53・60図、写真図版50・57）
〈位置・検出状況〉西側調査区のＩＢ７ｌグリッドに位置する。検出面はⅤ層上面である。
〈重複関係〉他遺構との重複はない。
〈形状・規模〉南南西－北北東に長軸がある円形を呈している。開口部0.92×0.89m、底部0.66 ×0.65m、深さ0.42mを測る。
〈堆積土〉黄褐色土をブロック状に混入する黒色シルトを主体とする２層に大別され、壁際にはしまりのある暗褐色シルトが堆積している。自然堆積と考えられる。
〈壁・底面〉西壁側は緩やかに、ほかは急傾斜で立ち上がっている。底面は木根攪乱による凹凸が見られるものの、ほぼ平坦である。
〈遺物・時期〉埋土中位から縄文土器が69ｇ出土している。299は深鉢の口縁部破片で、頂部に渦巻き文が配置され胴部に隆線が垂下している。時期は縄文時代中期後葉大木９式に比定される。

**44号土坑**（第54図、写真図版50）
〈位置・検出状況〉西側調査区のＩＢ８ｍ～９ｍグリッドにわたって位置し、Ｖ層で検出されている。
〈重複関係〉他遺構との重複はない。
〈形状・規模〉ほぼ東－西に長軸がある円形を呈しており、開口部0.84×0.81ｍ、底部0.79×0.76ｍ、深さ0.30ｍである。
〈堆積土〉にぶい黄褐色土をブロック状に混入する黒色シルトを主体とする２層に大別され、下層はしまりのある褐色シルトで構成されている。自然堆積と考えられる。
〈壁・底面〉壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面は木根撹乱で中央部がやや凹んでいる。
〈遺物・時期〉埋土上位から縄文土器を15ｇ出土しているが、細片のため時期は不明である。

**45号土坑**（第54図、写真図版50）
〈位置・検出状況〉西側調査区のＩＢ６ｍ グリッドに位置し、Ｖ層で検出されている。
〈重複関係〉他遺構との重複はない。
〈形状・規模〉南東－北西に長軸がある楕円形を呈している。開口部1.26×1.18ｍ、底部0.92×0.56ｍ、深さ0.39ｍを測る。
〈堆積土〉上位はにぶい黄褐色土をブロック状混入する黒色シルトで構成され、下位はにぶい黄褐色シルトと褐色シルトの互層である。自然堆積と考えられる。
〈壁・底面〉北壁側が直立気味に、ほかは底面から緩やかに立ち上がっている。底面は南壁側で基盤の花崗岩が露出しているが、ほぼ平坦である。
〈遺物・時期〉埋土から頁岩の剥片を３点出土している。土器の出土がなく時期は不明である。

**46号土坑**（第54図、写真図版51）
〈位置・検出状況〉西側調査区のＩＢ７ｊ・ｋ～８ｊ・ｋグリッドにわたって位置する。検出面はＶ層である。
〈重複関係〉１号竪穴状遺構と重複しており、新旧関係は本遺構が切られていることから、（新）１号竪穴状遺構→（旧）46号土坑である。
〈形状・規模〉南南西－北北東に長軸がある楕円形を呈しており、開口部1.14×1.04ｍ、底部0.87×0.82ｍ、深さ0.44ｍである。
〈堆積土〉２層に大別され、上位は微量の炭化物を混入する黒色シルト、下位はしまりのある褐色シルトで構成されている。自然堆積と考えられる。
〈壁・底面〉壁は底面から直立気味に立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。
〈遺物・時期〉遺物の出土がなく、時期は不明である。

**47号土坑**（第54図、写真図版51）
〈位置・検出状況〉西側調査区のＩＢ14k グリッドに位置し、Ｖ層で検出されている。
〈重複関係〉他遺構との重複はない。
〈形状・規模〉南南東－北北西に長軸がある楕円形を呈し、南半部は段が巡っている。開口部0.95×0.85ｍ、底部0.62×0.56ｍ、深さ0.24ｍを測る。
〈堆積土〉ややしまりのある黒色シルトの単層で構成され、上位に炭化物と焼土粒をブロック状に混入している。自然堆積と考えられる。

〈壁・底面〉壁は底面から外傾して立ち上がっている。底面は木根攪乱による凹凸がある。
〈遺物・時期〉埋土中位から縄文土器20ｇと頁岩の剥片が１点出土している。土器が細片のため時期は不明である。

**48号土坑**〈第54図、写真図版51〉
〈位置・検出状況〉東側調査区のＩＢ20ｒ～ｓグリッドにわたって位置し、Ⅴ層で検出されている。
〈重複関係〉他遺構との重複はない。
〈形状・規模〉東南東－西北西に長軸がある楕円形を呈している。開口部1.22×1.15m、底部0.98×0.86m、深さ0.38mを測る。
〈堆積土〉黒色シルトを主体とする４層に大別される。中位はブロック状の黄褐色土が帯状に堆積し、下位は黒褐色シルトと黄褐色シルトの混合土である。自然堆積と考えられる。
〈壁・底面〉壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面は基盤の花崗岩の露出が見られるが、ほぼ平坦である。
〈遺物・時期〉埋土上位から縄文土器を46ｇ出土しているが、細片のために時期は不明である。

**49号土坑**〈第54・60図、写真図版51・57〉
〈位置・検出状況〉東側調査区のＩＢ18ｔグリッドに位置する。Ⅴ層中で検出されているが、上部は広域基幹林道工事による削平を受けている。
〈重複関係〉他遺構との重複はない。
〈形状・規模〉南西－北東に長軸がある不整形を呈しており、開口部1.10×0.96m、底部1.01×0.83m、深さ0.34mである。
〈堆積土〉しまりのある黒色シルトを主体とする３層に大別される。壁際には黒色シルトと暗褐色シルトの混合土が堆積し、下位は風化花崗岩粒を混入する褐色シルトで構成されている。自然堆積と考えられる。
〈壁・底面〉壁はオーバーハングしており、フラスコ状土坑と確認された。北壁側で基盤の花崗岩の露出している。底面は北壁側で多少凹凸が見られるが、ほぼ平坦である。
〈遺物・時期〉埋土上位から縄文土器503ｇと石器が１点出土している。300・301は鉢の胴部破片で、平行沈線が施されている。302は底部が網代痕の深鉢で、胴部に単節斜縄文が施文されている。303は北上山地産の頁岩を素材とする掻削器で、横長の側縁部に刃部を形成している。時期は縄文時代中期後葉頃に比定される。

**50号土坑**〈第55・60・61図、写真図版52・57・58〉
〈位置・検出状況〉東側調査区のＩＢ17ｕ～ｖグリッドにわたって位置する。Ⅴ層中で検出されているが、49号土坑と同様に上部は広域基幹林道工事による削平を受けている。
〈重複関係〉他遺構との重複はない。
〈形状・規模〉ほぼ南西－北東に長軸がある楕円形を呈している。開口部1.24×0.88m、底部1.10×0.82m、深さ0.64mを測る。
〈堆積土〉４層に大別される。上位は褐色シルトと黒褐色シルトがレンズ状に堆積し、中位が縄文土器石器を混入する黒褐色シルト、下位がしまりのある褐色シルトで構成されている。自然堆積と考えられる。

〈壁・底面〉壁はオーバーハングしており、フラスコ状土坑と確認した。底面は木根攪乱による凹凸が見られる。
〈遺物・時期〉埋土から縄文土器3,335ｇ、敲磨石２点、石皿１点が出土している。304～310は深鉢の口縁部～胴部破片である。304は補修用と考えられ穿孔があり、外面にススの付着が認められる。305は粘土紐による渦巻文様が描かれている（大木８ａ式）。306は頸部無文帯下部に縄文原体圧痕を施している。307・309は同一個体の破片である。307は波状口縁で、平行する沈線内に縄文を充填し、沈線による区画文様を展開している。文様の交差点には竹管文が施されている（十腰内Ⅰ式）。308は口縁部に縄文を施文し、頸部の無文部上下に縄文原体圧痕を施している。313・314は敲磨石で、磨痕と敲打痕が複数面に認められる。石材は313が頁岩、314が砂岩でいずれも北上山地産である。312は石皿の破片で一面に使用痕がある。時期は縄文時代後期前葉頃に比定される。

**51号土坑**（第55・62図、写真図版52・59）
〈位置・検出状況〉東側調査区のＩＢ17ｘグリッドに位置する。Ⅴ層中で検出されているが、50号土坑と同様に上部は広域基幹林道工事による削平を受けている。
〈重複関係〉他遺構との重複はない。
〈形状・規模〉ほぼ南東－北西に長軸がある楕円形を呈しており、開口部0.72×0.66m、底部0.53×0.47m、深さ0.90mである。
〈堆積土〉２層に大別される。上位はしまりのある黒褐色シルトでパミスを混入し、下位は褐色土をブロック状に混入する黒色シルトで構成されている。自然堆積と考えられる。
〈壁・底面〉底面から直立気味に立ち上がり、中位から開口部に向けて外傾している。底面はほぼ平坦である。
〈遺物・時期〉埋土から縄文土器73ｇと敲磨石が２点出土している。317は深鉢の底部破片で、木葉の圧痕が認められる。315・316は棒状を呈する敲磨石で、複数面を使用している。石材は315が砂岩、316が花崗閃緑岩でいずれも北上山地産である。時期は不明である。

**52号土坑**（第55図、写真図版52）
〈位置・検出状況〉東側調査区のＩＢ16ｙグリッドに位置する。Ⅴ層中で検出されているが、51号土坑と同様に上部は広域基幹林道工事による削平を受けている。
〈重複関係〉他遺構との重複はない。
〈形状・規模〉東南東－西北西に長軸がある楕円形を呈しており、開口部0.76×0.66m、底部0.66×0.58m、深さ0.34mである。
〈堆積土〉２層に大別され、上位は炭化物を混入する黒色シルト、下位はしまりのある暗褐色シルトで構成されている。自然堆積と考えられる。出土した炭化物の放射性炭素年代測定を実施しており、測定結果（試料１）は3650±30yrBPである。
〈壁・底面〉。壁は底面から急傾斜で立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。
〈遺物・時期〉埋土から炭化したオニクルミが１個出土している。時期は炭化物の放射性炭素年代測定の結果から、縄文時代後期前葉頃に相当する。

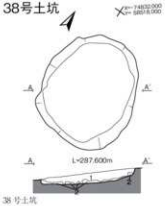
**53号土坑**（第55図、写真図版52）
〈位置・検出状況〉東側調査区のＩＢ17ｙグリッドに位置する。Ⅴ層中で検出されているが、52号土

坑と同様に上部は広域基幹林道工事による削平を受けている。
〈重複関係〉他遺構との重複はない。
〈形状・規模〉東北東－西北西に長軸がある楕円形を呈している。開口部1.03×0.93m、底部0.88×0.78m、深さ0.27mを測る。
〈堆積土〉褐色土をブロック状に混入する黒色シルトとパミスを混入する暗褐色シルトで構成され、3層に大別される。自然堆積と考えられる。
〈壁・底面〉壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。
〈遺物・時期〉埋土から縄文土器を9ｇ出土しているが、細片のため時期は不明である。

**54号土坑**（第55・62図、写真図版53・59）
〈位置・検出状況〉東側調査区のＩＣ16ａ～ｂグリッドにわたって位置する。Ⅴ層中で検出されているが、53号土坑同様に上部は広域基幹林道工事による削平を受けている。
〈重複関係〉他遺構との重複はない。
〈形状・規模〉ほぼ南－北に長軸がある円形を呈しており、開口部0.82×0.80m、底部0.65×0.59m、深さ0.23mである。
〈堆積土〉2層に大別される。上位はブロック状の褐色土と微量の炭化物を混入し、下層はパミスを混入する褐色シルトで構成されている。自然堆積と考えられる。
〈壁・底面〉壁は底面から緩やかに立ち上がっている。底面は平坦で、東～西側に傾斜している。
〈遺物・時期〉埋土から縄文土器が517ｇ出土している。318は深鉢の胴部破片で、単節斜縄文が施文されススの付着が認められる。時期は不明である。

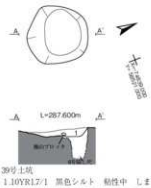
**55号土坑**（第55・62図、写真図版53・59）
〈位置・検出状況〉東側調査区のＩＢ16・17ｙ～ＩＣ16・17ａグリッドにわたって位置する。Ⅴ層中で検出されているが、54号土坑と同様に上部は広域基幹林道工事による削平を受けている。
〈重複関係〉他遺構との重複はない。
〈形状・規模〉ほぼ東－西に長軸がある楕円形を呈している。開口部1.10×0.92m、底部1.14×1.02m、深さ1.18mである。
〈堆積土〉10層に大別される。上位は炭化物と焼土粒を混入する赤黒色シルトと黒色シルトとにぶい黄褐色シルト、中位は黒褐色シルトと暗褐色シルト、下位は赤黒色シルトと褐色シルトで構成されている。人為堆積と考えられる。出土した炭化物の放射性炭素年代測定を実施しており、測定結果（試料2）は、3610±30yrBP である。
〈壁・底面〉壁はオーバーハングしており、フラスコ状土坑と確認した。北壁側に基盤の花崗岩が露出しており、底面は凹凸が見られる。
〈遺物・時期〉埋土中位から縄文土器1,876ｇ、敲磨石１点、頁岩と黒曜石の剥片８点、土製品が１点出土している。319は鉢の口縁部破片で、沈線文が施されている。320は無文の深鉢底部破片である。321は小形の深鉢で、無文で口縁部に浅い沈線が巡っている。322は蓋形土器で、長めの摘まみ部分に平行沈線が巡り、天井部は貫通している。323は鐘や鈴に類似した中空の鐸形土製品で、器高は4.3cmを測る。外面は無文で、摘まみ部分に径５mm大の穿孔が施されている。324は棒状を呈する敲磨石で、両端部に敲打痕と三側面に磨痕が認められる。石材は北上山地産のホルンヘルスである。時期は放射性炭素年代測定数値から、縄文時代後期前葉頃に相当する。

## 38号土坑



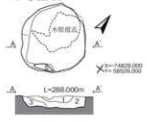

38 号土坑
1.10YR2/1　黒色シルト　粘性弱　しまりやや密。
2.10YR4/4　褐色シルト　粘性中　しまり密。

## 39号土坑



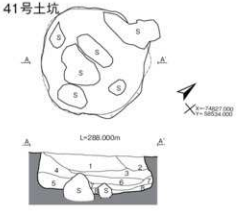

39号土坑
1.10YR1/7/1　黒色シルト　粘性中　しまり密
　にぶい黄褐色土をブロックで１％含む。

## 40号土坑



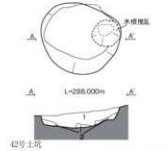

40号土坑
1.10YR2/1　黒色シルト　粘性弱　しまり疎
　にぶい黄褐色土をブロックで１％含む。
2.10YR3/3　暗褐色シルト 粘性強　しまりやや密
　壁際ににぶい黄褐色土を含む。
3.10YR3/4　暗褐色シルト 粘性強　しまり密。

## 41号土坑



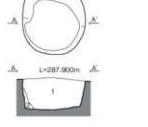

41号土坑
1.10YR1.7/1 黒色シルト　粘性強　しまり密
　黒褐色土をブロックで10％含む。
2.10YR3/4　暗褐色シルト　粘性強　しまり密
　黒褐色土との混合土。
3.10YR2/1　黒色シルト　粘性強　しまり密
　褐色土をブロックで５％含む。
4.10YR4/4　褐色シルト　粘性強　しまり密
　褐色土をブロックで20％含む。
5.10YR5/4　にぶい黄褐色シルト　粘性強　しまり密
　褐色土をブロックで10％含む。
6.10YR1.7/1 黒色シルト　粘性強　しまり密
　褐色土をブロックで10％含む。
7.10YR3/3　暗褐色シルト　粘性強　しまり密
　褐色土をブロックで５％含む。
8.10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　粘性強　しまり密
　V層。

## 42号土坑




42号土坑
1.10YR17/1 黒色シルト　粘性弱　しまり密
　にぶい黄褐色土をブロックで10％含む。
2.10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　粘性強　しまり密
　草崩落土を含む。

## 43号土坑

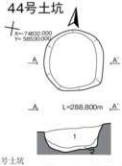



43号土坑
1.10YR2/1 黒色シルト　粘性強　しまり密
　にぶい黄褐色土をブロックで10％含む。
2.10YR3/3 暗褐色シルト　粘性強　しまり密
　にぶい黄褐色土との混合土。

0　1:50　1m

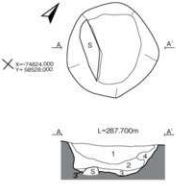
第53図　38～43号土坑

## 44号土坑



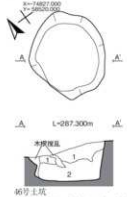

44号土坑
1.10YR2/1　黒色シルト　粘性弱しまり密
　にぶい黄褐色土をブロックで10%含む。
2.10YR4/4　褐色シルト　粘性中しまり密。

## 45号土坑




45号土坑
1．10YR2/1　黒色シルト　粘性強しまり密
　にぶい黄褐色土をブロックで30%含む。
2．10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　粘性強しまり密
　炭を微量に含む。
3．10YR4/4　褐色シルト　粘性強しまり密。
4．10YR4/4　褐色シルト　粘性強しまりやや疎
　壁崩落土。

## 46号土坑

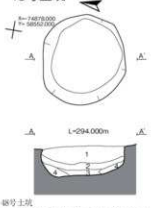



46号土坑
1．10YR2/1　黒色シルト　粘性強しまり密
　炭を微量に含む。
2．10YR4/4　褐色シルト　粘性強しまり密
　にぶい黄褐色土をブロックで10%。
　径2～5mm大のパミスを5%含む。

## 47号土坑

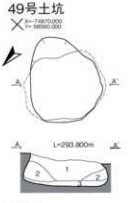
47号土坑
1．10YR17/1　黒色シルト　粘性弱しまりやや密
　上部で焼土粒・炭と褐色土をブロックで10%含む。

## 48号土坑




48号土坑
1．10YR17/1　黒色シルト　粘性強しまり密
　黄褐色土をブロックで5%含む。
2．10YR2/1　黒色シルト　粘性強しまり密
　黄褐色土をブロックで30%含む。
3．10YR3/2　黒褐色シルト　粘性強しまり密
　黒褐色土をブロックで10%含む。
4．10YR17/1　黒色シルト　粘性強しまり密
　黄褐色土をブロックで5%含む。

## 49号土坑

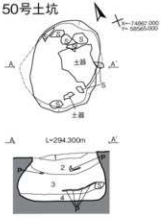



49号土坑
1．10YR17/1　黒色シルト　粘性強しまり密
　褐色土をブロックで2%含む。
2．10YR3/3　暗褐色シルト　粘性強しまり密
　黒色土との混合土。
3．10YR4/4　褐色シルト　粘性強しまり密
　花崗岩粒とパミスを含む。

0　1:50　1m

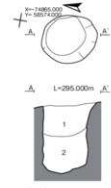
第54図　44～49号土坑

## 50号土坑




50号土坑
1．10YR4/4　褐色シルト　粘性中しまり密　黒褐色土をブロックで5％含む。
2．10YR2/2　黒褐色シルト　粘性強しまり密　径2～5mm大のパミスを10％含む。
3．10YR3/2　黒褐色シルト　粘性強しまり密　径2～5mm大のパミスを5％含む。
4．10YR4/6　褐色シルト　粘性強しまり密。

## 51号土坑

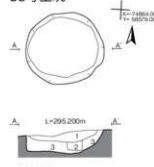



51号土坑
1．10YR2/2　黒褐色シルト　粘性強しまり密
径5～10mm大のパミスを5％含む。
2．10YR2/1　黒色シルト　粘性強しまりやや疎
褐色土をブロックで2％含む。

## 52号土坑

52号土坑
1．10YR2/1　黒色シルト　粘性強しまり密
微量の炭と褐色土をブロックで10％含む。
2．10YR3/4　暗褐色シルト　粘性強しまり密
径5～10mm大のパミスを10％含む。

## 53号土坑

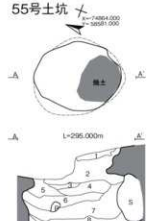



53号土坑
1．10YR1.7/1　黒色シルト　粘性強しまり密
少量の炭と褐色土をブロックで1％含む。
2．10YR2/1　黒色シルト　粘性強しまり密
褐色土をブロックで10％含む。
3．10YR3/4　暗褐色シルト　粘性中しまり密
径5～10mm大のパミスを10％含む。

## 54号土坑

54号土坑
1．10YR1.7/1　黒色シルト　粘性強しまり密
微量の炭と褐色土をブロックで20％含む。
2．10YR4/4　褐色シルト　粘性強しまり密
径1～2mm大のパミスを5％含む。

## 55号土坑




55号土坑
1．2.5YR2/1　赤黒色シルト　粘性強しまり密
焼土粒と炭の混合土で径2mm大のパミスを2％含む。
2．10YR1.7/1　黒色シルト　粘性強しまり密
径2mm大のパミスを10％含む。
3．2.5YR2/1　赤黒色シルト　粘性強しまり密
赤褐色焼土との混合土。
4．10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　粘性中しまり密
壁崩落土でパミスを多く含む。
5．10YR2/1　黒色シルト　粘性強しまり密
焼土粒を含む。
6．10YR2/1　黒色シルト　粘性強しまりやや密
焼土粒と炭を含む。V層起源のにぶい黄褐色土との混合土。
7．10YR3/3　暗褐色シルト　粘性強しまり密
径2mm大のパミスを2％含む。
8．2.5YR2/1　赤黒色シルト　粘性強しまり疎
赤褐色焼土との混合土で土器を含む。
9．10YR4/4　褐色シルト　粘性強しまり密
少量の炭を含む。
10．10YR3/2　黒褐色シルト　粘性強しまり密
径5～10mm大のパミスを20％含む。

0　1:50　1m

第55図　50～55号土坑

### （3）陥し穴状土坑

**6号陥し穴状土坑**（第56図、写真図版53）

〈位置・検出状況〉西側調査区のＩＢ10ｊ～ｋグリッドにわたって位置し、北北東側4.50mに７号陥し穴状遺構、9.60mに９号陥し穴状遺構が並行している。検出面はＶ層である。

〈重複関係〉南東側で39号土坑と重複している。新旧関係は、本遺構が土坑に切られていることから（新）39号土坑→（旧）６号陥し穴状遺構である。

〈形状・規模〉東南東－西北西に長軸がある溝状を呈している。開口部1.88×0.60m、底部1.80×0.23m、深さ0.64mを測る。

〈堆積土〉黒色シルトを主体とする６層に大別される。上位はにぶい小ブロック状の黄褐色土を含む黒色シルトと黒褐色シルトで構成され、下位は褐色シルトと黒褐色シルトの互層である。一部で壁崩落の堆積が見られ、自然堆積と考えられる。

〈壁・底面〉横断面形状は中段から緩やかに外傾するＵ字形で、底面はほぼ平坦である。

〈遺物・時期〉出土しない。時期は不明であるが、平面形状の特徴と調査事例から縄文時代に比定される。

**7号陥し穴状土坑**（第56図、写真図版53）

〈位置・検出状況〉西側調査区のＩＢ９ｋグリッドに位置し、南南西側4.50mに６号陥し穴状遺構、北東側４mに９号陥し穴状遺構が並列している。Ｖ層で検出されている。

〈重複関係〉他遺構との重複はない。

〈形状・規模〉ほぼ南東－北西に長軸がある楕円形を呈しており、開口部1.85×0.93m、底部1.43×0.40m、深さ0.98mである。

〈堆積土〉しまりのあるシルトの４層に大別される。上位はしまりのある黒色シルトと暗褐色シルトで構成され、下位は褐色シルトと壁崩落土のにぶい黄褐色シルトが互層で堆積している。自然堆積と考えられる。

〈壁・底面〉横断面形状は底面から緩やかに外傾するＵ字形である。底面は南東側が基盤の花崗岩であるために不明であるが、ほぼ平坦である。

〈遺物・時期〉埋土上位から縄文土器を10ｇ出土しているが、細片のため時期は不明である。平面形状の特徴と調査事例から、６号陥し穴状土坑と同様縄文時代に比定される。

**8号陥し穴状土坑**（第56図、写真図版54）

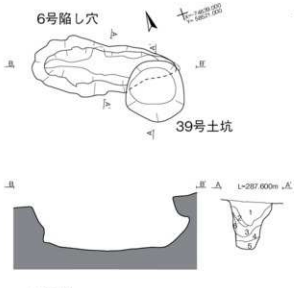
〈位置・検出状況〉西側調査区のＩＢ８・９ｊ～ｋグリッドにわたって位置し、Ｖ層で検出されている。

〈重複関係〉他遺構との重複はない。

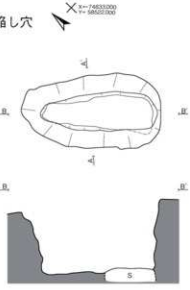
〈形状・規模〉東南東－西北西に長軸がある溝状を呈している。開口部2.04×0.80m、底部1.64×0.30m、深さ0.81mを測る。

〈堆積土〉堅くしまるシルトの６層に大別される。上位は黒色シルトと暗褐色シルト、下位は黒褐色を小ブロック含む褐色シルトと黒褐色シルトで構成されている。自然堆積と考えられる。

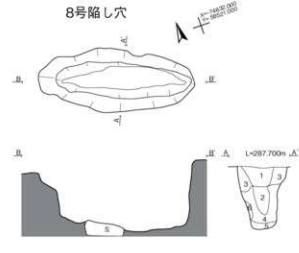
〈壁・底面〉横断面形状は中段からやや外傾するＵ字形である。底面は一部基盤の花崗岩が露出しているが、ほぼ平坦である。



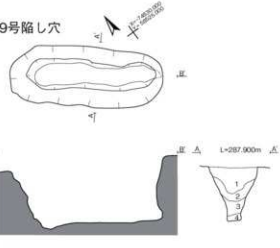

6号陥し穴
1．10YR17/1　黒色シルト　粘性強しまり密
　にぶい黄褐色土を小ブロックで5％含む。
2．10YR3/4　暗褐色シルト　粘性強しまりやや密。
3．10YR2/2　黒褐色シルト　粘性強しまりやや密
　にぶい黄褐色土を小ブロックで10％含む。
4．10YR4/6　褐色シルト　粘性強しまりやや密
　黒褐色土を小ブロックで5％含む。
5．10YR2/3　黒褐色シルト　粘性強しまりやや密
　V層起源のにぶい黄褐色土との混合土。
6．10YR5/4　にぶい黄褐色シルト　粘性強しまり密
　壁崩落土。




7号陥し穴
1．10YR17/1 黒色シルト　粘性強しまり密
　黒褐色土を小ブロックで20%含む。
2．10YR2/3　黒褐色シルト　粘性強しまり密
　黒褐色土を小ブロックで30%含む。
3．10YR4/4　褐色シルト　粘性強しまり密
　黒褐色土を小ブロックで5％含む。
4．10YR5/4　にぶい黄褐色シルト　粘性強しまり密
　壁崩落土。




8号陥し穴
1．10YR17/1 黒色シルト　粘性強しまり密
　にぶい黄褐色土を小ブロックで2％含む。
2．10YR2/3　黒褐色シルト　粘性強しまりやや密
　V層起源のにぶい黄褐色土との混合土。
3．10YR3/4　暗褐色シルト　粘性強しまり密
　黒褐色土との混合土。
4．10YR4/6　褐色シルト　粘性強しまり密
　黒褐色土を小ブロックで含む。
5．10YR2/2　黒褐色シルト　粘性強しまり密。
6．10YR4/4　褐色シルト　粘性強しまり密
　壁崩落土。




9号陥し穴
1．10YR17/1 黒色シルト　粘性強しまり密
　黒褐色土を小ブロックで5％含む。
2．10YR3/4　暗褐色シルト　粘性強しまり密
　V層起源のにぶい黄褐色土との混合土。
3．10YR4/6　褐色シルト　粘性強しまり密
　黒褐色土を小ブロックで20%含む。
4．10YR3/3　暗褐色シルト　粘性中しまり密。

0　1:50　1m

第56図　6～9号陥し穴状土坑

〈遺物・時期〉出土しない。時期は不明であるが、７号陥し穴状土坑と同様に平面形状の特徴と調査事例から縄文時代に比定される。

**９号陥し穴状土坑**（第56・62図、写真図版54・59）

〈位置・検出状況〉西側調査区のＩＢ８ｋ～ｌグリッドにわたって位置し、Ⅴ層で検出されている。南南西側9.60mに６号陥し穴状遺構、南西側４mに７号陥し穴状遺構が並列している。

〈重複関係〉他遺構との重複はない。

〈形状・規模〉ほぼ南東－北西に長軸がある溝状を呈しており、開口部2.02×0.75m、底部1.68×0.23m、深さ0.71mである。

〈堆積土〉シルトを主体とする４層に大別される。上位は堅くしまった黒色シルトがレンズ状に堆積し、下位は暗褐色シルトと褐色シルトの互層で構成されている。自然堆積と考えられる。

〈壁・底面〉横断面形状はＹ字形である。底面は北西端部でやや凹むほかは平坦である。

〈遺物・時期〉埋土中位から流れ込みと考えられる石皿326が出土している。北上山地産の花崗斑岩を素材としており側面には加工が施されず、幅広の一面に使用痕が認められる。土器の出土がなく時期は不明であるが、平面形状の特徴と調査事例から、８号陥し穴状土坑と同様縄文時代に比定される。

**10号陥し穴状土坑**（第57・62図、写真図版54・59）

〈位置・検出状況〉東側調査区のＩＢ18ｕグリッドに位置する。検出面はⅤ層中であるが、上部は広域基幹林道工事による削平を受けている。

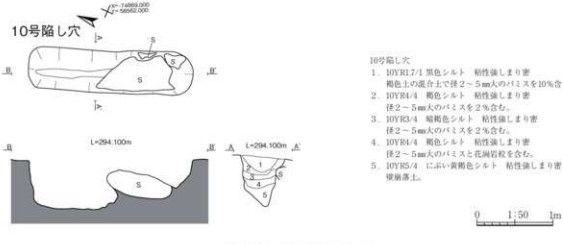
〈重複関係〉他遺構との重複はない。

〈形状・規模〉南南東－北北西に長軸がある溝状を呈しており、開口部2.20×0.54m、底部〈0.92〉×0.12mである。深さ0.65mである。

〈堆積土〉堅くしまったシルトの５層に大別される。上位はパミスと褐色シルトの混合土がレンズ状に堆積し、下位は褐色シルトにぶい黄褐色シルトの互層で構成されている。自然堆積と考えられる。

〈壁・底面〉横断面形状は中段からやや外傾するＵ字形である。底面の南半部は基盤岩の花崗岩が露出しているため不明であるが、北半部はほぼ平坦である。

〈遺物・時期〉埋土上位から縄文土器を70ｇ出土している。325は鉢の口縁部～胴部破片であるが細片のため時期は不明である。平面形状の特徴と調査事例から、９号陥し穴状土坑と同様縄文時代に比定される。




第57図　10号陥し穴状土坑

### （4）焼　土　遺　構

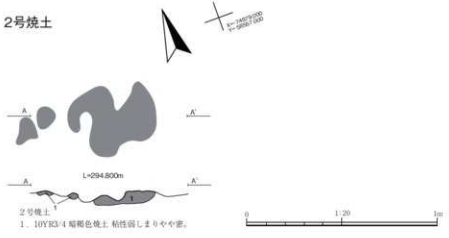
**2号焼土遺構**（第58図、写真図版54）

〈位置・検出状況〉東側調査のⅠB20ｓ～ｔグリッドにわたって位置し、Ⅳ層下位で検出されている。

〈重複関係〉他遺構との重複はない。

〈形状・規模〉不整形を呈しており、0.45×0.35mを測る。被熱深度は2～最大7㎝で、現地性の焼土と考えられる。

〈遺物・時期〉遺物の出土がなく時期は不明であるが、検出された層位から共伴する遺物等から縄文時代中期後半～後期に比定される。




第58図　2号焼土遺構

### （5）柱 穴 状 土 坑

**柱穴状土坑８**（第59図、写真図版55）

〈位置・検出状況〉東側調査区のⅠB18ｖグリッドに位置する。検出面はⅤ層中であるが、上部は広域基幹林道工事による削平を受けている。北西側1.30mに柱穴状土坑９が隣接する。

〈重複関係〉他遺構との重複はない。

〈形状・規模〉円形を呈しており、開口部0.32×0.30m、深さ0.50mを測る。底面はほぼ平坦である。

〈堆積土〉パミスを混入する黒色シルトの単層である。

〈遺物・時期〉埋土から縄文土器を10ｇ出土しているが、細片のため時期は不明である。

**柱穴状土坑９**（第59図、写真図版55）

〈位置・検出状況〉東側調査区のⅠB17ｖグリッドに位置する。検出面はⅤ層中であるが、上部は広域基幹林道工事による削平を受けている。南東側1.30mに柱穴状土坑８が隣接する。

〈重複関係〉他遺構との重複はない。

〈形状・規模〉円形を呈している。開口部0.35×0.30m、深さ0.42mを測る。底面はほぼ平坦である。

〈堆積土〉堅くしまりのある暗褐色シルトの単層で、パミスと褐色土を小ブロックで混入している。

〈遺物・時期〉埋土から縄文土器10ｇと頁岩の剥片が１点出土している。時期は柱穴状土坑８と同様に不明である。

**柱穴状土坑10**（第59図、写真図版55）

〈位置・検出状況〉東側調査区のＩＢ17ｘグリッドに位置する。検出面はＶ層中であるが、上部は広域基幹林道工事による削平を受けている。南側30cmに柱穴状土坑11が近接する。

〈重複関係〉他遺構との重複はない。

〈形状・規模〉隅丸方形を呈しており、開口部0.26×0.26m、深さ0.74mを測る。底面は平坦である。

〈堆積土〉パミスを混入する黒色シルトの単層で構成されている。

〈遺物・時期〉埋土から縄文土器と剥片を１点出土しているが、細片のため時期は不明である。

**柱穴状土坑11**（第59図、写真図版55）

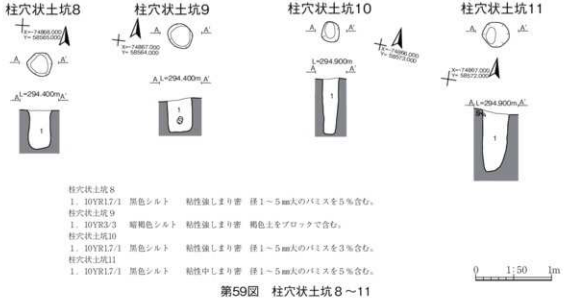
〈位置・検出状況〉東側調査区のＩＢ17ｘグリッドに位置する。検出面はＶ層中であるが、上部は広域基幹林道工事による削平を受けている。北側30cmに柱穴状土坑10が近接する。

〈重複関係〉他遺構との重複はない。

〈形状・規模〉楕円形を呈している。開口部0.33×0.32m、深さ0.76mを測る。底面は平坦である。

〈堆積土〉堅くしまりのある黒色シルトの単層である。

〈遺物・時期〉埋土から縄文土器１ｇと頁岩の剥片を１点出土しているが、時期は柱穴状土坑10と同様に不明である。




第59図　柱穴状土坑８～11

（６）遺構外出土遺物

遺構外出土遺物は、縄文土器52点、石器36点、土製品３点、石製品１点、鉄製品２点、鉄滓１点、銭貨２枚出土し、 96点を掲載している。

**縄文土器**（第60～64図、写真図版57・60・61）

327・328は口縁部に隆沈線による渦巻文が施されている。Ｉ群ａ類（縄文時代中期中葉）に相当する。

329～336は逆U字・円形の沈線による区画文、337は刺突列点文を施している。Ⅰ群b類(縄文時代中期後葉)に相当する。

338～345は口縁部に無文帯が巡り、胴部との境界を縄文原体圧痕や沈線で区画している。346・347・348は沈線による区画文、348は撚糸文を施文している。350は沈線文と刺突文である。Ⅱ群a類(縄文時代後期前葉)に相当する。

351～355は縄文時代中期～後期の粗製土器と考えられる。352・359は深鉢で補修用の穿孔が開けられている。

356は深鉢の口縁部で、羽状縄文が施文されている。357は複合口縁の深鉢である。358の口縁部は浅い沈線が巡っている。360・361は深鉢で、網目状撚糸文が施文されている。2群b類(縄文時代後期中葉)に相当する。

362は沈線文と楕円状の刺突を施し、363は沈線文と口唇部に刻目を施している。364・365は深鉢で沈線文で区画し、瘤状突起を貼付している。366は櫛引文の深鉢である。Ⅱ群c類(縄文時代後期後葉)に相当する。

367・368は台付土器で、胴部との境目に沈線、刻目列が巡っている。369～371は無文で、外面にやや粗いナデが施されている。369・371は壺である。372は下半部に縄文が施文された単孔壺、373が注口土器の注口部である。いずれも縄文時代後期に相当すると考えられる。

374～377の底部は374・376が無文、375のミニチュア土器が種類不明の植物痕、377が網代痕である。

374は工字文が施文された浅鉢で、Ⅳ群(縄文時代晩期)に相当する。

**磨製石斧**(第65図、写真図版62)

斧状の形態をした石器で、研磨を施した石器を磨製石斧とした。いずれも刃部は欠損しており、全体の形態は不明である。基部端部の形状から、Ⅰ類：鋭角に尖ったもの380、Ⅱ類：平らなもの379、Ⅲ類：丸みを帯びているもの381に分類される。381は整形過程段階と思われるもので、一部に敲打痕が認められ荒く研磨が施されている。石材は379と381が北上山地産の細粒閃緑岩、380がヒン岩である。

**石鏃**(第65図、写真図版62)

382は分銅形を呈する石鏃で、やや大きめの砂岩を素材とし、縁辺全周に二次加工を施し成形している。片面の一部には自然面が残り、両端部に敲打痕が認められる。石材産地は北上山地である。

**敲磨石**(第65～67図、写真図版62・63)

棒状や楕円形等の礫を素材とする、磨痕や敲打痕が認められるものを敲磨石として一括した。Ⅰ類：磨痕のみが認められるもの383～385、Ⅱ類：磨痕と敲打痕の組み合わさったもの385～402に分類される。石材は多様でホルンヘルス、花崗閃緑岩、頁岩、砂岩他があり、石材産地は390を除き北上山地で占められている。用途・機能としては、食料の調理具と石器生産道具の二者が考えられる。

**石皿**(第67図、写真図版63)

403は花崗斑岩を素材とする石皿の破片で、使用面に磨痕や擦痕が認められる。石材産地は北上山地である。

**石鏃**（第68図、写真図版64）

404～406は一部欠損しており形態が不明である。404・406は無茎鏃、405が有茎鏃に分類される。石材はいずれも北上山地産の頁岩である。

**石匙**（第68図、写真図版64）

一部欠損しているが摘まみ部に対し形状が横長の407と、縦形の408に分類される。いずれも石材は北上山地産の頁岩である。

**掻削器**（第68図、写真図版64）

横長剥片の素材を刃部を形成した409・410、縦長剥片の素材を刃部形成した411～414に分類される。石材は410が黒曜石、他は北上山地産の頁岩である。

**土製品**（第68図、写真図版64）

415と416は鼓形をした耳飾で、中央部に径２㎜の穿孔が施されている。高さは1.1cm、径が1.7～1.8cmを測る。417は径1.6cmの土玉である。中央部に浅い沈線が巡り、径１㎜大の刺突痕が２箇所に認められるが、用途は不明である。

**石製品**（第68図、写真図版64）

418は基部が欠損したミニチュア石斧である。残存長は4.4cm、幅1.9cmを測り、全面に研磨が施され、刃部は全体的に丸みを帯びている。用途は祭祀的な意味合いを持つものかと考えられる。遠野市九重沢Ⅲ遺跡の４号竪穴住居跡から長さ５cm、幅2.4cmの類似する石斧が出土している。

**鉄製品**（第68図、写真図版64）

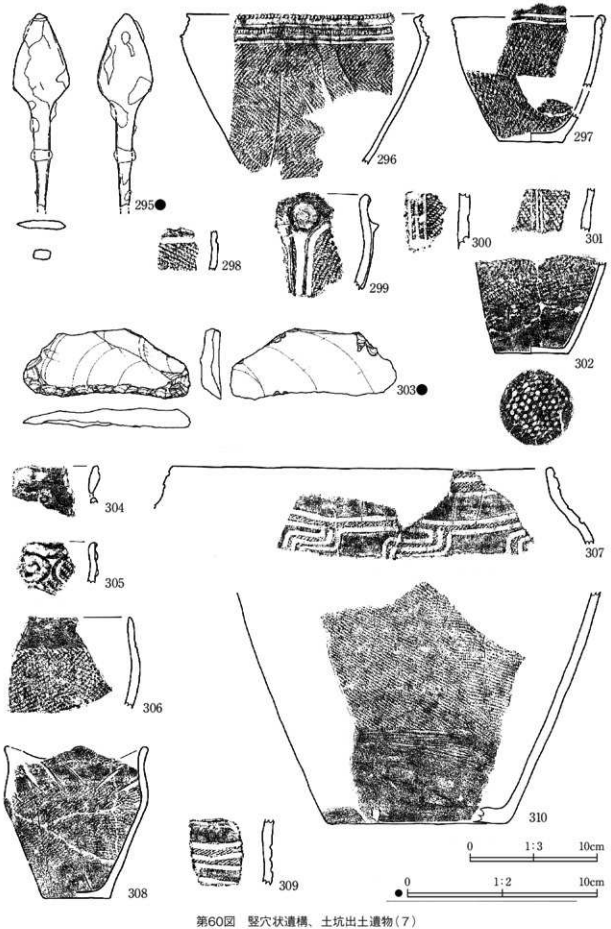
419は刀子で両端部が欠損している。残存長は12.5cm、刃厚は２㎜を測り、刃部の断面形は楔形を呈している。420は長さ7.2cm、厚さ0.5cm角の釘で、頭部は折れ曲がり欠損している。いずれも時期は不明である。

**鉄滓**（第68図、写真図版64）

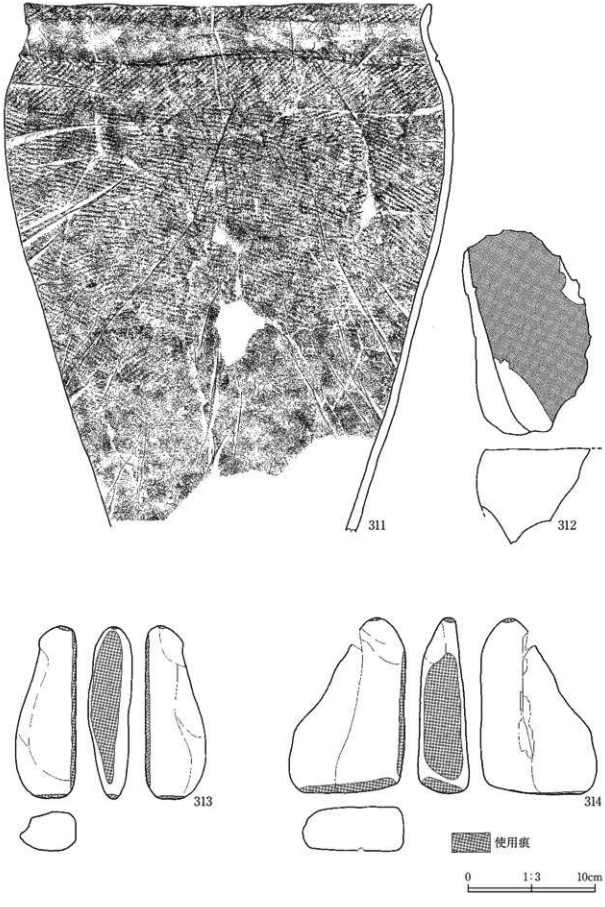
421は鉄滓で、長さ3.9cm、幅3.4cm、重さ26ｇを測る。時期は不明である。

**銭貨**（第68図、写真図版64）

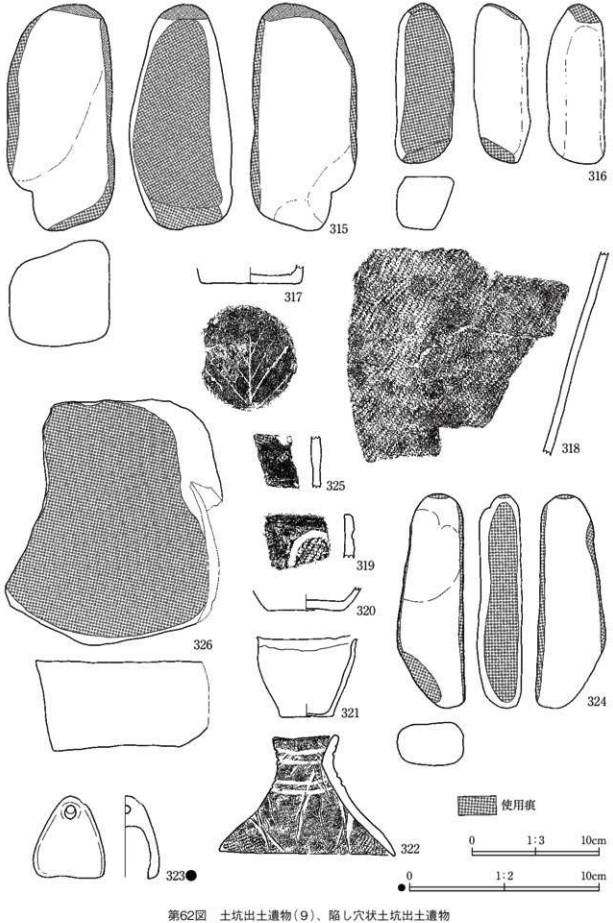
422と423は江戸時代に鋳造された寛永通宝である。422は全体が摩滅し、423は一部破片である。




第60図　竪穴状遺構、土坑出土遺物（7）

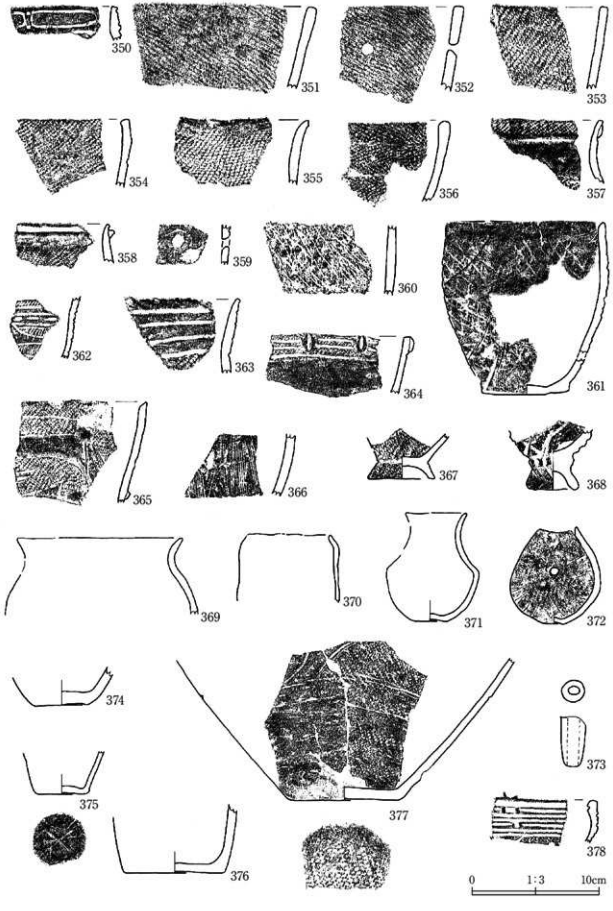



第61図　土坑出土遺物（8）

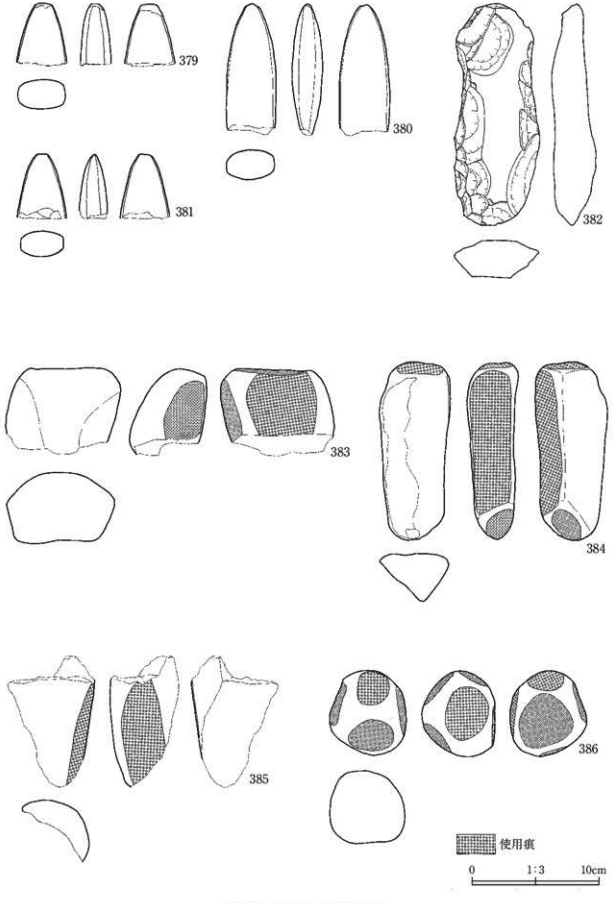



第62図　土坑出土遺物（9）、陥し穴状土坑出土遺物

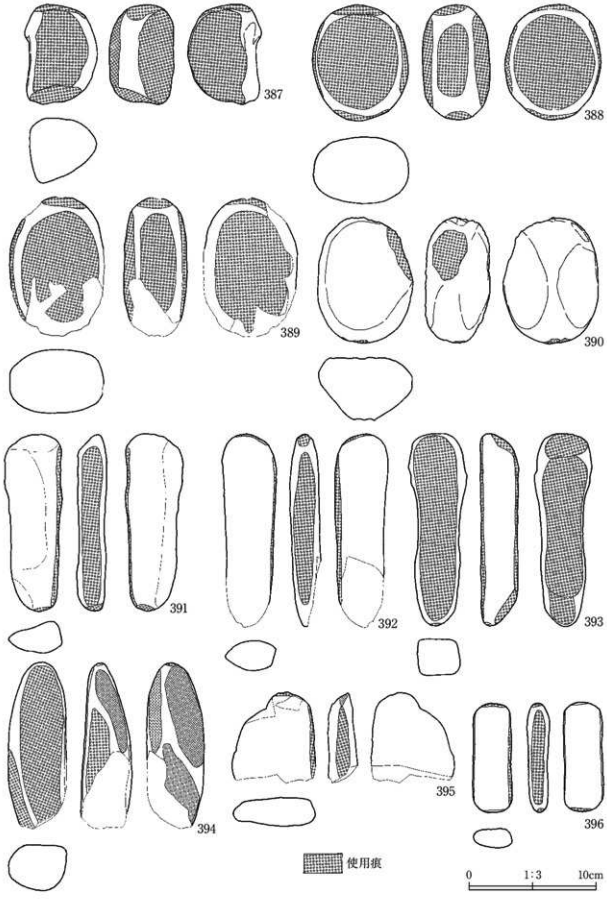
第63図　遺構外出土遺物（8）



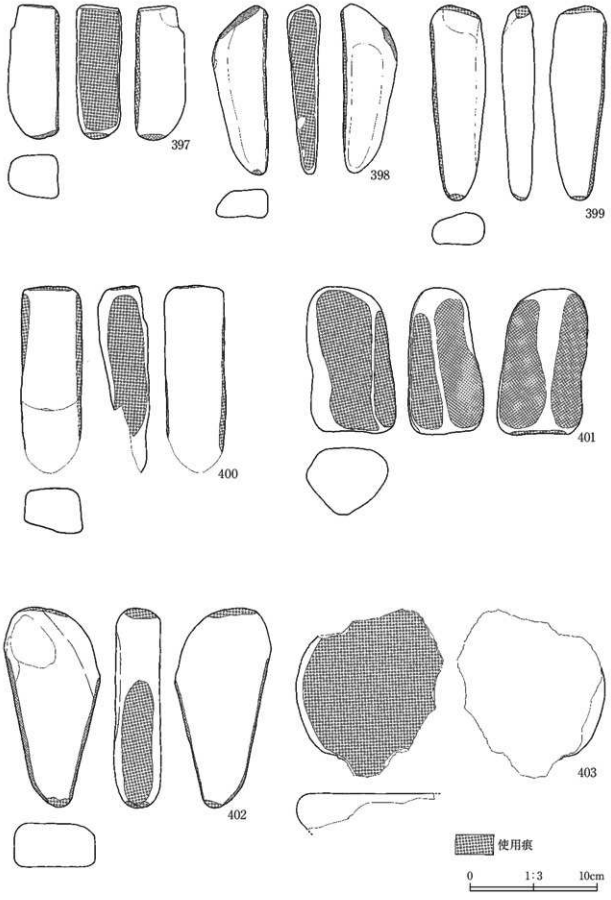

第64図　遺構外出土遺物（9）



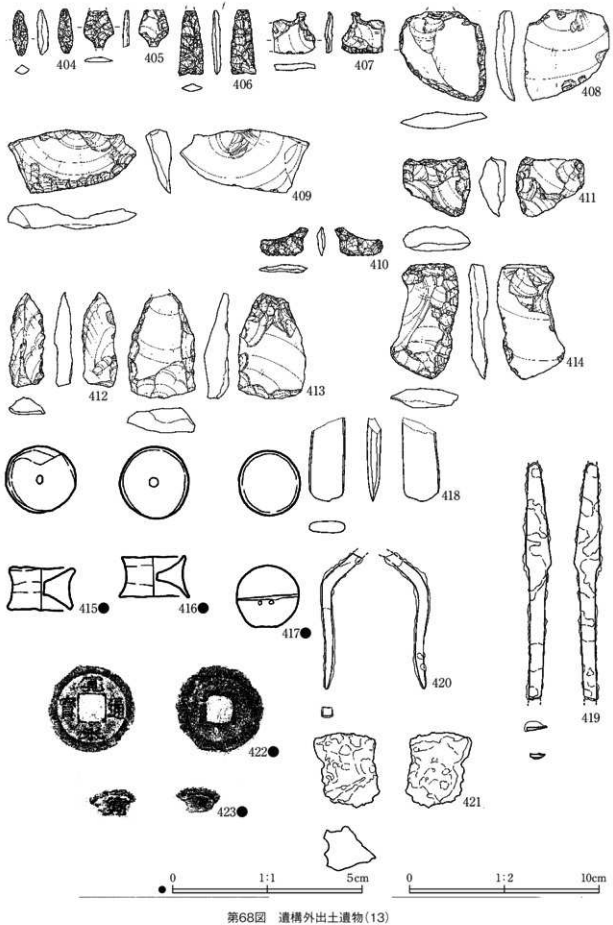

第65図　遺構外出土遺物(10)




第66図　遺構外出土遺物(11)




第67図　遺構外出土遺物(12)




第68図　遺構外出土遺物(13)

第10表　土器観察表（8）

| 掲載番号 | 出土位置 | 出土層位 | 器種 | 分類 | 残存部位 | 法量(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 焼成 | 図版 | 写真 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 296 | 38号土坑 | 埋土下位 | 浅鉢 | Ⅴb | 口縁部～胴部 | (18.6) | － | (11.8) | 口唇部刻目,平行沈線,沼状隆文 | ナデ | 良好 | 60 | 57 |
| 297 | 40号土坑 | 埋土下位 | 深鉢 | Ⅱa | 3分の1 | (12.1) | 5.0 | 10.2 | 口唇部刻目,平行沈線,底部無文 | ナデ | 良好 | 60 | 57 |
| 298 | 41号土坑 | 埋土中位 | 浅鉢 | Ⅴb | 口縁部 | － | － | － | 沈線,地文(RL) | ナデ | 良好 | 60 | 57 |
| 299 | 43号土坑 | 埋土中位 | 深鉢 | Ⅰb | 口縁部 | － | － | － | 隆沈線による区画文 | ナデ | 良好 | 60 | 57 |
| 300 | 49号土坑 | 埋土上位 | 深鉢 | Ⅱc | 胴部 | － | － | － | 沈線区画文,地文(RL) | ナデ | 良好 | 60 | 57 |
| 301 | 49号土坑 | 埋土上位 | 深鉢 | Ⅱc | 胴部 | － | － | － | 沈線区画文,地文(LR) | ナデ | 良好 | 60 | 57 |
| 302 | 49号土坑 | 埋土上位 | 深鉢 | Ⅴa | 底部～胴部 | － | 5.8 | (7.2) | 地文(LR),スス付着,底部網代痕 | ナデ | やや良好 | 60 | 57 |
| 304 | 50号土坑 | 埋土上位 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部 | － | － | － | 穿孔,スス付着 | ナデ | 良好 | 60 | 57 |
| 305 | 50号土坑 | 埋土上位 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部 | － | － | － | 渦巻文 | ナデ | 良好 | 60 | 57 |
| 306 | 50号土坑 | 埋土上位 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部～胴部 | － | － | － | 地文(LR),縄文原体による圧痕文,スス付着 | ナデ | 良好 | 60 | 57 |
| 307 | 50号土坑 | 埋土上位 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部～胴部 | － | － | － | 沈線区画文,竹管刺突 | | 良好 | 60 | 57 |
| 308 | 50号土坑 | 埋土上位 | 深鉢 | Ⅱa | 3分の1 | (11.3) | 5.3 | 11.9 | 波状口縁,縄文原体による圧痕文,底部無文 | ナデ | やや良好 | 60 | 57 |
| 309 | 50号土坑 | 埋土上位 | 深鉢 | Ⅱa | 胴部 | － | － | － | 沈線区画文 | ナデ | 良好 | 60 | 57 |
| 310 | 50号土坑 | 埋土上位 | 深鉢 | Ⅴa | 底部～胴部 | － | － | － | 地文(LR),底部無文 | ナデ | 良好 | 60 | 57 |
| 311 | 50号土坑 | 埋土上位 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部～胴部 | (32.2) | － | (41.8) | 地文(LR),縄文原体による圧痕文,スス付着 | ナデ | 良好 | 61 | 58 |
| 317 | 51号土坑 | 埋土 | 深鉢 | Ⅵ | 底部 | － | 7.8 | (1.4) | 底部木葉痕 | ナデ | 良好 | 62 | 59 |
| 318 | 54号土坑 | 埋土 | 深鉢 | Ⅴa | 胴部 | － | － | － | 地文(LR),スス付着 | ナデ | 良好 | 62 | 59 |
| 319 | 55号土坑 | 埋土 | 深鉢 | Ⅰb | 口縁部 | － | － | － | 沈線区画文 | ナデ | 良好 | 62 | 59 |
| 320 | 55号土坑 | 埋土 | 深鉢 | Ⅵ | 底部 | － | 6.0 | (1.8) | 無文 | ナデ | 良好 | 62 | 59 |
| 321 | 55号土坑 | 埋土 | 深鉢 | Ⅴa | 2分の1 | (7.9) | 4.3 | 6.4 | 無文,底部無文 | ナデ | やや良好 | 62 | 59 |
| 322 | 55号土坑 | 埋土中位 | 壺 | Ⅱa | 3分の2 | 5.2 | 13.9 | 9.6 | 平行沈線文,地文(LR) | ナデ | 良好 | 62 | 59 |
| 325 | 10号陥し穴 | 埋土上位 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部 | － | － | － | 地文(LR) | ナデ | 良好 | 62 | 59 |
| 327 | ⅠB21t～u | 表土 | 深鉢 | Ⅰa | 口縁部 | － | － | － | 山形突起,渦巻文,刺突文 | ナデ | 良好 | 63 | 60 |
| 328 | ⅠB21t～u | 表土 | 深鉢 | Ⅰa | 口縁部 | － | － | － | 山形突起,渦巻文 | ナデ | 良好 | 63 | 60 |
| 329 | ⅠB21t～u | 表土 | 深鉢 | Ⅰb | 胴部 | － | － | － | 地文(RL),粘土紐貼付 | ナデ | 良好 | 63 | 60 |
| 330 | ⅠB21t～u | 表土 | 浅鉢 | Ⅰb | 口縁部 | － | － | － | 地文(RL),粘土紐貼付 | ナデ | 良好 | 63 | 60 |
| 331 | ⅠB15・16r | 表土 | 深鉢 | Ⅰb | 口縁部 | － | － | － | 地文(RL),沈線文 | ナデ | 良好 | 63 | 60 |
| 332 | トレンチ3 | 表土 | 深鉢 | Ⅰb | 胴部 | － | － | － | 隆沈線の渦巻文 | ナデ | 良好 | 63 | 60 |
| 333 | ⅠB区 | 表土 | 深鉢 | Ⅰb | 口縁部 | － | － | － | 渦巻文,穿孔 | ナデ | やや良好 | 63 | 60 |
| 334 | ⅠB15・16r | 表土 | 深鉢 | Ⅰb | 胴部 | － | － | － | 地文(RL)沈線文 | ナデ | 良好 | 63 | 60 |
| 335 | ⅠB21t～u | 表土 | 深鉢 | Ⅰb | 口縁部～胴部 | － | － | － | 地文(RL),沈線,渦巻文 | ナデ | 良好 | 63 | 60 |
| 336 | ⅠC17a | 表土 | 深鉢 | Ⅰb | 口縁部 | － | － | － | 波状口縁,沈線文 | ナデ | 良好 | 63 | 60 |
| 337 | ⅠB区 | 表土 | 深鉢 | Ⅰb | 口縁部 | － | － | － | 竹管文 | ナデ | やや良好 | 63 | 60 |
| 338 | ⅠC17a | 表土 | 深鉢 | Ⅱa | 3分の2 | (9.9) | 5.4 | 8.7 | 地文(LR),縄文原体による圧痕文,底部ナデ | ナデ | やや良好 | 63 | 60 |
| 339 | ⅠB21t～u | 表土 | 深鉢 | Ⅱa | 2分の1 | (5.5) | 6.0 | 9.1 | 波状口縁,底部無文 | ナデ | やや良好 | 63 | 60 |
| 340 | ⅠB21t～u | 表土 | 深鉢 | Ⅱa | 底部～胴部 | － | 5.0 | (5.1) | 沈線,底部無文 | ナデ | 良好 | 63 | 60 |
| 341 | ⅠB15・16r | 表土 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部 | － | － | － | 地文(RL),縄文原体による圧痕文, | ナデ | 良好 | 63 | 60 |

（　）は推定値　＜　＞は残存値

**第11表　土器観察表（9）**

| 掲載番号 | 出土位置 | 出土層位 | 器種 | 分類 | 残存部位 | 法量(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 焼成 | 図版 | 写真 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 342 | 1B21ｔ～u | 表土 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部～胴部 | － | － | － | 地文(LR),縄文原体による圧痕文,ススけ着 | ナデ | やや良好 | 63 | 60 |
| 343 | 1B20・21s | 表土 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部～胴部 | － | － | － | 波状口縁,地文(LR),縄文原体による圧痕文 | ナデ | やや良好 | 63 | 60 |
| 344 | 1C16～17e 沢跡1 | 埋土 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部～胴部 | － | － | － | 沈線文,磨消 | ナデ | 良好 | 63 | 60 |
| 345 | 1C16～17e 沢跡1 | 埋土 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部 | － | － | － | 隆帯,刻目 | ナデ | 良好 | 63 | 60 |
| 346 | 1B21ｔ～u | 表土 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部～胴部 | － | － | － | 波状口縁,沈線区画 | ナデ | 良好 | 63 | 60 |
| 347 | 1B21ｔ～u | 表土 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部～胴部 | － | － | － | 波状口縁,沈線文,磨消 | ナデ | 良好 | 63 | 60 |
| 348 | 1B21ｔ～u | 表土 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部 | － | － | － | 波状口縁,撚糸文 | ナデ | 良好 | 63 | 60 |
| 349 | 1B21ｔ～u | 表土 | 深鉢 | Ⅱa | 口縁部～胴部 | － | － | － | 地文(LR),沈線区画文 | ナデ | 良好 | 63 | 60 |
| 350 | 1B21ｔ～u | 表土 | 深鉢 | Ⅱb | 口縁部 | － | － | － | 沈線文,刺突 | ナデ | 良好 | 64 | 61 |
| 351 | 1C17d | 表土 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部 | － | － | － | 地文(RL) | ナデ | 良好 | 64 | 61 |
| 352 | 1C17d | 表土 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部 | － | － | － | 地文(RL),穿孔 | ナデ | 良好 | 64 | 61 |
| 353 | 1C16a | 表土 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部 | － | － | － | 地文(LR),平縁,ススけ着 | ナデ | 良好 | 64 | 61 |
| 354 | 1B15・16r | 表土 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部 | － | － | － | 地文(LR),平縁 | ナデ | 良好 | 64 | 61 |
| 355 | 1B15・16r | 表土 | 深鉢 | Ⅴa | 口縁部 | － | － | － | 地文(LR),波状口縁 | ナデ | 良好 | 64 | 61 |
| 356 | 1B21ｔ～u | 表土 | 深鉢 | Ⅱb | 口縁部 | － | － | － | 羽状縄文,ススけ着 | ナデ | 良好 | 64 | 61 |
| 357 | 1C17a | 表土 | 深鉢 | Ⅱb | 口縁部 | － | － | － | 複合口縁 | ナデ | 良好 | 64 | 61 |
| 358 | 1B21ｔ～u | 表土 | 深鉢 | Ⅱc | 口縁部 | － | － | － | 地文(RL),口縁部沈線 | ナデ | 良好 | 64 | 61 |
| 359 | 1B15・16r | 表土 | 不明 | Ⅴ | 胴部 | － | － | － | 外面剥落,穿孔 | ナデ | やや不良 | 64 | 61 |
| 360 | 1B21ｔ～u | 表土 | 深鉢 | Ⅱc | 胴部 | － | － | － | 網目状撚糸文 | ナデ | やや良好 | 64 | 61 |
| 361 | 1B21ｔ～u | 表土 | 深鉢 | Ⅱc | 2分の1 | (12.6) | 13.8 | 6.9 | 網目状撚糸文,底部木葉痕,ススけ着 | ナデ | やや良好 | 64 | 61 |
| 362 | トレンチ4 | 表土 | 浅鉢 | Ⅱc | 口縁部～胴部 | － | － | － | 楕円形状刺突,刻目 | ナデ | 良好 | 64 | 61 |
| 363 | トレンチ5 | 表土 | 深鉢 | Ⅱc | 口縁部 | － | － | － | 口唇部刻目,平行沈線,ススけ着 | ナデ | やや良好 | 64 | 61 |
| 364 | 1B21ｔ～u | 表土 | 深鉢 | Ⅱc | 口縁部 | － | － | － | 口縁貼瘤,沈線区画 | ナデ | 良好 | 64 | 61 |
| 365 | 1B21ｔ～u | 表土 | 深鉢 | Ⅱc | 口縁部～胴部 | － | － | － | 貼瘤,沈線区画,磨消 | ナデ | 良好 | 64 | 61 |
| 366 | 1B21ｔ～u | 表土 | 深鉢 | Ⅱc | 胴部 | － | － | － | 櫛引文　ススけ着 | ナデ | 良好 | 64 | 61 |
| 367 | トレンチ4 | 表土 | 台付土器 | Ⅴ | 底部～胴部 | － | 5.3 | (3.5) | 台部に沈線,地文(LR) | ナデ | 良好 | 64 | 61 |
| 368 | 1B区 | 表土 | 台付土器 | Ⅴ | 底部～胴部 | － | 4.2 | (4.8) | 台部に沈線,刻目列 | ナデ | 良好 | 64 | 61 |
| 369 | 1B21ｔ～u | 表土 | 壺形土器 | Ⅴd | 口縁部～胴部 | (13.1) | － | (6.1) | 無文,ナデ | ナデ | 良好 | 64 | 61 |
| 370 | 1B21ｔ～u | 表土 | 不明 | Ⅴ | 口縁部～胴部 | (6.6) | － | (5.3) | 無文 | ナデ | やや不良 | 64 | 61 |
| 371 | 1B21ｔ～u | 表土 | 壺形土器 | Ⅴd | 2分の1 | (4.8) | 2.4 | 8.6 | 無文,ナデ,底部無文 | ナデ | 良好 | 64 | 61 |
| 372 | 1B21ｔ～u | 表土 | 単穴壺 | Ⅴ | 一部欠損 | (2.9) | 1.2 | 7.6 | 中央部に穿孔,地文(LR),磨消 | 不明 | 良好 | 64 | 61 |
| 373 | 1B21ｔ～u | 表土 | 注口土器 | Ⅴc | 注口部 | － | － | (5.0) | ミガキ | 不明 | 良好 | 64 | 61 |
| 374 | 1B21ｔ～u | 表土 | 壺形土器 | Ⅴd | 底部～胴部 | － | 4.0 | (2.9) | 無文,ナデ,ススけ着 | ナデ | 良好 | 64 | 61 |
| 375 | 1B20・21ｔu | 表土 | ミニチュア土器 | Ⅵf | 底部～胴部 | － | 4.3 | (3.3) | 無文,底部植物痕 | ナデ | 良好 | 64 | 61 |
| 376 | 1B21ｔ～u | 表土 | 深鉢 | Ⅴa | 底部～胴部 | － | 8.0 | (5.4) | 無文 | ナデ | 良好 | 64 | 61 |
| 377 | 1C17d・1C16・17b～d | 表土 | 深鉢 | Ⅴa | 底部～胴部 | － | (8.6) | (11.3) | 沈線文,底部網代痕 | ナデ | 良好 | 64 | 61 |
| 378 | 1B16・17q | 表土 | 浅鉢 | Ⅳ | 口縁部 | － | － | － | 口唇部小突起,変形工字文 | ナデ | 良好 | 64 | 61 |

（　）は推定値　＜　＞は残存値

### 第12表　土製品観察表（2）

| 掲載番号 | 出土位置 | 出土層位 | 器種 | 残存部位 | 計測値(cm) 長さ | 幅 | 厚さ | 重量(g) | 図版 | 写真 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 323 | 55号土坑 | 覆土 | 鐸形土製品 | 完形 | 4.3 | 3.8 | 0.5 | 28.4 | 62 | 59 |
| 415 | 沢勝1　IC17e | 覆土上位 | 耳飾 | 一部欠損 | 1.1 | 1.7 | 0.7 | 2.9 | 68 | 64 |
| 416 | 沢勝1　IC17e | 覆土上位 | 耳飾 | 完形 | 1.1 | 1.9 | 0.7 | 2.7 | 68 | 64 |
| 417 | Ib13～r | 表土 | 土玉 | 完形 | 1.6 | 1.6 | 1.6 | 4.4 | 68 | 64 |

### 第13表　石器観察表（2）

| 掲載番号 | 出土位置 | 出土層位 | 器種 | 石質 | 産地 | 計測値(cm) 長さ | 幅 | 厚さ | 重量(g) | 図版 | 写真 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 303 | 49号土坑 | 覆土上位 | 磨製斧 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 3.7 | 8.2 | 1.0 | 35.0 | 60 | 57 |
| 312 | 50号土坑 | 覆土上位 | 石皿 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | (16.1) | (9.8) | (7.6) | 1390.0 | 61 | 58 |
| 313 | 50号土坑 | 覆土上位 | 敲磨石 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 13.5 | 4.4 | 3.1 | 300.0 | 61 | 58 |
| 314 | 50号土坑 | 覆土上位 | 敲磨石 | 砂岩 | 北上山地　古生代 | 13.8 | 9.1 | 3.4 | 670.0 | 61 | 58 |
| 315 | 51号土坑 | 覆土 | 敲磨石 | 砂岩 | 北上山地　古生代 | 17.8 | 8.2 | 8.4 | 1830.0 | 62 | 59 |
| 316 | 51号土坑 | 覆土 | 敲磨石 | 花崗閃緑岩 | 北上山地　中生代白亜紀 | 12.6 | 4.5 | 4.1 | 365.0 | 62 | 59 |
| 324 | 55号土坑 | 覆土 | 敲磨石 | ホルンヘルス | 北上山地　古生代 | 16.8 | 5.3 | 3.4 | 500.0 | 62 | 59 |
| 326 | 9号竪穴 | 覆土中位 | 石皿 | 花崗斑岩 | 北上山地　中生代白亜紀 | (19.2) | (16.6) | 7.1 | 3450.0 | 62 | 62 |
| 379 | IB15～16r | 表土 | 石斧 | 細粒閃緑岩 | 北上山地　中生代白亜紀 | (4.9) | 4.0 | 2.4 | 69.5 | 65 | 62 |
| 380 | IB15～16r | 表土 | 石斧 | ヒン岩 | 北上山地　中生代白亜紀 | (10.4) | 3.9 | 2.4 | 150.0 | 65 | 62 |
| 381 | IC17d | 表土 | 石斧 | 細粒閃緑岩 | 北上山地　中生代白亜紀 | (5.1) | 3.9 | 2.2 | 58.6 | 65 | 62 |
| 382 | IB17l | 表土 | 石鏃 | 砂岩 | 北上山地　古生代 | 17.5 | 6.7 | 3.4 | 437.0 | 65 | 62 |
| 383 | 沢勝1　IC17e | 覆土 | 敲磨石 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | (6.8) | 9.0 | 6.0 | 495.0 | 65 | 62 |
| 384 | IB21t～u | 表土 | 敲磨石 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 14.0 | 5.6 | 4.0 | 375.3 | 65 | 62 |
| 385 | IB21t～u | 表土 | 敲磨石 | 花崗閃緑岩 | 北上山地　中生代白亜紀 | (10.3) | (6.8) | (5.4) | 235.0 | 65 | 62 |
| 386 | 1号竪穴武道構 | 覆土 | 敲磨石 | 花崗閃緑岩 | 北上山地　中生代白亜紀 | 6.7 | 5.9 | 5.7 | 354.0 | 65 | 62 |
| 387 | 沢勝1　IC17e | 表土 | 敲磨石 | 細粒閃緑岩 | 北上山地　中生代白亜紀 | 7.8 | 5.4 | 5.5 | 326.0 | 66 | 62 |
| 388 | IB17o～p | 表土 | 敲磨石 | 花崗岩 | 北上山地　中生代白亜紀 | 9.1 | 7.5 | 5.3 | 550.0 | 66 | 62 |
| 389 | IB21u | 表土 | 敲磨石 | 花崗閃緑岩 | 北上山地　中生代白亜紀 | 10.9 | 7.4 | 5.0 | 655.0 | 66 | 62 |
| 390 | IB17o～p | 表土 | 敲磨石 | ホルンヘルス | 奥羽山脈基盤　古生代 | 9.8 | 7.5 | 5.1 | 542.0 | 66 | 62 |
| 391 | 沢勝1　IC17e | 表土 | 敲磨石 | ホルンヘルス | 北上山地　古生代 | 13.9 | 4.5 | 2.4 | 213.0 | 66 | 62 |
| 392 | IB16j～k | 表土 | 敲磨石 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 15.1 | 4.2 | 2.5 | 206.0 | 66 | 62 |
| 393 | IB17o～p | 表土 | 敲磨石 | 砂岩 | 北上山地　古生代 | 15.1 | 4.6 | 3.0 | 310.0 | 66 | 63 |
| 394 | IB21t～u | 表土 | 敲磨石 | 細粒斑糲岩 | 北上山地　中生代白亜紀 | (13.1) | 4.6 | 3.6 | 254.0 | 66 | 63 |
| 395 | IB21t～u | 表土 | 敲磨石 | 細粒斑糲岩 | 北上山地　中生代白亜紀 | (7.2) | 6.5 | 2.3 | 147.0 | 66 | 63 |
| 396 | IC16d | 表土 | 敲磨石 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 8.6 | 3.1 | 1.7 | 79.5 | 66 | 63 |
| 397 | IB20～21a | 表土 | 敲磨石 | 細粒花崗岩 | 北上山地　中生代白亜紀 | 10.6 | 4.0 | 3.5 | 260.0 | 67 | 63 |
| 398 | IB21t～u | 表土 | 敲磨石 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 13.2 | 4.1 | 2.6 | 194.0 | 67 | 63 |
| 399 | IB15q | 表土 | 敲磨石 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 15.3 | 4.3 | 2.6 | 259.0 | 67 | 63 |
| 400 | IB17o～p | 表土 | 敲磨石 | ホルンヘルス | 北上山地　古生代 | (14.7) | 4.7 | 4.0 | 369.5 | 67 | 63 |
| 401 | IB21t～u | 表土 | 敲磨石 | 砂岩 | 北上山地　古生代 | 11.5 | 6.5 | 5.2 | 697.0 | 67 | 63 |
| 402 | 1号竪穴武道構 | 覆土 | 敲磨石 | ホルンヘルス | 奥羽山脈基盤　古生代 | 15.4 | 7.1 | 3.5 | 62.3 | 67 | 63 |
| 403 | IB17o～p | 表土 | 石皿 | 花崗斑岩 | 北上山地　中生代白亜紀 | (12.3) | (11.1) | (2.9) | 262.0 | 67 | 63 |
| 404 | IB16～17q | 表土 | 石鏃 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 2.4 | 0.8 | 0.6 | 1.0 | 68 | 64 |
| 405 | IB16k～l | 表土 | 石鏃 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | (2.0) | 1.6 | 0.3 | 1.0 | 68 | 64 |
| 406 | IB21t～u | 表土 | 石鏃 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | (2.4) | 1.3 | 0.4 | 1.8 | 68 | 64 |
| 407 | IB16～17q | 表土 | 石鏃 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 1.5 | (2.3) | 0.4 | 1.8 | 68 | 64 |
| 408 | IB16～17q | 表土 | 石鏃 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | (3.8) | 4.5 | 0.7 | 18.2 | 68 | 64 |
| 409 | IB17o～p | 表土 | 磨製斧 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 3.4 | 6.3 | 1.4 | 17.3 | 68 | 64 |
| 410 | トレンチ6 | 表土 | 磨製斧 | 黒曜石 | 不明 | 1.5 | 2.5 | 0.4 | 1.1 | 68 | 64 |
| 411 | トレンチ8 | 表土 | 磨製斧 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 3.1 | 3.5 | 1.4 | 13.5 | 68 | 64 |
| 412 | IB9f | 表土 | 磨製斧 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 5.0 | 1.9 | 1.0 | 6.9 | 68 | 64 |
| 413 | IB16r | 表土 | 磨製斧 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | (5.6) | 3.5 | 1.3 | 24.8 | 68 | 64 |
| 414 | IB16p～q | 表土 | 磨製斧 | 頁岩 | 北上山地　古生代 | 6.1 | 3.2 | 1.1 | 20.0 | 68 | 64 |

＜　＞は残存値

### 第14表　石製品観察表

| 掲載番号 | 出土位置 | 出土層位 | 器種 | 石質 | 産地 | 計測値(cm) 長さ | 幅 | 厚さ | 重量(g) | 図版 | 写真 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 418 | 沢勝1　IC17e | 覆土上位 | ミニチュア石斧 | 蛇紋岩 | 古生代オルドビス紀 早池峰山周辺 | (4.4) | 1.9 | 0.7 | 10.7 | 68 | 64 |

＜　＞は残存値

# 7　ま　と　め

## (1)出　土　遺　物

〈縄文土器〉

今回、新里愛宕裏遺跡の発掘調査で縄文時代中期～弥生時代初頭の土器が出土している。これらについて、整理作業に当たり出土した土器を以下の通り、Ⅰ～Ⅵ群に群分けを行った。Ⅰ・Ⅱ群については出土量が非常に多く、詳細な時期ごとの資料が出土していたため、Ⅰ群はａ・ｂ類、Ⅱ群はａ～ｃ類まで分類を行った。Ⅴ群については詳細な時代が明言できないため、器種ごとにａ～ｆ類に分類することとした。

【Ⅰ群】　縄文時代中期
　ａ類　縄文時代中期中葉
　ｂ類　縄文時代中期後葉

【Ⅱ群】　縄文時代後期
　ａ類　縄文時代後期前葉
　ｂ類　縄文時代後期中葉
　ｃ類　縄文時代後期後葉

【Ⅲ群】　縄文時代後期末葉～晩期

【Ⅳ群】　縄文時代晩期～弥生時代初頭

【Ⅴ群】縄文時代中期～晩期の土器
　ａ類　深鉢土器
　ｂ類　浅鉢土器
　ｃ類　注口土器
　ｄ類　壷型土器
　ｅ類　高台付土器
　ｆ類　ミニチュア土器

【Ⅵ群】土器底部片

今回掲載した土器は、合計311点であり、群類別分類を行った中でも、Ⅱ群にあたる縄文時代後期の土器がほぼ大半を占める形となっている。このため、今回は縄文時代後期を中心として、弥生時代初頭とみられる土器群を中心にまとめたい。

〈Ⅱ群ａ類〉

この群類は、縄文時代後期前葉に相当する土器群とした。Ⅱ群の中でも出土量が多く、主に沈線・磨消からなる帯状文を持つ土器、口縁部と胴部文様体の間に無文体を持つ土器の２つに大別することができる。帯状文は、主に渦巻状・クランク状・Ｓ字状・工字状のいずれかを器面に施文している。またクランク状の帯状文は主に深鉢土器に施文され、Ｓ字状・渦巻状の帯状文は壷型土器へ施文される傾向が見られる。口縁部と胴部の間に無文体が見られる土器は、縄文原体によって区画するものと無文体のみのものが見られる。主に十腰内Ⅴ～Ⅵ式土器に相当するものが多いようである。

〈Ⅱ群ｂ類〉

この群類は、縄文時代後期中葉に相当する土器群とした。殆どが破片資料であるため、ある程度判別が可能な特徴的なものを掲載した。粗製土器に工具等で横位に施文したと条痕文・櫛歯状条痕文が見られるものや、大きく開いた波状口縁を持つ深鉢土器、団扇状口縁を持つ深鉢土器、注口土器等器種・文様ともにまとまりが少ない。宝ヶ峯・手稲式に相当するものが出土した。

〈Ⅱ群ｃ類〉

この群類は、縄文時代後期後葉に相当する土器群とした。主に口縁部に沈線もしくは並行沈線を施文し、胴部器面には瘤状突起を貼り付け、入組文を施文するものが多い。口唇部には突起を施しており、この突起に工具等で沈線や十字文を施文する。入組文には、縄文だけではなく、連続刺突文を施文する土器がみられる。所謂、瘤付土器Ⅲ群に相当するものが多いようである。

〈Ⅲ群〉

この群類は、縄文時代後期末葉～晩期に相当する土器群とした。香炉型土器片や、入組三叉文を施文するものが出土している。これらの土器は、全て遺構外から出土しており、縄文時代晩期に帰属する遺構は確認できなかった。沈線による工字文を持つ浅鉢には一部朱による着色がなされれている。時間幅があるが、大洞B1・A2式に相当するものと見られる。

〈Ⅳ群〉

この群類は、縄文時代晩期～弥生時代初頭の土器群とした。出土量は少なく４点のみの掲載である。高台付土器の台部の破片が遺構外から出土しており、いずれも並行沈線・波状沈線を主体とした文様構成である。全て遺構外からの出土であり、今回の調査では、弥生時代に帰属する遺構は確認できなかった。これらの土器片は、胴部等が出土していないため全容は不明であるが、砂沢式段階の土器群との類似性が高い。

### （２）遺　　構

〈竪穴住居跡〉

縄文時代中期後葉の１号竪穴住居跡、縄文時代後期中葉～後葉にかけての２・３号竪穴住居跡を確認した。１号竪穴住居跡は床面施設の残存状況が良好であった。複式炉前庭部内のP8を除いた５本柱が主柱穴であり、一部同規格の柱穴が隣接する状態から、改築・増築を行っている可能性が高い。複式炉は、扁平で縦長の川原石を縦位に並べた石囲部と、浅い掘り込みの前庭部が直結しているものである。２・３号竪穴住居跡は床面施設が乏しく、各遺構から２～３個柱穴を検出したものの、主柱穴は不明であった。炉は地床炉とみられるが、３号竪穴住居跡には石の抜取痕が確認できたため、こちらは石囲炉であり、炉石を持ち去っているようである。これらの住居を時期別にみると、縄文時代中期は削平されているが北側斜面地中段部に構築されており、縄文時代後期には緩斜面地端部に竪穴住居を構築していることが確認できるため、時期ごとに住居域形成空間が異なる様である。

〈竪穴状遺構〉

１棟確認しているが、削平を受けており形状と規模の詳細は不明である。時期は古代と考えられる。

〈土坑〉

土坑27基、フラスコ状土坑28基、陥し穴状土坑10基を確認した。土坑群は大別すると、北側調査区と西側調査区に広がる陥し穴状土坑群、南側調査区～北側調査区南側に広がるフラスコ状土坑群の２箇所となる。フラスコ状土坑群は、時期の判別ができないものを除くと、ほぼ縄文時代後期中葉に位置づけられる。２・３号竪穴住居跡と同時期の土坑はそれぞれ１基ずつのみであり、いずれも各竪穴住居跡に隣接している。これらの土坑は、自然流路以東には確認できず、すべて西側緩斜面地に向かって分布しているようである。また、北側調査区西端部から検出した１号土坑は縄文時代晩期初頭の土坑であり、周辺に点在する時期不明土坑との関連性は不明であるが、陥し穴状土坑群は晩期以前もしくはそれ以後に機能していたと想定される。

〈遺物包含層〉

２号竪穴住居上で確認した遺物包含層であるが、縄文時代中期後葉の土器を多く含む基本土層Ⅲ層

から形成される。２号竪穴住居跡の時期は、縄文時代後期中葉に位置しており、時期差に不可解な点が残る。これについては、包含していた土器の主体が縄文時代中期のものであり、縄文時代後期以降と見られる土器片も混在して出土しているため、明確な遺物包含層の堆積時期については縄文時代中期後葉～縄文時代後期頃であると想定する。

（3）小　　括

今回調査を行った新里愛宕裏遺跡は、主に縄文時代中期から後期にかけての集落遺跡、狩猟場と見られる。この遺跡を概観すると、猿ヶ石川が北流する比較的日当たりの良好な、丘陵地帯縁辺に広がる河岸段丘上に立地している。同時期の周辺の遺跡については、九重沢Ⅲ遺跡、栃洞遺跡等が点在しており、距離はあるものの、いずれの遺跡も同様の立地条件下にある。

本遺跡の主体となる、縄文時代後期にあたる遺構は、北側に向かって延びる緩斜面地に点在する。斜面の中段部には、２棟の竪穴住居が点在しており、この地点から更に南側の斜面地上にかけて、当該期のフラスコ状土坑が16基点在している。このフラスコ状土坑の数に対して、対応する竪穴住居が少なく遺物包含層が調査区西側に延びるため、調査区以西に住居群もしくは土坑群が点在する可能性が高い。本遺跡に隣接する遺跡については、調査が行われておらず、新里新滝遺跡、新里五器洗場遺跡、新里間木野遺跡等の遺跡が分布調査によって確認されているのみである。このため本遺跡の当該期の集落の景観等については不明な点が多い。また、縄文時代晩期～弥生時代初頭の土器が遺構外から出土しており、周辺にさらに新しい遺跡が点在する可能性も想定されるため、今後の調査成果を期待したい。

## 参考文献


【報告書】

岩渕　計ほか　2002 「上村遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第375集

北田　勲ほか　2014 「新田Ⅱ遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団文化財発掘調査報告書第622集

佐々木清文ほか　1986 「手代森遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書108集

佐藤浩彦ほか　2008「栃洞遺跡第3次・夫婦石袖高野遺跡第2次発掘調査報告書」 遠野市埋蔵文化財調査報告書第４集

佐藤浩彦　2005 「栃洞遺跡　個人住宅造成に伴う発掘調査報告書」 遠野市埋蔵文化財調査報告書第15集

高木　晃ほか　2012 「川目Ａ遺跡第５次発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書589集

濱田　宏　2012 「小屋野遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第596集

晴山雅光　2000 「大崎遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第345集

【文献・論文】

小田野哲憲　1987 「岩手の弥生式土器編年試論」『岩手県立博物館研究報告　第5号』 岩手県立博物館

小林圭一　2008 「瘤付土器」『総覧　縄文土器』 ㈱アム・プロモーション

鈴木克彦　1996 「東北地方における十腰内式土器様式の編年学的研究－十腰内2式土器の研究」『考古学雑誌』第81巻第4号

鈴木克彦　2001 『北日本の縄文時代後期土器編年の研究』雄山閣出版

鈴木克彦　2008 「宝ヶ峯式・手稲式土器」『総覧　縄文土器』 ㈱アム・プロモーション

関根達人　2005 「「十腰内Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ群土器」に関する今日的理解」『北奥の考古学』葛西勝先生還暦記念論文集刊行会

**第15表　竪穴住居跡・竪穴状遺構一覧**

| № | 遺構名 | 位　置 | 平面形 | 規模(m) | 深さ(m) | 主　軸 | 床面施設 | 図版 | 写真 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1号竪穴住居 | IB6q・6r・7q・7p | 円形(?) | (4.44)×(4.40) | 0.20 | － | 複式炉1<br>土坑1、柱穴9 | 10・11 | 8～11 |
| 2 | 2号竪穴住居 | IB13r | 円形(?) | (4.56)×(4.51) | 0.35 | － | 地床炉1<br>柱穴3 | 12 | 11～14 |
| 3 | 3号竪穴住居 | IB13t・13u<br>14t・14u | 不明 | (4.80)×(4.74) | 0.20 | － | 焼土1、柱穴2 | 13 | 14・15 |
| 4 | 1号竪穴状 | IB7～8k | 不明 | 東辺(5.10)<br>南辺(2.65) | 0.43 | － | 土坑1、柱穴2 | 49 | 48 |

(　)は推定値　<　>は残存値

**第16表　土坑一覧（1）**

| № | 遺構名 | 位　置 | 平面形 | 開口部(m) | 底　部(m) | 深さ(m) | 長軸(主軸) | 図版 | 写真 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1号土坑 | IB8h | 不整形 | (1.30)×1.24 | (1.44)×1.20 | 0.30 | － | 15 | 16 |
| 2 | 2号土坑 | IB7h | 楕円形 | 1.14×0.99 | 1.32×1.30 | 0.30 | N-36°-W | 15 | 17 |
| 3 | 3号土坑 | IB7h | 不整形 | (1.10)×0.98 | 1.30×(1.28) | 0.41 | N-14°-W | 15 | 17 |
| 4 | 4号土坑 | IB6h | 円形 | 1.30×1.28 | 1.26×1.18 | 0.13 | － | 15 | 17 |
| 5 | 5号土坑 | IB4j | 不明 | 1.40×(1.00) | 0.88×(0.30) | 0.50 | － | 15 | 17 |
| 6 | 6号土坑 | IB4 k | 円形 | 0.89×0.84 | 0.60×0.56 | 0.30 | － | 16 | 18 |
| 7 | 7号土坑 | IB11s | 楕円形 | 1.34×1.26 | 1.70×1.00 | 0.28 | N-12°-W | 16 | 18 |
| 8 | 8号土坑 | IB12s | 不整形 | 1.03×0.92 | 0.80×0.64 | 0.12 | N-83°-E | 16 | 18 |
| 9 | 9号土坑 | IB13s | 不整形 | 1.34×1.22 | 1.20×1.08 | 0.74 | N-13°-E | 16 | 18 |
| 10 | 10号土坑 | IB12u | 不整形 | 1.48×1.34 | 1.44×1.32 | 0.50 | N-39°-E | 16 | 19 |
| 11 | 11号土坑 | IB4s | 楕円形 | 1.52×1.24 | 1.18×0.98 | 0.39 | N-70°-E | 17 | 19 |
| 12 | 12号土坑 | IB13u | 円形 | 0.88×0.80 | 0.74×0.64 | 0.15 | － | 17 | 19 |
| 13 | 13号土坑 | IB14v | 楕円形 | 0.90×0.88 | 1.01×0.92 | 0.72 | N-29°-W | 17 | 19 |
| 14 | 14号土坑 | IB14w | 隅丸方形 | 0.94×0.90 | 1.48×1.40 | 0.56 | － | 17 | 20 |
| 15 | 15号土坑 | IB15u | 楕円形 | 1.58×1.11 | 1.38×1.32 | 0.68 | N-16°-W | 17 | 20 |
| 16 | 16号土坑 | IB16t | 円形 | 1.34×1.29 | 1.34×1.25 | 0.41 | － | 17 | 20 |
| 17 | 17号土坑 | IB15w | 不整形 | 1.07×1.07 | 0.85×0.80 | 0.27 | N-55°-W | 18 | 20 |
| 18 | 18号土坑 | IB17t | 円形 | 0.90×0.88 | 1.01×0.92 | 0.72 | － | 18 | 21 |
| 19 | 19号土坑 | IB16w・16x | 不整形 | 1.40×1.00 | 1.36×1.20 | 0.64 | － | 18 | 21 |
| 20 | 20号土坑 | IB16w・16x | 不整形 | 1.08×(0.68) | 0.98×(0.58) | 0.40 | － | 18 | 21 |
| 21 | 21号土坑 | IB16w・16x | 不整形 | 1.04×(0.56) | 0.70×(0.60) | (0.54) | － | 18 | 21 |
| 22 | 22号土坑 | IB20u | 不明 | 1.89×(1.50) | (1.54)×(1.30) | 0.54 | － | 18 | 22 |
| 23 | 23号土坑 | IB20v・20w | 不整形 | 1.10×1.04 | 1.54×1.44 | 0.72 | N-40°-E | 19 | 22 |
| 24 | 24号土坑 | IB20v・20w | 楕円形 | 1.40×(1.12) | 0.94×(0.90) | 0.20 | N-77°-W | 19 | 22 |
| 25 | 25号土坑 | IB19x | 円形 | 1.02×0.67 | 1.12×1.00 | 0.96 | － | 19 | 22 |
| 26 | 26号土坑 | IB20v～21v | 円形 | 1.56×1.52 | 1.53×1.40 | 1.10 | － | 19 | 23 |
| 27 | 27号土坑 | IB20w | 楕円形 | 1.44×1.10 | 1.00×0.91 | 0.58 | N-13°-W | 19 | 23 |
| 28 | 28号土坑 | IB20w | 楕円形 | 0.80×0.71 | 0.80×0.60 | 0.19 | N-10°-E | 20 | 23 |
| 29 | 29号土坑 | IB19y | 楕円形 | 1.60×1.30 | 1.80×1.74 | 1.00 | N-25°-E | 20 | 24 |
| 30 | 30号土坑 | IC19a | 円形 | 0.94×0.90 | 0.64×0.60 | 0.32 | － | 20 | 24 |
| 31 | 31号土坑 | IC19a | 円形 | 1.58×1.58 | 1.80×1.72 | 1.00 | － | 20 | 24 |
| 32 | 32号土坑 | IB21x | 楕円形 | 1.28×0.98 | 1.68×1.60 | 1.24 | N-31°-E | 20 | 24 |
| 33 | 33号土坑 | IB21w | 楕円形 | 1.18×1.10 | 1.40×1.18 | 0.72 | N-43°-W | 21 | － |
| 34 | 34号土坑 | IB21x | 楕円形 | 1.38×(1.05) | 1.54×1.12 | (0.50) | N-34°-W | 21 | 25 |
| 35 | 35号土坑 | IB21v～22v | 不整形 | 1.09×1.08 | 1.32×1.12 | 0.46 | N-55°-W | 21 | 25 |
| 36 | 36号土坑 | IB22w | 不整形 | 1.40×1.26 | 1.64×1.52 | 0.88 | N-3°-W | 21 | 25 |
| 37 | 37号土坑 | IC22・23a～22・23b | 楕円形 | 0.90×0.78 | 1.04×0.98 | 0.74 | N-52°-W | 21 | － |
| 38 | 38号土坑 | IA9j | 楕円形 | 1.47×1.33 | 1.30×1.06 | 0.14 | N-7°-E | 53 | 49 |
| 39 | 39号土坑 | IB10j～k | 円形 | 0.80×0.78 | 0.64×0.60 | 0.10 | － | 53 | 49 |

第17表　土坑一覧（2）

| No. | 遺構名 | 位　置 | 平面形 | 開口部(m) | 底　部(m) | 深さ(m) | 長軸(主軸) | 図版 | 写真 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 40 | 40号土坑 | IB7l～8l | 円形 | 0.92×0.90 | 0.82×0.78 | 0.14 | － | 53 | 49 |
| 41 | 41号土坑 | IB7n～8n | 円形 | 1.41×1.37 | 1.43×1.40 | 0.50 | － | 53 | 49 |
| 42 | 42号土坑 | IB8m～8n | 楕円形 | 1.06×0.93 | 0.96×0.72 | 0.20 | N-3°-E | 53 | 50 |
| 43 | 43号土坑 | IB7l | 円形 | 0.92×0.89 | 0.66×0.65 | 0.42 | － | 53 | 50 |
| 44 | 44号土坑 | IB8m～9m | 円形 | 0.84×0.81 | 0.79×0.76 | 0.30 | － | 54 | 50 |
| 45 | 45号土坑 | IB6m | 楕円形 | 1.26×1.18 | 0.92×0.56 | 0.39 | N-43°-W | 54 | 50 |
| 46 | 46号土坑 | IB7j・k～8j・k | 楕円形 | 1.14×1.04 | 0.87×0.82 | 0.44 | N-16°-E | 54 | 51 |
| 47 | 47号土坑 | IB14k | 楕円形 | 0.95×0.85 | 0.62×0.56 | 0.24 | N-29°-W | 54 | 51 |
| 48 | 48号土坑 | IB20r～s | 楕円形 | 1.22×1.15 | 0.98×0.86 | 0.38 | N-61°-W | 54 | 51 |
| 49 | 49号土坑 | IB18t | 不整形 | 1.10×0.96 | 1.01×0.83 | 0.34 | N-46°-E | 54 | 51 |
| 50 | 50号土坑 | IB17u～v | 楕円形 | 1.24×0.88 | 1.10×0.82 | 0.64 | N-37°-E | 55 | 52 |
| 51 | 51号土坑 | IB17x | 楕円形 | 0.72×0.66 | 0.53×0.47 | 0.90 | N-35°-W | 55 | 52 |
| 52 | 52号土坑 | IB16y | 楕円形 | 0.76×0.66 | 0.66×0.58 | 0.34 | N-69°-W | 55 | 52 |
| 53 | 53号土坑 | IB17y | 楕円形 | 1.03×0.93 | 0.88×0.78 | 0.27 | N-81°-E | 55 | 52 |
| 54 | 54号土坑 | IC16a～b | 円形 | 0.82×0.80 | 0.65×0.59 | 0.23 | － | 55 | 53 |
| 55 | 55号土坑 | IB16・17y～IC16・17a | 楕円形 | 1.10×0.92 | 1.14×1.02 | 1.18 | N-86°-E | 55 | 53 |

（　）は推定値　＜　＞は残存値

第18表　陥し穴状土坑一覧

| No. | 遺構名 | 位　置 | 平面形 | 開口部(m) | 底　部(m) | 深さ(m) | 長軸(主軸) | 図版 | 写真 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1号陥し穴 | IB8g・8h | 溝状 | (2.36)×0.68 | 2.20×0.38 | 0.90 | N-61°-W | 22 | 25 |
| 2 | 2号陥し穴 | IB7h | 溝状 | 2.80×1.02 | 2.38×0.18 | 0.80 | N-73°-W | 22 | 26 |
| 3 | 3号陥し穴 | IB5f | 溝状 | (1.86)×0.78 | 1.76×0.28 | 0.86 | N-71°-E | 22 | 26 |
| 4 | 4号陥し穴 | IB5h | 溝状 | 2.80×0.88 | 2.50×0.48 | 0.52 | N-44°-W | 22 | 26 |
| 5 | 5号陥し穴 | IB5j | 溝状 | 1.98×0.54 | 1.20×0.24 | 0.83 | N-57°-E | 23 | 26 |
| 6 | 6号陥し穴 | IB10j～k | 溝状 | 1.88×0.60 | 1.70×0.23 | 0.65 | N-69°-W | 56 | 53 |
| 7 | 7号陥し穴 | IB9k | 楕円形 | 1.85×0.93 | 1.48×0.40 | 0.98 | N-41°-W | 56 | 53 |
| 8 | 8号陥し穴 | IB8・9j～k | 溝状 | 2.04×0.80 | 1.66×0.30 | 0.81 | N-71°-W | 56 | 54 |
| 9 | 9号陥し穴 | IB8k～l | 溝状 | 2.02×0.75 | 1.78×0.29 | 0.71 | N-53°-W | 56 | 54 |
| 10 | 10号陥し穴 | IB18u | 溝状 | 2.20×0.54 | (0.96)×0.12 | 0.67 | N-23°-W | 57 | 54 |

（　）は推定値　＜　＞は残存値